

Syllabus

2025年度

国際医療福祉専門学校
救急救命学科

授業科目	救急医学概論	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	石塚 光宣	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者としての基本的概念を理解する。また、救急医療体制を理解する。		
行動目標	基本的概念を理解する。 救急活動の流れを理解する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	人間と人間生活		
	科学的思考の基礎		
	生命倫理と医の倫理		
	救急医療体制		
	災害医療体制		
	病院前医療体制		
	消防機関における救急活動の流れ		
	救急救命士の役割と責任		
	救急救命士と傷病者の関係		
	救急救命士に関連する法令		
	救急救命士の生涯教育		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P4～17、P218～275		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	総合演習 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	千葉 勉・鈴木 幸夫・笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	習得した技術、知識を活用しより円滑な連携を図り、総合的な判断・処置ができるよう養成する。		
行動目標	講義、実習で学んできた知識、術、連携の醸成を図る。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～22回目	シナリオ想定訓練		
	・出勤、感染防止、状況評価		
	・初期評価、観察、接遇、応急処置		
	・気道確保		
	・静脈路確保		
	・薬剤投与		
	・効率的かつ安全確実な搬送法の習得		
23回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	総合演習Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	3単位
授業形態	実習	必要時間数	135時間(68コマ)
担当教員	千葉 勉・鈴木 幸夫・笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	習得した技術、知識を活用しより円滑な連携を図り、総合的な判断・処置ができるよう養成する。		
行動目標	講義、実習で学んできた知識、技術、連携の醸成を図る。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～67回目	シナリオ想定訓練		
	・出勤、感染防止、状況評価		
	・初期評価、観察、接遇、応急処置		
	・気道確保		
	・静脈路確保		
	・薬剤投与		
	・効率的かつ安全確実な搬送法の習得		
68回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	救急用自動車同乗実習	履修年次	2年次
		単位数	4単位
授業形態	実習	必要時間数	180時間(90コマ)
担当教員	千葉 勉・鈴木 幸夫・笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践力を身につけ、医療従事者としての自覚と専任感を養う。		
行動目標	消防業務の一日の流れを体感することで、自分の進むべき道を明確なものとし、今後の学習に活かすことを目的とする。		
キーワード			
	スケジュール		
	オリエンテーション		
	学内授業		
	・訓練用救急車を利用しての想定訓練		
	学外授業		
	・各市町村の消防署へ実際に出向き救急車への同乗をさせてもらう。		
	→1名当たり2当直もしくは4日勤。		
評価方法	活動記録レポートを提出		
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	安全管理	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大園 雄一	オフィスアワー	
一般目標	医療に関わるリスクを管理するとともに患者および医療者の安全を確保できるようにする。		
行動目標	安全管理の目的を説明できる。 事故の発生におけるヒューマンエラーについて説明できる。 感染経路の種類を列挙し、それぞれについて説明できる。 ストレス、ストレス対応、ストレス障害、について説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	安全管理		
	リスクマネジメント		
	傷病者の事故		
	救急活動における事故の報告と対応		
	感染予防策と感染防御		
	洗浄と消毒		
	感染事故と事故後の対応		
	救急活動でのストレス		
	救急活動でのストレスへの対応		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P276～297		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	応急処置 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員	千葉 勉・鈴木 幸夫・笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	一般市民でも可能な応急手当の目的と意義を学び、その技術の習得を図る。		
行動目標	止血法、三角巾法、搬送法を習得する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～44回目	三角巾法(折り方、結び方、吊り方)		
	止血法(直接圧迫止血法、関節圧迫止血法、止血点止血法)		
	搬送法(従手搬送、簡易担架による搬送、布担架による搬送)		
	体位管理		
	怪我に対する応急手当		
	副子固定(上肢、下肢の保護および固定方法)		
	やけどに対する手当		
	まとめ		
45回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	応急処置Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員	千葉 勉・鈴木 幸夫・笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	救急で使用する資器材について、操作方法を学び観察要領を理解、習得する。		
行動目標	資器材の取扱い方法を習得する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～44回目	聴診器		
	ペンライト		
	血圧計		
	パルスオキシメーター		
	搬送器材		
	呼吸器		
	半自動式除細動器		
	十二誘導心電図		
	ショックパンツ		
	マジックギブス		
	ネックカラー		
45回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	解剖生理学 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	朽方 規喜	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるものになる知識を学習する。		
行動目標	<p>人体の構造と名称について説明できる。</p> <p>人体のつくりと役割を細胞、組織、臓器の概念から説明できる。</p> <p>神経系の構成と役割、機能、臓器に及ぼす作用等を説明できる。</p>		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	人体を構成する要素		
	体表からみる人体の構造		
	神経系・感覚系		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P56～62、P63～76、P77～96 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	解剖生理学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	朽方 規喜	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるものになる知識を学習する。		
行動目標	呼吸系の構造、機能、役割を説明できる。 循環系の構成と役割、脈管を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	呼吸系		
	循環系		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P97～107、P108～118 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	解剖生理学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	朽方 規喜	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるものになる知識を学習する。		
行動目標	消化系の役割を消化、吸収、排泄の観点から説明できる。 泌尿系の役割を排泄と体液のバランスを中心に説明できる。 生殖系の構造と役割を説明できる。 内分泌系、血液・免疫系の役割と機能について説明できる。 筋・骨格系、皮膚系の構造と機能について説明できる。 生命維持に必要な栄養素の役割とエネルギーが産生される過程について説明できる。 まとめ		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	消化系		
	泌尿系		
	生殖系		
	内分泌系		
	血液・免疫系		
	筋・骨格系		
	皮膚系		
	生命の維持		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P119～162 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	外傷 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士が現場に到着して判断できるように学習する。		
行動目標	外傷の定義、救急搬送における外傷の位置づけ、防ぎ得た外傷死、ロードアンドゴー・トラウマバイパスについて説明できる。 状況評価、初期評価の目的、評価項目を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	外傷の患者数、外傷による死亡		
	受傷機転とエネルギー		
	外傷の分類・主な受傷形態		
	侵襲への反応、外傷に伴うショック、外傷によるショックに対する輸液		
	外傷の現場活動、状況評価・傷病者の評価		
	頭部外傷		
	顔面・頸部外傷		
	脊椎・脊髄外傷		
	胸部外傷		
	腹部外傷		
	骨盤外傷		
	四肢外傷、小児・高齢者・妊婦の外傷		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P688～759		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	外傷Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士が現場に到着して判断できるように学習する。		
行動目標	<p>熱傷の原因と疫学的な特徴について説明できる。</p> <p>化学損傷の概念を述べることができる。</p> <p>哺乳類による主な咬症をあげ、それぞれの病態と合併症について説明できる。</p> <p>気道異物の種類と特徴を説明できる。</p>		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	熱傷		
	化学損傷		
	電撃症・雷撃症		
	縊頸・絞頸		
	刺咬症(傷)		
	異物		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P760～785 P808～811		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	環境障害と中毒	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見および予後等について理解し、観察、評価、処置を系統的に習得する。		
行動目標	問合せの多い中毒物質の種類を説明できる。 気道異物の種類と特徴を説明できる。 溺水の起因因子を説明できる。 熱中症の発生しやすい季節を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	中毒総論		
	中毒各論		
	溺水		
	熱中症		
	偶発性低体温症		
	放射線障害		
	その他の環境障害		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P788～807 P812～839		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急救命処置 I	履修年次	1年次
		単位数	3単位
授業形態	実習	必要時間数	135時間(68コマ)
担当教員	千葉 勉・鈴木 幸夫・笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	傷病者に対し安全かつ迅速に資器材を取り付け、バイタル観察およびモニタリングし、悪化の防止、苦痛の軽減をしつつ救命できる活動体制を構築を図る。		
行動目標	標準課程 I (隊連携活動要領)を身につける。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～67回目	効果的かつ確実な心肺蘇生法の習得		
	バイタルサインの観察と測定		
	異物除去(背部叩打、ハイムリック、喉頭展開)		
	気道確保と酸素投与		
	止血コントロール		
	三角巾による被覆、固定処置		
	状況に応じた体位管理と搬送方法の理解と習得		
	除細動		
	接遇およびインフォームドコンセント		
68回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	救急救命処置Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員	千葉 勉・鈴木 幸夫・笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	特定行為の中でも基本となるものであり、まずは手技を確固たるものとし、適応や禁忌を理解、習得する。		
行動目標	器具を用いた気道確保(挿管除く) 静脈路確保の手技を身につける		
キーワード			
スケジュール			
1回目～44回目	清潔操作		
	感染防護		
	特定行為指示要請、インフォードコンセント		
	チューブによる気道確保		
	静脈路確保		
	上記を習得しながらのシナリオ付与想定訓練		
	まとめ		
45回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	救急救命処置Ⅲ	履修年次	2年次
		単位数	3単位
授業形態	実習	必要時間数	135時間(68コマ)
担当教員	千葉 勉・鈴木 幸夫・笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	特定行為においてもより慎重な操作を的確に実践できる能力を身につける。		
行動目標	気管挿管の手技を身につける。 薬剤投与の手技を身につける。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～67回目	気管挿管に必要な医学知識		
	心肺停止に至る病態		
	気管挿管の手順		
	ディフィカルトエアウェイ		
	気管挿管後の人工呼吸措置		
	メディカルコントロール体制		
	薬剤投与に必要な医学知識		
	薬剤の保管、管理、取扱いの実態		
	薬剤投与の準備と実施		
	薬剤投与プロトコール		
	薬剤、注射器等の廃棄と安全管理		
68回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	救急処置概論 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	千葉 勉	オフィスアワー	
一般目標	救急処置における基本的概念を理解する。各種個別手技に対する基本的概念を理解する。		
行動目標	各種個別手技に対する基本的概念を理解できる。 各種個別手技に対する基本的概念を説明できる。 対象者の観察を通して、状況、状態を判断できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	観察		
	現場活動の基本		
	全身状態の観察		
	局所の観察		
	神経所見の観察		
	緊急度・重症度判断		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P300～343 JPTECガイドブック PEMECガイドブック		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急処置概論Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	千葉 勉・大園 雄一	オフィスアワー	
一般目標	救急処置における基本的概念を理解する。各種個別手技に対する基本的概念を理解する。		
行動目標	各種個別手技に対する基本的概念を理解できる。 各種個別手技に対する基本的概念を説明できる。 対象者の観察を通して、状況、状態を判断できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	資器材による観察		
	救急救命士が行う処置		
	救急蘇生法		
	在宅療法継続中の傷病者の処置		
	傷病者搬送		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P332～357、P368～382、P395～415、P419～428、P429～451		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻) 別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	心肺機能停止を理解し、心肺蘇生法を学習する。		
行動目標	<p>心肺停止の概念について説明できる。</p> <p>成人・小児・乳児の心肺蘇生法について具体的に説明できる。</p> <p>国内の院外心肺停止の疫学について要点を説明できる。</p>		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	成人の救急蘇生法		
	小児の救急蘇生法		
	乳児の救急蘇生法		
	心肺停止の総論		
	心肺停止に至る病態と原因		
	心電図分類		
	心肺蘇生中の循環		
	心肺再開後の病態		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P376～378 P419～428 P477～485 救急蘇生法の指針2015(市民用、解説編)		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	各種症候の病態生理について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、処置および搬送法に関する知識を系統的に習得する。		
行動目標	心不全の定義を説明できる。 ショックの定義を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	心不全総論		
	病態生理		
	心不全の症候		
	心不全の種類		
	ショック総論		
	循環血液量減少性ショック、心原性ショック、心外閉塞・拘束性ショック、血液分布異常性ショック		
	胸痛		
	動悸		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P458～462 P463～469 P522～528		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	澤地 紀子	オフィスアワー	
一般目標	呼吸不全、呼吸困難、喀血を理解するように学習することを目指す。		
行動目標	呼吸困難の定義を述べ性状を列挙できる。 喀血の定義を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	呼吸困難の定義・概念		
	呼吸困難の分類		
	呼吸困難の原因疾患		
	呼吸困難の随伴症候		
	呼吸困難の緊急度・重症度の判断		
	呼吸困難の現場活動		
	喀血の定義・概念		
	喀血の分類		
	喀血による影響		
	喀血の原因疾患		
	喀血の判別を要する病態		
	喀血の緊急度・重症度の判断、現場活動		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P511～518		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学Ⅳ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	島崎 栄二	オフィスアワー	
一般目標	重症脳障害、意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺、めまい、失神などの症状について理解する。		
行動目標	意識障害の概念について意識レベル、意識内容、意識の広さの面から説明できる。 痙攣、運動麻痺、めまいの定義が説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	重症脳障害		
	意識障害		
	頭痛		
	痙攣		
	運動麻痺		
	めまい		
	一過性意識消失と失神		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P470～476 P488～510 P519～521		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学Ⅴ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	症状に対する、適切な行動をとれるよう学習する。		
行動目標	<p>腹痛を痛みの発症機序によって3つに分類し、それぞれの機序について説明できる。</p> <p>吐血と下血の定義をそれぞれ説明できる。</p> <p>腰痛、背部痛の原因となる主な内臓疾患をあげ、それぞれの判断の手がかりについて要点を説明できる。</p>		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	腹痛		
	吐血・下血		
	腰痛・背部痛		
	体温上昇		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P529～544		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学Ⅵ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	千葉 勉	オフィスアワー	
一般目標	心肺停止前の静脈路確保と輸液、ブドウ糖投与について理解する。		
行動目標	心肺停止前の輸液、ブドウ糖投与について理解し、対応できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	総論		
	心電図分類		
	心拍再回復の病態		
	静脈路確保および輸液プロトコール		
	静脈路確保による合併症		
	血糖測定とブドウ糖溶液投与のプロトコール		
	ブドウ糖溶液投与による合併症		
	ブドウ糖溶液投与による病態		
	ブドウ糖溶液投与による変化		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P383～388 P392～394		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	公衆衛生	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	須釜 幸男	オフィスアワー	
一般目標	集団レベルでの健康の増進と疾患の予防を学ぶ。目標は、公衆衛生学的な考え方を身につけること。		
行動目標	<p>社会の中で、疾病と健康を保つための理論と実践を習得する。</p> <p>社会、疾病、障害と生活の関わり of 基礎的な概念を習得する。</p>		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	公衆衛生の仕組み		
	医療を取り巻く環境		
	医療供給体制		
	さまざまな保健衛生		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P20～39		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	国家試験対策	履修年次	2年次
		単位数	8単位
授業形態	講義	必要時間数	120時間(60コマ)
担当教員	千葉 勉・笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標			
行動目標	専門基礎分野、専門分野を理解する。		
キーワード			
スケジュール			
	模擬試験		
	模擬試験解説		
	補講		
	ワークシート作成		
評価方法			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂10版		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	国語	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	青井 眞吾	オフィスアワー	
一般目標	文学的素養を高め、医療人としての心の大切さを考える。		
行動目標	人間性を磨き、柔軟で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	日本の文学と歴史について		
	読解の基礎		
	古文や漢文の基礎的読解		
	近現代の文芸思想		
	実践的問題の習練		
	単語力、熟語力		
	構文力、文型の確認		
	長文読解のコツ		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書			
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	自然科学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	科学的、生物学的な自然観を身につける。		
行動目標	自然科学における「再現性」と「普遍性」の重要性を理解する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	生物を構成する物質、生体物質		
	身体内外の圧力		
	細胞、細胞分裂		
	電気、遺伝情報		
	人体の階層構造		
	生体防御機能と免疫、ホメオスタシス		
	成長と老化		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	楽しくわかる生物・科学・物理		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	神経系の救急疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要を説明できる。 呼吸器疾患の主要な症候をあげ、それぞれの概要を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	神経系疾患の総論		
	脳血管障害		
	中枢神経系の感染症		
	末梢神経疾患		
	その他の中枢神経疾患		
	呼吸系疾患の総論		
	上気道の疾患		
	下気道と肺胞の疾患		
	感染症		
	胸膜疾患		
	その他の呼吸系疾患		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P546～566		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	笈川 香織	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	循環系疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要説明できる。 急性腹症の概要を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	循環系疾患の総論		
	動脈硬化		
	虚血性心疾患		
	心筋疾患		
	心膜疾患		
	不整脈		
	心電図の観察		
	その他の心疾患		
	血管疾患・高血圧		
	消化系疾患総論		
	歯・口腔疾患		
	食道疾患、胃・十二指腸疾患、腸疾患、急性腹膜炎、肝臓・胆道・膵臓の疾患		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P567～596		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	泌尿・生殖系で重要な症候をあげ、それぞれ説明できる。 代謝・内分泌・栄養系疾患の主な症候を列挙できる。 血液・免疫系疾患の主な症候をあげ、それぞれについて概要を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	泌尿、生殖系疾患の総論		
	腎臓の疾患		
	尿路の疾患		
	女性生殖器の疾患		
	男性生殖器の疾患		
	代謝、内分泌、栄養系疾患の総論		
	糖尿病とその合併症		
	その他の代謝異常		
	内分泌疾患		
	栄養疾患		
	血液・免疫系疾患の総論		
	血液系疾患・免疫系疾患・アナフィラキシー		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P597～621		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急Ⅳ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	筋・骨格系疾患の救急医療における意義について説明できる。 現場活動で重要な皮疹をあげ、それぞれについて概要を説明できる。 眼の救急疾患で重要な症候をあげ、それぞれについて説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	筋・骨格系疾患の総論		
	脊椎疾患		
	関節疾患		
	筋疾患		
	皮膚系疾患の総論		
	皮膚、軟部組織の感染症		
	アレルギー性疾患		
	その他の皮膚疾患		
	眼・耳・鼻の疾患の総論		
	眼の疾患		
	耳の疾患		
	鼻の疾患		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P622～634		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急 V	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	中川 朝美・塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	正常な発育の目安を説明できる。 加齢による身体機能の変化について説明できる。 排卵から着床までの経過を簡単に説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	小児に特有な疾患の総論		
	観察と判断		
	主な疾患		
	高齢者に特有な疾患の総論		
	主な疾患		
	妊娠・分娩と救急疾患		
	正常妊娠		
	異常妊娠と妊娠中の異常		
	正常分娩・異常分娩・観察と処置		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P644～657 P658～664 P665～675		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急VI	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	新興感染症、再興感染症、輸入感染症、耐性菌について、それぞれ簡単に説明できる。 精神障害の原因、症状の両面から分類し、それぞれについて簡単に説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～8回目	感染症の総論		
	敗血症		
	結核		
	インフルエンザ		
	食中毒		
	輸入感染症		
	発疹性感染症		
	性感染症		
	皮膚・軟部組織の感染症、その他の感染症		
	精神障害の総論		
	主な精神障害		
	向精神薬の主な副作用		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P635～643 P676～686		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	社会学	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	河上 誠	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な社会的思考および教養を身につける。		
行動目標	日本社会のしくみの基礎を学び、原理、原則の理解を深める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	民主政治の基本原理		
	日本国憲法の基本的性格		
	日本国憲法と政治機構		
	現代の日本政治		
	現代の国際政治		
	経済社会の変容と現在経済のしくみ		
	経済活動と福祉の向上、国民経済と国際経済		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	理解しやすい政治・経済、上・中公務員一般知識まるごとチェック		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	社会保障・社会福祉	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	須釜 幸男	オフィスアワー	
一般目標	社会福祉は、一定の歴史的生成の発展を経て、それ自体の機能と目的をもって存在する一つの社会制度である。しかし、それはまた、さまざまな人々のニーズに対して行われる実践的な営みである。		
行動目標	社会保障の仕組みと費用について説明できる。 医療保障制度について説明できる。 介護保険制度について説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	社会保障とその仕組み		
	社会保険		
	社会福祉と公的扶助		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P40～52		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	人文学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	須釜 幸男	オフィスアワー	
一般目標	人文学的素養を高め、医療人としての心や教養の大切さを考える		
行動目標	人間性を養い柔軟かつ客観的判断力を培い主体的な実践力を身につける。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	古代ギリシャ、ヘルシズム哲学		
	近代ヨーロッパ哲学		
	現代ヨーロッパ哲学		
	三大宗教		
	中国儒教思想		
	江戸、明治思想		
	現代思想		
	古代・中世の歴史		
	近世・近代の歴史		
	現代の歴史		
	ヨーロッパの歴史		
	アジア・アフリカの歴史		
	アメリカ・ラテンアメリカの歴史		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書			
参考書・資料等	別刷りプリント		
履修上の注意			

授業科目	数学	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	小方 真	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。		
行動目標	数学の基礎を学び、原理、原則の理解を深める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	暗号		
	命題		
	発言からの推理問題		
	対応関係		
	試合の勝敗		
	順序関係		
	位置関係と方位		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	公務員試験(一般知能)対策講座		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	統計学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	小方 真	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。		
行動目標	統計の基礎を学び、原理、原則の理解を深める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	道順		
	操作の手順		
	平面図形の構成・分割		
	軌跡の問題		
	多面体・展開図		
	投影図		
	立体図面の構成・立体の切断		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	公務員試験(一般知能)対策講座		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	法医学・病理学 I	履修年次	1年次
		単位数	3単位
授業形態	講義	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	疾病および障害に関する知識を系統的に習得する。		
行動目標	疾患、細胞傷害、炎症、感染、循環障害の原因と病態を説明できる。 腫瘍とは何か、分類、身体的特徴について説明できる。 損傷の定義、治癒について説明できる。 死の概念、死体現象、判断基準について説明できる。 まとめ		
キーワード			
スケジュール			
1回目～22回目	疾患		
	細胞傷害		
	炎症		
	感染		
	循環障害		
	腫瘍		
	損傷と治癒		
	死		
	まとめ		
23回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P164～197		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	法医学・病理学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	河上 誠	オフィスアワー	
一般目標	疾病および障害に関する知識を系統的に習得する。		
行動目標	病因や病変、傷害、損傷、腫瘍などの疾病の基本を理解する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	法医学		
	病理学		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P164～197		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	薬物・検査	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本 淳智・松岡 隆	オフィスアワー	
一般目標	使用方法や対象者を理解する。検査の目的を理解し、治療方針を理解する。		
行動目標	薬物とは何かを説明できる。 薬物の代謝について説明できる。 薬物の投与経路による違いを説明できる。 検査の種類を列挙し説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	薬物総論		
	薬物の有害作用		
	救急救命処置に用いられる薬剤		
	注意を要する常用薬		
	重要な静脈内投与薬		
	検査の種類、緊急検査		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂10版 P200～214		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	臨床実習	履修年次	2年次
		単位数	5単位
授業形態	実習	必要時間数	225時間(113コマ)
担当教員	各病院における指導者	オフィスアワー	
一般目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践力を身につけ、医療従事者としての自覚と専任感を養う。		
行動目標	第三次救急医療機関において、習得した知識を的確かつ安全に応用できる実践力を身につける。		
キーワード			
スケジュール			
	学内において病院前研修の確認授業		
	バイタルサインの観察		
	身体所見の観察		
	モニター装着		
	酸素投与		
	胸骨圧迫		
	点滴ラインの準備		
	ナーシングケア		
	一人当たり7当直2日勤(180時間)		
評価方法	活動記録レポートを提出		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	論理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	小方 真	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。		
行動目標	論理の基礎を学び、原理、原則の理解を深める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	数的推理で使う計算の基礎		
	方程式・不等式		
	比・割合の問題		
	速さの問題およびその応用		
	倍数と約数		
	記数法		
	虫食い算		
	魔法陣		
	数列		
	場合の数		
	確率		
	平面図形(平行線・多角形)		
	平面図形(円)		
立体図形			
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	公務員試験(一般知能)対策講座		
参考書・資料等			
履修上の注意			

Syllabus

2024・2025年度

国際医療福祉専門学校
リハビリテーション学科
理学療法士コース

授業科目	生命倫理	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金8:30～17:20
一般目標	骨を通して一般的倫理観を理解していきます		
行動目標	一般的倫理観を身に付ける 医療人としての倫理を身に付ける		
キーワード	倫理		
スケジュール			
1回目	骨模型ならべ		
2回目	骨模型ならべ		
3回目	骨模型ならべ		
4回目	骨模型ならべ		
5回目	生命倫理とは		
6回目	生命倫理とは		
7回目	生命倫理とは		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、レポートにて判断します。		
教科書	特にありません		
参考書・資料等	特にありません		
履修上の注意	提出物などしっかりと期限内に提出をしましょう		

授業科目	プロフェッショナリズム	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	8:30~17:20
一般目標	プロフェッショナリズムを感じて専門職としての資質向上に努めてください。		
行動目標	必要な課題を自主的に発見できる 課題の重要性・必要性に応じて優先順位を決定できる 他者と協力して、課題の解決に向けた対処方法を見出すことができる 課題の解決に向けた対応に参画できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	必要な課題を自主的に発見/課題の重要性・必要性に応じて優先順位を決定		
2回目	他者と協力して、課題の解決に向けた対処方法を見出す/課題の解決に向けた対応に参画		
3回目	医療事故(アクシデント・インシデント)・院内感染について		
4回目	医療事故(インシデントを含む)が発生した場合の対応について		
5回目	医療の安全性を確保するための対応策/感染対策について		
6回目	医療現場における清潔・不潔の概念/キャリアパス, キャリア開発の概念		
7回目	個々のキャリアパスの検討/自らの卒業後のキャリアデザインを表現		
8回目	生涯にわたる自己研鑽の必要性/能力向上のために実施可能な学習方法		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	レポート課題(1回100点満点)		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	レポート課題の提出が遅れた場合は未提出とみなし留年対象となってしまいます。必ず提出期限内に提出をお願いします。		

授業科目	英語	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金曜日 9:00～17:00
一般目標	1. 医学、特にリハビリテーション場面で使われる英語を習得する。		
行動目標	1. 身体各部の英語の名称が理解できる。 2. 医療現場で用いられる機器等の名称が英語で理解できる。 3. セラピストが使う用語や略語が理解できる。 4. 医師によるカルテなど、英語で書かれた記録から情報を得られる。		
キーワード	英語 セラピスト 専門用語		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション・「骨」関連用語		
2回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語①		
3回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語②		
4回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語③		
5回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語④		
6回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑤		
7回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑥		
8回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑦		
9回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑧		
10回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑨		
11回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑩		
12回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑪		
13回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑫		
14回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑬		
15回目	まとめ		
評価方法	1. 小テスト、課題提出状況および内容にて総合的に評価します。		
教科書	なし		
参考書・資料等	1. 臨床実習用語集(配布資料)		
履修上の注意	1. タブレットを必ず持参してください。 2. 2回目以降、小テストを行います。 3. 毎回、提出課題があります。		

授業科目	情報処理	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	<p>情報化社会となった今、中高生からパソコンを使用しICTを有効に活用できることが当たり前となっている。また、臨床の現場においてもパソコンやタブレットPCでの管理が標準となってきている。この講義では、iPadを使用し一般的なパソコン操作やタブレット操作を学び、簡単な操作方法を身に付けることを目標とする。</p>		
行動目標	<p>iPadを使用して簡単な情報処理を行うことができる。 文章を作成するのにICT機器を有効活用することができる。 統計処理という概念を理解することができる。</p>		
キーワード	iPad, 情報処理, パソコン, 統計処理, ICT		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション(ICT機器のセッティング)		
2回目	IT業界の歴史について		
3回目	ICT機器の使用について		
4回目	ICT機器の機能の確認		
5回目	文章のタイピング及びイラストの挿入等、紙面の体裁について		
6回目	統計処理について(意義、概念)		
7回目	統計処理について(方法ほか)1		
8回目	統計処理について(方法ほか)2		
9回目	統計処理について(方法ほか)3		
10回目	国家試験に出る統計処理		
11回目	課題作成1		
12回目	課題作成2		
13回目	プレゼンテーション1		
14回目	プレゼンテーション2		
15回目	まとめ		
評価方法	ICT機器にて課題を作成し提出されたデータで評価する。		
教科書	特に指定する教科書はないがパソコンやiPadの基本的な操作方法、パソコン、マイクロソフトOffice(Word、Excel、PowerPoint)に関する知識を身に付けておく必要がある。		
参考書・資料等	都度、配布します。		
履修上の注意	<p>授業はICT機器の操作と講義を並行して行う予定である。ICT機器を2回以上忘れた場合、授業態度不良とみなし減点する。また、使用するICT機器に関しては、必要なアプリ等は自宅でセットアップしておくことが望ましい。ICT機器の操作スキルに関しては個人によって差があるので、学生同士でフォローしながら円滑に授業を進めて行く。</p>		

授業科目	教育学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:30
一般目標	<p>作業療法士・理学療法士を取り巻く社会では、教育に携わる機会を挙げると暇がないのが実情である。よって本講では教育学の基礎知識を紹介しながら、教育学的思考の初歩を経験する場を提供する。内容は、作業療法士・理学療法士に必要なスキルを、講義・演習を通じて学びとクラスの親睦の深まりも追求したい。最終的には深い人間理解に根ざした教育観を養うことを目標とする。</p>		
行動目標	<p>「教えること」から「学ぶこと」への気づきが、ひいては患者教育へとつながることを理解する。そして、作業療法士・理学療法士の役割と教育の意義を理解できること。</p>		
キーワード	<p>教育 しつけ 方法論 古典 行動分析</p>		
スケジュール			
1回目	ガイダンス	教育学とは何か？ 目的と意義	ヒトにとっての学び
2回目		情報伝達とコミュニケーション(1)	その方法
3回目		情報伝達とコミュニケーション(2)	情報受発信力 討論・対話力(1)
4回目		情報受発信力 討論・対話力(2)	
5回目		古典から考える(1)	
6回目		古典から考える(2)	
7回目		古典から考える(3)	
8回目	Summary	オペラントの行動分析から考える	作業療法・理学療法への展望
評価方法	<p>原則として定期試験で評価する。ただし、場合によってはグループワーク等の受講取組態度を加味することがある。</p>		
教科書	<p>「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。</p>		
参考書・資料等	<p>参考図書：随時紹介します。</p>		
履修上の注意	<p>講義では毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら将来の自身の作業療法・理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。</p>		

授業科目	心理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	増子 遥華	オフィスアワー	
一般目標	作業療法士として、相手の身になってリハビリテーションを行う上での心理学の基礎知識を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の心の代表的な認知メカニズムについて説明できる ・心理学の基本的な概念について説明できる ・心理学の知識を日常生活に関連付けて考えることができる 		
キーワード	心の働き、しくみ		
スケジュール			
1回目	心理学とは 心理学の誕生と発展、研究方法		
2回目	感覚・知覚①		
3回目	感覚・知覚②		
4回目	注意・認知		
5回目	情動と動機づけ		
6回目	性格とパーソナリティ①		
7回目	性格とパーソナリティ②		
8回目	記憶と学習①		
9回目	記憶と学習②		
10回目	言語・概念		
11回目	思考		
12回目	知能		
13回目	発達① 乳児期・幼児期・児童期の発達		
14回目	発達② 青年期・成人期・老年期の発達		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	特になし		
参考書・資料等	<p>リハベリック 心理学・臨床心理学 第2版, 編集 内山靖・藤井浩美・立石雅子, 医歯薬出版株式会社 公認心理師現任者講習会テキスト 改訂版, 監修 一般財団法人日本心裡研修センター, 金剛出版 徹底図解心理学:カラー版, 編著者 青木紀久代・神宮英夫, 新星出版社</p>		
履修上の注意	理学療法士・作業療法士において、心理学は必須となります。しっかりと学習してください。		

授業科目	ボランティア論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	8:30~17:20
一般目標	施設などにボランティア体験に行くことで、専門職としての意識を身に着けるように頑張りましょう。		
行動目標	ボランティア体験を通して専門職としての意識を身に着けることができる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	ボランティア体験		
2回目	ボランティア体験		
3回目	ボランティア体験		
4回目	ボランティア体験		
5回目	ボランティア体験		
6回目	ボランティア体験		
7回目	ボランティア体験		
8回目	ボランティア体験		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	レポート課題(1回100点満点)		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	レポート課題の提出が遅れた場合は未提出とみなし留年対象となってしまいます。 必ず提出期限内に提出をお願いします。		

授業科目	保健体育	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法士に必要な身体的観点や運動感覚を身体で体感する。 様々な活動を通じ、心身の成長を促すとともに他者とのコミュニケーション能力を養う。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動を通じ、心身の成長を促す。 ・基本動作における身体の使い方を知る。 ・障がい者体験や基本的な福祉用具の使用体験を通して障がいを感じることができる。 ・他者と協力して行動する意義を知る。 		
キーワード	コミュニケーション、心身機能、健康、レクリエーション		
スケジュール			
1回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
2回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
3回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
4回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
5回目	オリエンテーションについて / 意識して身体を動かすということ。		
6回目	ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインを考えて(体験して)みよう。		
7回目	障害者体験をしてみよう。		
8回目	介助用具(福祉用具)を使ってみよう。		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度にて判断します。授業中の態度が不良(居眠り、無反応など)で注意を行った後も改善されない場合、減点する。		
教科書	講義中に資料を配布します。		
参考書・資料等	なし		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく楽しく元気よく、意欲的に取り組むこと。 ・怪我には注意すること。 		

授業科目	コミュニケーション論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	神崎美佳	オフィスアワー	8:30~17:20
一般目標	コミュニケーションを取ることは、リハビリテーションの場面で非常に必要となります。しっかりと理解し、コミュニケーションが取れるようにしましょう。		
行動目標	人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について説明できる 良好な人間関係を作る条件や要因を考察できる 他者の意見を傾聴できる 理解した結論に基づいた行動ができる 情報管理の必要性について説明できる 知り得た情報の発信, 記録, 保存に関して, 情報漏洩などのリスク管理ができる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について		
2回目	人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について		
3回目	良好な人間関係を作る条件や要因を考察		
4回目	良好な人間関係を作る条件や要因を考察		
5回目	他者の意見を傾聴		
6回目	理解した結論に基づいた行動		
7回目	情報管理の必要性について		
8回目	知り得た情報の発信, 記録, 保存に関して, 情報漏洩などのリスク管理		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	レポート課題(1回100点満点)		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	レポート課題の提出が遅れた場合は未提出とみなし留年対象となってしまいます。必ず提出期限内に提出をお願いします。		

授業科目	社会の理解	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦(社会学士)	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	<p>「社会」は、色々な意味を含んでいるが、自身の経験や常識(だけ)に基づき、「社会」についてを曖昧に理解しがちである。その「社会」を構成するのは、作業療法・理学療法の対象となる人間であり、帰属集団といえる。本講では、集団構成員の人間の一面を理解し、家族、地域社会、国家という社会集団について学習する。次いで、医療、作業療法・理学療法界を取り巻く諸課題を関連させて考えることができるようにすることを目標とする。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ●「社会」について多角的に理解するとともに、人間と社会の関連について認識を深める。 ●医療従事者としての社会との関わりについての豊かなイメージを培う。 		
キーワード	社会とは 家族 ジェンダー 自己と他者 アノミー		
	スケジュール		
1回目	ガイダンス～ イントロダクション——社会学とはどんな学問か？		
2回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 1)自己——「見る自分」と「見られる自分」		
3回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 2)家族とジェンダー		
4回目	相互作用——社会的ネットワーク 地域社会の変化と問題点(都市部と農村部)		
5回目	地域社会の変化と問題点(現代の都市型社会における地域問題)		
6回目	貧困と社会的排除(デュルケムによる)		
7回目	他者との関わり—教育の観点から		
8回目	まとめ		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・授業態度 ・演習取組状況を総合的に勘案し評価する。 		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	<p>参考図書: 以下は難しいですが興味があれば目を通してください。 E.デュルケム(著)、宮島 喬(翻訳) 『自殺論』(中公文庫) 他</p>		
履修上の注意	<p>講義・演習の進捗により予定変更ありえます。 医療が社会の中の行為、事業であることを意識したうえで、社会がつねに変化の中にあること、また、改良すべき問題点を生み出していることを意識してください。講義では毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら扱うテーマについて調べ、関心をもって講義に生かしてください。</p>		

授業科目	物理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	姉川 秀治	オフィスアワー	
一般目標	身近な力学現象(モノと運動)を、自分の言葉で捉え直して、自分自身の力学的自然観を創造する。		
行動目標	<p>運動の第1法則を自分の言葉で捉え直し、モノの存在について理解を深める。 運動の第1・第2法則を自分の言葉で捉え直し、運動概念の理解を深める。 運動の第2法則を捉え直し、因果論的説明が納得の形式であることを知る。 運動の第3法則を捉え直し、力がモノとモノとの相互作用であることを理解する。 力を図象化することで理解を深める。 練習問題は、すすんで取り組んで理解する。</p>		
キーワード	自分の言葉、捉え直し、モノ、運動、力		
スケジュール			
1回目	相対速度の考察から運動概念を揺さぶる 自然観の歴史を振り返る		
2回目	運動の第1法則 モノの存在と運動 多様な表現、モノの存在論		
3回目	速度、加速度の概念整理 $v \sim t$ グラフを使って運動学の初歩を整理		
4回目	運動の第2法則 外力と速度変化の因果関係 モノの世界の因果律		
5回目	力概念の整理と静力学の初歩 力のモーメント 浮力		
6回目	運動の第3法則 力は相互作用 モノの世界の言葉 モノの世界の関係論		
7回目	力を図示して運動の法則を振り返る 光について てこについて		
8回目	Energy(運動方程式積分型、Energy概念一般) 練習問題を中心に総復習		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	<p>筆記試験(100%) 力学的自然観についての自主提出レポート(最大15点の加点あり) ただし、最大点数は100点とする。</p>		
教科書	担当教員による描き下ろし資料「力学の世界へ」		
参考書・資料等			
履修上の注意	<p>特別な予備知識は不要だが、「言葉」にきちんと向き合うことが必要である。 テキストは、毎回持参する必要がある。</p>		

授業科目	解剖学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	火～木 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造と位置を知る。 基本構造や形態から基本的な運動機能を考える。		
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。		
キーワード	人体, 形態学, 三次元		
スケジュール			
1回目	第2章 解剖学総論、骨学:骨組織と骨格の構造		
2回目	第2章 骨格各論(上肢帯部)		
3回目	第2章 骨格各論(上腕部と肘部)		
4回目	第2章 骨格各論(前腕部と手部)		
5回目	第2章 骨格各論(骨盤)		
6回目	第2章 骨格各論(大腿部と膝蓋骨)		
7回目	第2章 骨格各論(下腿部と足部)		
8回目	第2章 骨格各論(頭蓋骨の脳頭蓋)		
9回目	第2章 骨格各論(頭蓋骨の顔面頭蓋)		
10回目	第2章 骨格各論(頸部)		
11回目	第3章 関節と靭帯(骨の連結)		
12回目	第3章 関節と靭帯(関節の分類)		
13回目	第3章 関節と靭帯(関節靭帯各論 上肢)		
14回目	第3章 関節と靭帯(関節靭帯各論 下肢)		
15回目	第3章 関節と靭帯(関節靭帯各論 下肢)		
評価方法	期末試験および出席率 課題作成などその他状況による		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 機能解剖学的 触診技術 メディカル ビュー(上肢)、(下肢・体幹) 解剖学を学ぶための必須演習 全身骨学 学習サイドノート わかば出版		
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといふことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考え、構造や形態にも意味があるものとして捉える。 暗記する部分が多い科目だが、自身の体に置き換えて勉強し、疑問を見つけるつもりで学習することが重要である。		

授業科目	解剖学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	火～木 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造と位置を知る。 基本構造や形態から基本的な運動機能を考える。		
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。		
キーワード	人体, 形態学, 三次元		
スケジュール			
1回目	第4章 筋系(筋系総論)		
2回目	第4章 筋系(筋系各論) 上肢の筋-上肢帯の筋		
3回目	第4章 筋系(筋系各論) 上肢の筋-上腕の筋		
4回目	第4章 筋系(筋系各論) 上肢の筋-前腕屈曲の筋		
5回目	第4章 筋系(筋系各論) 上肢の筋-前腕伸展の筋		
6回目	第4章 筋系(筋系各論) 上肢の筋-手部の筋		
7回目	第4章 筋系(筋系各論) 下肢の筋-下肢帯の筋		
8回目	第4章 筋系(筋系各論) 下肢の筋-大腿部の前面の筋		
9回目	第4章 筋系(筋系各論) 下肢の筋-大腿部の後面の筋		
10回目	第4章 筋系(筋系各論) 下肢の筋-下腿部の筋		
11回目	第4章 筋系(筋系各論) 下肢の筋-足部の筋		
12回目	第4章 筋系(筋系各論) 体幹の筋-頭部の筋、四大咀嚼筋		
13回目	第4章 筋系(筋系各論) 体幹の筋-頭頸部の筋、舌骨上下筋群		
14回目	第4章 筋系(筋系各論) 体幹の筋-頸部および胸部の筋		
15回目	第4章 筋系(筋系各論) 体幹の筋-腹部及び背部の筋		
評価方法	期末試験および出席率 課題作成などその他状況による		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 機能解剖学的 触診技術 メディカル ビュー(上肢)、(下肢・体幹)		
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといふことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考え、構造や形態にも意味があるものとして捉える。 暗記する部分が多い科目だが、自身の体に置き換えて勉強し、疑問を見つけるつもりで学習することが重要である。		

授業科目	解剖学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間の機能について知る。		
行動目標	<p>体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 骨格の位置を確認し筋のはたらきをしる。 人体の働きより臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築しなおす。</p>		
キーワード	脊髄損傷, 発生機序, ADL指導		
スケジュール			
1回目	循環・血管系①		
2回目	循環・血管系②		
3回目	泌尿器系①		
4回目	泌尿器系②		
5回目	皮膚系①		
6回目	皮膚系②		
7回目	感覚器系①		
8回目	感覚器系②		
9回目	呼吸器系		
10回目	消化器系		
11回目	内分泌系		
12回目	骨の指標を知る1(頭頸・体幹部)		
13回目	骨の指標を知る2(上肢)		
14回目	骨の指標を知る3(下肢)		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度、試験、小テストなどを総合的にみて評価する。		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学		
参考書・資料等	<p>カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 解剖学カラーアトラス 第5版 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 基礎運動学 第6版 医歯薬出版</p>		
履修上の注意	<p>人体の正常な構造や形態を学ぶといふことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。</p>		

授業科目	生理学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	火～木 8:30～17:20
一般目標	人体の機能について日常生活と照らし合わせて考える。		
行動目標	<p>人体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 人体の働きを知り臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書や資料のイラスト、写真から必要なことを説明する。 人体内で起きている見えない現象を理解する。</p>		
キーワード	人体, 構造と機能, ホメオスタシス		
スケジュール			
1回目	第1章 解剖生理学のための基礎知識(構造からみた人体)		
2回目	第1章 解剖生理学のための基礎知識(素材からみた人体)①細胞の機能		
3回目	第1章 解剖生理学のための基礎知識(素材からみた人体)②細胞膜の働き		
4回目	第2章 栄養の消化と吸収(口腔・咽頭・食道)		
5回目	第2章 栄養の消化と吸収(腹部消化管の構造と機能)		
6回目	第2章 栄養の消化と吸収(膵臓・肝臓・胆能の構造と機能)		
7回目	第3章 呼吸と血液のはたらき(呼吸器の構造)		
8回目	第3章 呼吸と血液のはたらき(呼吸)		
9回目	第3章 呼吸と血液のはたらき(血液)①		
10回目	第3章 呼吸と血液のはたらき(血液)②		
11回目	第3章 呼吸と血液のはたらき(血液)③		
12回目	第4章 血液の循環とその調節(循環器の構成、心臓の構造)		
13回目	第4章 血液の循環とその調節(心臓の拍出機能)		
14回目	第4章 血液の循環とその調節(末梢循環系の構造)		
15回目	第4章 血液の循環とその調節(血液の循環の調節、リンパ管)		
評価方法	<p>単元末試験 出席率 その他(状況による)</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院		
参考書・資料等	<p>カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院</p>		
履修上の注意	<p>人体の構造(形態学・解剖学)と密接に関連するため、必要と思われる基礎医学の知識は常に復習しておく必要がある。 医学の基礎知識として重要なため、解剖学や運動学とともに常に振り返りことが重要となる。 疾患を紐解く上で重要な科目となる。そのため暗記ではなく、理解説明することを学習目標とすることが重要である。</p>		

授業科目	生理学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	火～木 8:30～17:20
一般目標	人体の機能について日常生活と照らし合わせて考える。		
行動目標	<p>人体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 人体の働きを知り臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書や資料のイラスト、写真から必要なことを説明する。 人体内で起きている見えない現象を理解する。</p>		
キーワード	人体, 機能, 日常の生活		
スケジュール			
1回目	第5章 体液の調節と尿の生成(腎臓の構造と機能)①		
2回目	第6章 体液の調節と尿の生成(腎臓の構造と機能)②		
3回目	第5章 体液の調節と尿の生成(排尿路と排尿調節)①		
4回目	第5章 体液の調節と尿の生成(排尿路と排尿調節)②		
5回目	第5章 体液の調節と尿の生成(体液の調節)		
6回目	第6章 内臓機能の調節(自律神経による調節)①		
7回目	第6章 内臓機能の調節(自律神経による調節)②		
8回目	第6章 内臓機能の調節(自律神経による調節)③		
9回目	第6章 内臓機能の調節(自律神経による調節)④		
10回目	第6章 内臓機能の調節(内分泌系による調節)①		
11回目	第6章 内臓機能の調節(内分泌系による調節)②		
12回目	第7章 身体の支持と運動(筋の収縮)①		
13回目	第7章 身体の支持と運動(筋の収縮)②		
14回目	第7章 身体の支持と運動(筋の収縮)③		
15回目	第7章 身体の支持と運動(筋の収縮)④		
評価方法	<p>期末試験および出席率 課題作成などその他状況による</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院		
参考書・資料等	<p>カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院</p>		
履修上の注意	<p>人体の構造(形態学・解剖学)と密接に関連するため、必要と思われる基礎医学の知識は常に復習しておく必要がある。 医学の基礎知識として重要なため、解剖学や運動学とともに常に振り返りことが重要となる。 疾患を紐解く上で重要な科目となる。そのため暗記ではなく、理解説明することを学習目標とすることが重要である。</p>		

授業科目	生理学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義、演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	実際の人体を五感で構築する。		
行動目標	授業で学んだ人体の基本的な働き(機能)を体験する。 実験を通して人体の働きの知識を身につける。 自己の体験をもとに人体の機能を理解する。 体内で起きている見えない現象を理解する。		
キーワード	神経系, 循環器系, 消化器系		
スケジュール			
1回目	身体の支持と運動(骨格筋)		
2回目	身体の支持と運動(骨)		
3回目	情報の受容と処理(神経系)1		
4回目	情報の受容と処理(神経系)2		
5回目	情報の受容と処理(末梢神経系)1		
6回目	情報の受容と処理(末梢神経系)2		
7回目	情報の受容と処理(中枢神経系)1		
8回目	情報の受容と処理(中枢神経系)2		
9回目	情報の受容と処理(体性感覚)		
10回目	情報の受容と処理(特殊感覚)1		
11回目	情報の受容と処理(特殊感覚)2		
12回目	摂食・嚥下機能1		
13回目	摂食・嚥下機能2		
14回目	血液の演習1		
15回目	まとめ		
評価方法	レポート、授業態度及び出席率を総合的に評価する。		
教科書	プリントを配布		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学・生理学の知識を演習により体感するためより明確に理解できる。しかしながら、演習の意図や目的を判らないまま行うことはリスクを伴い、また、知識の構築にも繋がらないので前期で学習した内容を復習しておくことが大切である。 状況により項目が前後することがあります。		

授業科目	解剖学の真理	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	実際の人体を通して、自分の知識を再確認をしてください。		
行動目標	解剖学Ⅰ～Ⅲで学習した内容を実際の人体を通して確認できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	解剖学演習オリエンテーション		
2回目	解剖学演習オリエンテーション		
3回目	解剖見学演習		
4回目	解剖見学演習		
5回目	解剖学演習		
6回目	解剖学演習		
7回目	解剖学演習		
8回目	解剖学演習		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	解剖学演習を通じた筆記試験を実施(100点満点)		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	実際の人体に対し、倫理観を持って臨んでください。 物品として学校から配布されたガウン、グローブを忘れず持参し、必ず着用してください。		

授業科目	運動学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	西尾佑貴	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 理学療法と作業療法の基礎となる、体の運動はどのようにして活動しているのかを理解する。 各関節の物理的な動きと筋活動などの動作分析の基礎を理解する。 		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 動きの仕組みを学ぶ。 動きのもととなる運動法則を学ぶ。 各関節の動きに関係する関節の角度や筋の働きについて学ぶ。 		
キーワード	運動学、運動、モーメント、物理法則、運動法則、身体とてこ、関節構成		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 運動学とは 運動学の歴史		
2回目	運動学を学ぶための基礎知識 ①身体運動の面と軸、時間、速度、加速度		
3回目	運動学を学ぶための基礎知識 ②円運動、モーメント		
4回目	生体力学の基礎 ①<身体運動と力学、時間と空間>		
5回目	生体力学の基礎 ②<運動学的分析>		
6回目	生体力学の基礎 ③<筋力と重力>		
7回目	生体力学の基礎 ④<運動法則>		
8回目	生体力学の基礎 ⑤<仕事とエネルギー、骨と関節の運動>		
9回目	生体力学の基礎 ⑥<身体とてこ>		
10回目	関節の構成 ①肩関節、肘関節		
11回目	関節の構成 ②手関節、手指関節		
12回目	関節の構成 ③股関節、膝関節		
13回目	関節の構成 ④足関節、足指関節		
14回目	関節の構成 ⑤脊柱の関節、顎関節		
15回目	関節の構成 ⑥顔面と頭部		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。 		
教科書	1. 基礎運動学 第7版、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	<ol style="list-style-type: none"> 運動学テキスト、南江堂 15レクチャーシリーズ 運動学 中山書店 PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート、医歯薬出版株式会社 		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 非定期に小テストを実施します。 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 		

授業科目	運動学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	西尾佑貴	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の運動学的特徴をとらえ、身体運動の仕組みを理解する。 2. 正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につける。 		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢・下肢の運動学的特徴を説明できる。 2. 体幹の運動学的特徴を説明できる。 3. 顔面の運動学的特徴を説明できる。 4. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係を説明できる。 5. 運動学的特徴を踏まえて、動作分析に応用できる。 		
キーワード	四肢 体幹 顔面 顎 運動 構造 機能		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション・上肢帯		
2回目	上肢帯と肩関節の基本		
3回目	肩関節の運動		
4回目	肘関節の基本と運動		
5回目	手関節の基本と運動		
6回目	手指の関節の基本と運動		
7回目	下肢帯と股関節の基本		
8回目	股関節の運動		
9回目	膝関節の基本		
10回目	膝関節の運動		
11回目	胸郭の基本と運動		
12回目	体幹筋の基本と運動		
13回目	顔面筋の基本と運動 / 顎関節および摂食の基本と運動		
14回目	関節運動と筋活動の分析の基本		
15回目	運動学習理論 / まとめ		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。 		
教科書	1. 基礎運動学 第6版補訂, 中村隆一 齋藤宏 長崎浩, 医歯薬出版		
参考書・資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1. カラー版カパンジー機能解剖学 原著第6版 I上肢 II下肢 III脊椎・体幹・頭部, A.I.Kapandji, 医歯薬出版 2. 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版, Donald A. Neumann, 医歯薬出版 3. 消って忘れない運動学要点整理ノート, 福井 勉ほか, 羊土社 		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 		

授業科目	運動学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	西尾佑貴	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動に関わる栄養およびエネルギーの生産やその仕組みについて理解する。 2. 運動に関わる神経の働きについて理解する。 3. スポーツに関連する運動に関する基本と運動障害の予防について理解する。 		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動に関わる栄養およびエネルギーの生産やその仕組みについて説明できる。 2. 運動に関わる神経の働きについて説明できる。 3. 運動とスポーツに関する基本を説明できる。 4. 運動に関わる諸検査値をチェックし、異常値を認識できる。 		
キーワード	運動エネルギー 代謝 神経支配 ホルモン 酵素		
	スケジュール		
1回目	運動エネルギー源としてのタンパク質とその代謝について		
2回目	運動エネルギー源としての脂質とその代謝について		
3回目	運動エネルギー源としての糖質とその代謝について		
4回目	運動に関連するホルモンと酵素の働き		
5回目	基礎代謝とエネルギー代謝および呼吸商について		
6回目	運動に関わる神経系の基礎		
7回目	上肢の筋とその支配神経		
8回目	下肢の筋とその支配神経/体幹の筋とその支配神経		
9回目	スポーツと運動		
10回目	活動(運動)を実行する上で必要となる姿勢制御・運動制御の理論的背景について		
11回目	随意運動の制御システムについて		
12回目	運動学習理論について		
13回目	運動学習理論について		
14回目	運動学習の過程とそのモデルについて		
15回目	運動学習の過程とそのモデルについて		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎運動学 第6版補訂, 中村隆一他, 医歯薬出版 2. 生化学・栄養学, 内山靖他, 医歯薬出版 		
参考書・資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシング・グラフィカ 病態生理学 疾病の成り立ち①, メディカ出版 2. 病態栄養専門 管理栄養士のための病態栄養ガイドブック 6版, 日本栄養病態学会, 南江堂 		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 		

授業科目	臨床運動学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	西尾佑貴	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 姿勢と正常な動作を理解する。 2. 正常な諸動作の分析方法を理解する。 3. 正常歩行とその分析方法を理解する。 		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 姿勢と正常な動作を学ぶ。 2. 正常な諸動作の分析方法を学ぶ。 3. 正常歩行とその分析方法を学ぶ。 		
キーワード	姿勢 動作 動作分析 歩行分析		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション／重心、身体重心位置、支持基底面、COGの求め方、関節および歩行モーメント		
2回目	立位保持、静止立位と重心動揺、静止立位におけるモーメント		
3回目	寝返り動作の分析		
4回目	起き上がり動作の分析		
5回目	立ち上がり動作の分析		
6回目	正常歩行の分析基礎 ①歩行周期		
7回目	正常歩行の分析基礎 ②歩行周期と各関節角度		
8回目	正常歩行の分析基礎 ③歩行周期と下肢筋の収縮		
9回目	正常歩行の分析基礎 ④時間距離因子		
10回目	正常歩行の分析基礎 ③足部ロッカー		
11回目	基本動作の発達過程について		
12回目	基本動作の発達過程について		
13回目	基本動作のメカニズムについて		
14回目	基本動作のメカニズムについて		
15回目	まとめ		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上上げた日、もしくは既定の試験期間に行います。 		
教科書	1. 基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 姿勢・動作・歩行分析、臨床歩行分析研究会、羊土社 2. 標準理学療法学 臨床動作分析、医学書院 3. 消って忘れない 運動学要点整理ノート、羊土社 4. レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学、中山書店 5. 高齢者理学療法学テキスト、南江堂 		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 		

授業科目	基礎医学総論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	医学の基礎となる点を意識し学習をしてください		
行動目標	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて説明できる 活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連を説明できる 活動(行動)による精神・心理機能の変化について説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて		
2回目	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて		
3回目	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて		
4回目	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて		
5回目	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて		
6回目	活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連		
7回目	活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連		
8回目	活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連		
9回目	活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連		
10回目	活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連		
11回目	活動(行動)による精神・心理機能の変化について		
12回目	活動(行動)による精神・心理機能の変化について		
13回目	活動(行動)による精神・心理機能の変化について		
14回目	活動(行動)による精神・心理機能の変化について		
15回目	活動(行動)による精神・心理機能の変化について		
評価方法	レポート課題(1回100点満点)		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	レポート課題の提出が遅れた場合は未提出とみなし留年対象となってしまいます。 必ず提出期限内に提出をお願いします。		

授業科目	人間発達学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間は母胎内から発達している。即ち、人間の一生は胎児から始まり、誕生を迎え、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期と障害発達することを理解することを本講義の目標とする。発達過程には生理的(身体・運動)にも、心理的にも発達する。これらの基本的な発達段階とその特性を中心に講義を通して学んでいく。		
行動目標	生涯発達の観点から、胎児期・新生児期・乳幼児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期以降から老年期にかけて標準的な発達を理解し、それぞれの特徴を説明できる。また、各ライフステージを通じた人間理解の為、それぞれの発達過程を学ぶ。 ①発達概念・理論について理解する。 ⑤上肢機能(つまみ・把持)の発達過程を理解する。 ②人間発達における各種検査について理解する。 ⑥感覚機能(感覚・知覚・認知)の発達過程を理解する。 ③原始反射・反応のメカニズム及び過程を理解する。 ⑦学童～老年期の発達過程を理解する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	受精のメカニズムについて		
2回目	胎児の発達過程での機能・形態的变化について		
3回目	乳・幼児期における運動発達・精神発達・言語発達について		
4回目	小児期における運動発達・精神発達・言語発達について		
5回目	青年期における身体構造・生理機能の変化について		
6回目	青年期に生じる心理・社会的変化について		
7回目	成人期における身体構造の変化について		
8回目	成人期における生理機能の変化について		
9回目	成人期に生じる心理・社会的変化について		
10回目	老年期における身体構造の変化について		
11回目	老年期における生理機能の変化について		
12回目	老年期に生じる心理・社会的変化について		
13回目	第1次性徴・第2次性徴について		
14回目	発達過程における性差について		
15回目	ライフイベントの性差について		
評価方法	定期試験にて単位認定を行う。		
教科書	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 医歯薬出版		
参考書・資料等	<資料> 講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書> 随時、紹介する。		
履修上の注意	理学・作業療法士が関わる発達領域における入口となる講義となる。 解剖学・生理学・運動学などで学習することに関連付け、人間の発達過程について理解を深めるように努めたい。 学修する範囲が広く、予習・復習を心掛けていただきたい。		

授業科目	病理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本淳智	オフィスアワー	
一般目標	専門職としての基礎知識を習得し、正しい理学療法を行えるようになるために、病気の成り立ちと臨床的特徴を理解する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の正常な構造及び機能を理解する 2. 疾病の原因と臨床症状の因果関係を理解する 3. 疾病の際にその臓器や器官に生じる肉眼的及び組織学的変化を理解する 4. 疾病に対する予防や治療に関する知識を習得する 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	細胞損傷と組織損傷について・壊死とアポトーシスについて		
2回目	傷害組織の修復過程ならびに再生過程について		
3回目	炎症の定義・意義・炎症反応のメカニズムについて		
4回目	感染症の分類・感染経路・感染の予防について		
5回目	呼吸器障害(拘束性, 閉塞性, 混合性)の違いとそれぞれの病因・病態について		
6回目	低酸素血症および高炭酸ガス血症の病因・病態について		
7回目	酸塩基平衡障害(アルカローシス, アシドーシス)の病因・病態について		
8回目	血行障害(虚血, 充血, うっ血, 出血)の違いとそれぞれの病因・病態について		
9回目	血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について		
10回目	糖代謝異常の病因・病態ならびにタンパク質・アミノ酸代謝異常の病因・病態について		
11回目	脂質代謝異常の病因・病態また無機質代謝異常の病因・病態について		
12回目	腫瘍の病因について		
13回目	腫瘍の分類, グレード, ステージ・浸潤・転移・自立性増殖などについて		
14回目	廃用症候群の病因・廃用症候群の分類について		
15回目	代表的な廃用症候群(褥瘡, 関節拘縮, 筋萎縮など)の病態について		
評価方法	授業態度(出席回数含む) 定期試験		
教科書	系統看護学講座 病理学 医学書院		
参考書・資料等	授業資料は都度配布		
履修上の注意			

授業科目	薬理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	五郎丸 美智子	オフィスアワー	
一般目標	薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の使用目的を説明できる ・薬の主作用、副作用、毒性の関係を説明できる ・代表的な疾患の治療薬を列記できる ・代表的な疾患の治療薬について作用機序を説明できる 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	総論 薬の基本について例をあげて学ぶ		
2回目	総論 薬の動態について学ぶ		
3回目	総論 薬効に影響する因子などについて例をあげて学ぶ		
4回目	感染症に対する代表的薬物を学ぶ		
5回目	がんの仕組みを知り、関係の薬を学ぶ		
6回目	薬物の作用機序について		
7回目	薬物の投与方法について		
8回目	薬物の体内動態について		
9回目	運動器系疾患に対する薬物療法について		
10回目	神経系疾患に対する薬物療法について		
11回目	呼吸・循環器・代謝系疾患に対する薬物療法について		
12回目	その他の疾患に対する薬物療法について		
13回目	薬物の副作用について		
14回目	薬害について		
15回目	多剤服用(ポリファーマシー)症状について		
評価方法	筆記試験 小テスト 授業態度		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進3		
参考書・資料等	基礎医学シリーズ 目で見える薬理学入門第3版 vol.1-12 山崎 純一 原案監修 医学映像教育センター 今日の治療薬 2016、浦部 晶夫 他編、南江堂		
履修上の注意	薬物療法と理学療法、作業療法との関わり合いに留意して授業に臨むこと		

授業科目	医学概論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義(リモート)	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～木曜日 9:00～17:00
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 21世紀の医学について理解する。 各種疾患の概要や予防策などについて理解する。 		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 医学の歴史について学ぶ。 予防医学について学ぶ。 主要な疾患の予防策を中心に学ぶ。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	医学の歴史について		
2回目	メタボリックシンドロームおよび糖尿病の基本と予防		
3回目	高血圧症と脂質異常症の基本と予防		
4回目	心血管疾患の基本と予防		
5回目	脳卒中の基本と予防		
6回目	認知症の基本と予防		
7回目	ガンの基本と予防		
8回目	ロコモティブシンドロームおよびフレイル、サルコペニアの基本と予防		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 課題提出、授業への参加態度などを総合的に評価します。 		
教科書	なし		
参考書・資料等	<ol style="list-style-type: none"> コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論 改訂8版 中外医学社 21世紀の予防医学・公衆衛生: 社会・環境と健康 杏林書院 		
履修上の注意			

授業科目	栄養学	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金内 則子	オフィスアワー	授業の前後
一般目標	栄養学の基礎的な知識およびライフステージや傷病者の栄養について、チーム医療を担うための基本的な知識を備える。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の働きおよび消化吸収、代謝について理解する。 ・栄養スクリーニング、アセスメント、栄養ケアプランと評価について理解する。 		
キーワード	栄養学の基礎、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、栄養療法		
スケジュール			
1回目	リハビリテーションと栄養		
2回目	栄養学の基礎(糖質)		
3回目	栄養学の基礎(たんぱく質)		
4回目	栄養学の基礎(脂質)		
5回目	栄養素の消化と吸収		
6回目	エネルギー代謝		
7回目	ライフステージと栄養		
8回目	摂食嚥下機能と栄養		
9回目	栄養スクリーニング		
10回目	栄養アセスメント		
11回目	栄養ケアプラン(必要栄養量)		
12回目	栄養ケアプラン(栄養投与ルート)		
13回目	栄養ケアプラン(栄養投与内容)		
14回目	糖尿病の食事療法		
15回目	脳血管疾患の栄養管理・総括		
評価方法	筆記試験		
教科書	リハベーシック「生化学・栄養学」第2版 医歯薬出版		
参考書・資料等	<p><資料> 授業に必要な資料は随時配布する。</p> <p><参考書> 随時、紹介する。</p>		
履修上の注意	生理学、生化学、内科学等で学習することと関連づけ、理解を深めること。		

授業科目	救急救命医学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	千葉 勉	オフィスアワー	8:30~17:20
一般目標	高度化する医療ニーズに対応するため、観察力、判断力を養うとともに救急救命学の基礎を習得する。		
行動目標	救急医療体制について説明できる。 一次救命処置(心肺蘇生法・AED取扱方法)について説明及び実施ができる。 各種応急処置(三角巾等)について説明及び実施ができる。 患者の急変時への対応、観察要領について説明ができる。		
キーワード	心肺停止、一次救命処置		
スケジュール			
1回目	救急医療体制について(消防編)		
2回目	一次救命処置(心肺蘇生法・AEDの取扱い)		
3回目	一次救命処置(心肺蘇生法・AEDの取扱い)		
4回目	二次救命処置		
5回目	胸骨圧迫・AED取扱い(実習)		
6回目	三角巾の取扱要領(実習)		
7回目	症候群(意識低下, けいれん, 失神, めまい, 呼吸困難, 胸痛, 嘔気・嘔吐, 腹痛, 頭痛, 動機)について		
8回目	症候群(急性肺障害・急性呼吸促進症候群, 咽頭痛, 腰背部痛, 全身性炎症反応症候群)について		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	筆記試験(50点)及び実技試験(AIでの胸骨圧迫スコア)(50点)の合計100点 ※ただし、授業態度により減点あり		
教科書	特になし		
参考書・資料等	救急救命学科で作成した資料		
履修上の注意			

授業科目	精神医学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	小林 誠	オフィスアワー	
一般目標	専門職としての基礎知識を習得し、正しい作業療法を行えるようになるために、主な精神疾患の症状・診断・治療について理解する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科のリハビリテーションにおける臨床精神医学の役割を説明できる。 2. 日本における精神医療の現状を説明できる。 3. 精神疾患の病態について説明できる。 4. 精神疾患の治療について説明できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	疫学, 予後について		
2回目	病因, 症候について		
3回目	検査(画像・生理検査を含む), 診断, 治療について		
4回目	リハビリテーション医療について		
5回目	精神障害の一般的疾患について 器質性精神障害(症状性を含む)		
6回目	精神作用物質使用による精神および行動の障害		
7回目	統合失調症, 統合失調様障害および妄想性障害		
8回目	気分障害<感情障害>(躁うつ病, うつ病を含む)		
9回目	神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害		
10回目	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群(摂食障害, 非器質性睡眠障害を含む)		
11回目	成人のパーソナリティ<人格>および行動の障害		
12回目	精神遅滞(知的障害)		
13回目	心理的発達の障害(広汎性発達障害, 特異的発達障害を含む)		
14回目	児期及び青年期に通常発症する行動および情動の障害(注意欠如・多動性障害など)		
15回目	てんかん		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	上野武治編:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学第4版 医学書院 2015		
参考書・資料等	授業資料は都度、配布します。		
履修上の注意	理学・作業療法士は、精神科の患者さんに接する分野でも活躍しています。臨床症状的視点、社会適応的視点からみた各精神障害を理解できるよう学んでください。		

授業科目	臨床心理学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	心の動きに関する基礎知識や心理学的な人間理解および手掛かりとなる理論を学び、人が適応・成長するとは何かを考える。そして、心理検査、心理療法の基礎を学び、対人援助サービスを行うための心構えを身につける。		
行動目標	①心理学の歴史について説明できる。 ②防衛機制と転移・逆転移について説明できる。 ③学習・記憶・行動について説明できる。 ④児童・青年期心理について説明できる。 ⑤成人・高齢者心理について説明できる。 ⑥患者・対象者心理について説明できる。 ⑦臨床心理検査法について説明できる。 ⑧心理療法およびカウンセリングについて説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	ガイダンス 何故臨床心理学を学ぶ必要があるのか？ 臨床心理学とリハビリテーション		
2回目	知覚心理学 ・ 学習心理学		
3回目	発達と知能①乳児期・児童期		
4回目	発達と知能②思春期・青年期		
5回目	発達と知能③成人期・中年期・老年期		
6回目	防衛機制1		
7回目	防衛機制2		
8回目	心理アセスメントと心理検査		
9回目	臨床心理学の介入技法 ①認知行動療法		
10回目	臨床心理学の介入技法 ②催眠療法 精神分析療法 内観療法 絵画療法 箱庭療法 交流分析		
11回目	臨床心理学の介入技法 ③来談者中心療法 支持的精神療法 集団精神療法 森田療法		
12回目	小テスト		
13回目	フィードバック ・ フィードフォワード		
14回目	国家試験問題演習		
15回目	国家試験問題演習		
評価方法	筆記テスト80% 小テスト・成果物等 20%		
教科書	リハベーシック 心理学・臨床心理学 第2班		
参考書等	リハベーシック 心理学・臨床心理学 第2班		
履修上の注意			

授業科目	骨関節障害論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	西尾佑貴	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	1.骨関節障害および整形外科の一般的疾患について説明できる。		
行動目標	1.各疾患について疫学、予後、病因、症候について説明できる。 2.検査(画像・生理検査など)、診断、治療について説明できる。 3.リハビリテーション医療について説明できる。		
キーワード	骨関節障害、疫学、予後、病因、徴候、検査、診断、治療		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション クリニカルリーズニングとは 骨関節障害とは		
2回目	骨の構造のおさらいと修復過程		
3回目	変形性関節症		
4回目	外傷 骨折、脱臼、靭帯損傷		
5回目	・脊椎疾患		
6回目	・上肢疾患		
7回目	・下肢疾患		
8回目	スポーツ損傷		
9回目	切断		
10回目	骨粗鬆症		
11回目	関節リウマチとその近縁疾患		
12回目	骨端症・骨壊死性疾患		
13回目	感染症		
14回目	骨・軟部腫瘍		
15回目	運動器不安定症		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. 標準整形外科学 第17版 監修 田邊稔 他 医学書院		
参考書・資料等	必要に応じて順次配布します。		
履修上の注意	1. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 2. 広い単元なのでしっかりと「行動目標」を遂行できるようにしましょう。		

授業科目	疼痛医学論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	神崎 美佳	オフィスアワー	原則 月～金 8:30～17:20
一般目標	疼痛の疫学、予後について理解し、検査・診断・治療について説明できる 慢性疼痛について説明できる		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疼痛の疫学、予後について説明できる ・病因、症候について説明できる ・検査、診断、治療について説明できる ・リハビリテーション医療について説明できる ・疫学、予後について説明できる ・慢性疼痛の分類について説明できる 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	疼痛の定義・分類、疼痛と社会(疫学・医療経済・研究の歴史と倫理)		
2回目	疼痛の神経解剖及び神経生理学① 疼痛の伝達経路、疼痛の発生メカニズム		
3回目	疼痛の神経解剖及び神経生理学② 疼痛を抑制するシステム		
4回目	運動器の痛みのメカニズム ①筋痛 ②骨・関節痛		
5回目	運動器の痛みのメカニズム ③運動器の痛みとバイオメカニクス		
6回目	急性疼痛		
7回目	慢性痛疼痛 ①慢性一次性疼痛症候群		
8回目	慢性痛疼痛 ②慢性頸部痛・腰痛と変形性脊椎症、神経障害性疼痛		
9回目	慢性痛疼痛 ③凍結肩と腱板断裂、変形性関節症		
10回目	慢性痛疼痛 ④慢性術後・外傷後疼痛とCRPS		
11回目	疼痛評価 ①画像、神経機能評価		
12回目	疼痛評価 ②身体的機能評価、血液検査やその他の評価		
13回目	疼痛の治療 ①		
14回目	疼痛の治療 ②		
15回目	疼痛の治療 ③		
評価方法	授業態度、小テスト、筆記試験		
教科書	『疼痛医学』 医学書院		
参考書・資料等			
履修上の注意	実技を行う際には事前に連絡するので、実習着で臨むこと。		

授業科目	神経障害論		履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態	講義		必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	高杉 潤		オフィスアワー	金(12:10~17:00)
一般目標	脳・神経系の構造・機能を知り、理学療法の対象となる神経系疾患を中心に、臨床徴候とそのメカニズムを理解する。脳神経外科の対象となる疾患の病態、症候の特徴、各種検査を理解する。			
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の各病態と症候、外科的治療が理解できる。 ・脳神経系の各疾患に対する外科治療の概要を理解できる。 ・脳画像(CT・MRI)が読影でき、病巣や疾患を判別し、症状や機能障害を予測することができる。 			
キーワード	脳、神経系障害、脳外科			
スケジュール				
1・2・3回	4月11日(2・3・4限)	脳機能障害 神経学的症候(1)(2)(3) 感覚障害、運動麻痺、脳神経検査		
4・5・6回	4月18日(2・3・4限)	脳機能障害 神経心理学的症候(1)(2)(3) 失語・失行・失認		
7・8・9回	4月25日(2・3・4限)	脳画像読影の基礎(1)(2)(3)		
10・11・12回	5月9日(2・3・4限)	脳血管障害の基礎と臨床(1)(2)(3)		
13・14・15回	5月23日(2・3・4限)	脳頭部外傷と外科的治療(1)(2) 総括		
評価方法	筆記試験(100点)によって決定する。			
教科書	ジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション 第2版(羊土社)			
参考書・資料等	<p><資料> 授業に必要な資料は随時配布する。</p> <p><参考書> 随時、紹介する。</p>			
履修上の注意	神経系に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。			

授業科目	内部障害論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川 孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	国家試験、臨床で出会う内部障害論に対して理解を深め、説明できるようにする。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患について理解し、説明できる。 ・内分泌・代謝疾患について理解し、説明できる。 ・消化器疾患について理解し、説明できる。 ・腎・泌尿器疾患について理解し、説明できる。 ・生殖器疾患について理解し、説明できる。 ・血液疾患・自己免疫疾患について理解し、説明できる。 		
キーワード	消化管 循環器 内分泌 代謝 腎 泌尿器 免疫 アレルギー 血液 老年学		
	スケジュール		
1回目	呼吸器疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
2回目	呼吸器疾患の一般的な呼吸器疾患について 慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎、誤嚥性肺炎など		
3回目	循環器疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
4回目	循環器疾患の一般的な循環器疾患について 心臓疾患(心筋梗塞、狭心症)、大血管疾患(大動脈瘤、大動脈解離)、末梢動脈疾患		
5回目	内分泌・代謝疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
6回目	内分泌・代謝疾患の一般的な内分泌・代謝疾患について ホルモン機能亢進症、機能不全症、糖尿病、肥満症		
7回目	消化器疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
8回目	消化器疾患の一般的な消化器疾患について 肝炎、腫瘍		
9回目	腎・泌尿器疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
10回目	腎・泌尿器疾患の一般的な腎・泌尿器疾患について 腎不全、下部尿路疾患		
11回目	生殖器疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
12回目	生殖器疾患の一般的な生殖器疾患について 乳がん、子宮がん、卵巣がん、前立腺がん		
13回目	血液疾患・自己免疫疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
14回目	血液疾患・自己免疫疾患の一般的な血液疾患・自己免疫疾患について 貧血、膠原病		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験 小テスト 提出物 授業態度		
教科書	ビジュアルノート 第5版 メディックメディア		
参考書・資料等	適宜資料を配布します。		
履修上の注意	生理学で履修した内容を復習しつつ、内科学、老年学について学びます。必要に応じて、生理学の教科書、プリントを用意しておいてください。		

授業科目	臨床検査・画像診断学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	西尾佑貴	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	リハビリテーションを実施する上で、画像の評価から得られる情報は不可欠である。この授業では、各疾患における読影に繋がるよう、基本的な原理を理解するとともに、解剖学的位置関係を学ぶことを目標とする。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各検査・画像の原理について理解し、説明できるようになる 2. 実際の画像などを見て、解剖学的位置関係とすり合わせることができる 3. 正常と異常画像の比較ができる 		
キーワード	画像、検査、X線、CT、MRI、超音波エコー		
	スケジュール		
1回目	X線 画像評価の種類と技術		
2回目	放射線の定義と種類 各部位別の画像と留意点		
3回目	CT X線との違い 造影剤 読影 3DCT		
4回目	超音波(エコー)検査 原理と特徴 適応 ドップラー		
5回目	MRI 原理と撮影方法 読影		
6回目	核医学検査 シンチグラフィとPET		
7回目	血管造影と嚥下造影検査(VF)、内視鏡検査(VE)		
8回目	心電図、筋電図 から読み取れること		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。 		
教科書	1. 15レクチャーシリーズ 画像評価学 編集:石川朗 中山書店		
参考書・資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1. PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第3版 著:中島雅美 医歯薬出版株式会社 2. リハビリテーション医療に活かす画像のみかた 編集:水間正澄 南江堂 		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学の復習と共に、画像にて立体的に捉えられるように画像が見れるように整理してください。 2. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 		

授業科目	疾病と障害	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	神崎 美佳	オフィスアワー	原則 月～金 8:30～17:20
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・がん関連障害と臨床医学について学ぶ。また、がんの検査・診断・治療について学ぶことで、リハビリテーション医療の介入法について習得する。 ・熱傷について学ぶ。また、がんの検査・診断・治療について学ぶことで、リハビリテーション医療の介入法について習得する。 ・褥瘡・創傷について学ぶ。また、がんの検査・診断・治療について学ぶことで、リハビリテーション医療の介入法について習得する。 		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・がん関連障害と臨床医学、熱傷、褥瘡・創傷の疫学、予後について説明できる ・がん関連障害と臨床医学、熱傷、褥瘡・創傷の病因、症候について説明できる ・がん関連障害と臨床医学、熱傷、褥瘡・創傷の検査、診断、治療について説明できる ・がん関連障害と臨床医学、熱傷、褥瘡・創傷のリハビリテーション医療について説明できる ・がん関連障害の一般的疾患について説明できる 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	がんの基礎		
2回目	がんのリハビリテーション診療		
3回目	がんのリハビリテーション診療の実際 ①脳腫瘍、脊髄腫瘍		
4回目	がんのリハビリテーション診療の実際 ②肺がん、消化器がん		
5回目	がんのリハビリテーション診療の実際 ③乳がん、婦人科がん		
6回目	がんのリハビリテーション診療の実際 ④リンパ浮腫、転移性骨腫瘍		
7回目	がんの緩和ケア		
8回目	熱傷の疫学、病理、病態		
9回目	熱傷の分類、皮膚について		
10回目	熱傷の検査、診断、治療		
11回目	熱傷のリハビリテーション医療		
12回目	褥瘡・創傷の疫学、病理、病態		
13回目	褥瘡・創傷の分類、皮膚について		
14回目	褥瘡・創傷の検査、診断、治療		
15回目	褥瘡・創傷のリハビリテーション医療		
評価方法	授業態度、小テスト、筆記試験		
教科書	がんのリハビリテーション マニュアル 第2版 医学書院		
参考書・資料等	配布資料		
履修上の注意	実技を行う際には事前に連絡するので、実習着で臨むこと。		

授業科目	老年期障害	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川 孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士が携わる機会が多い老年期の障害についての知識や関わりについて理解する。		
行動目標	1.老年期に特徴である疫学および各分野の病態生理・疾患を理解し概説できる。 2.上記を踏まえ適切な介入内容を説明できる。		
キーワード	老年期 疫学 生活 評価 支援		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	老年期の病態生理・疾患の理解①		
3回目	老年期の病態生理・疾患の理解②		
4回目	老年期の病態生理・疾患の理解③		
5回目	老年期の病態生理・疾患の理解④		
6回目	老年期の病態生理・疾患の理解⑤		
7回目	老年期の病態生理・疾患の理解⑥		
8回目	老年期の病態生理・疾患の理解⑦		
9回目	老年期の病態生理・疾患の理解⑧		
10回目	老年期の病態生理・疾患の理解⑨		
11回目	老年期の病態生理・疾患の理解⑩		
12回目	老年期の病態生理・疾患の理解⑪		
13回目	老年期の病態生理・疾患の理解⑫		
14回目	老年期の病態生理・疾患の理解⑬		
15回目	まとめ		
評価方法	成績考査試験を参考に、学習意欲、学習態度および授業内容の把握・演習の取組などを総合して評価する。		
教科書	『老年医学への招待』南山堂		
参考書・資料等	適宜、紹介、配布する。		
履修上の注意	解剖・生理・運動学・病理学他の内容を発展した講義と演習となります。老年期の方は理学療法に関わる機会が多いため、しっかりと理解が必要である。日頃から基礎科目の内容に興味・関心をもって履修すること。		

授業科目	小児科学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	三沢 峰茂	オフィスアワー	
一般目標	小児期に生じる疾患及び障害の特徴をまとめ理解を深める。		
行動目標	小児疾患の徴候や評価内容を説明できる。 実技演習を通して運動学的に運動発達を見直し説明できる。 神経学的評価を説明し実施できる。 摂食嚥下機能を理解し、摂食嚥下障害リハビリテーションを理解する。 障害児に対する療育(リハビリテーション)の理解を深める 障害児を持つご両親ご家族支援について理解を深める		
キーワード			
スケジュール			
1回目	小児科学概論		
2回目	成長・発育、バイタルサイン		
3回目	胎児期の発生と成長		
4回目	脳の発達		
5回目	評価・診断		
6回目	反射検査: 腱反射、病的反射、原始反射、姿勢反射		
7回目	発達: 発達段階、		
8回目	腹臥位の運動発達		
9回目	背臥位の運動発達		
10回目	目と手の発達、社会性・コミュニケーションの発達		
11回目	小児期の疾患と障害		
12回目	小児整形外科疾患		
13回目	摂食・嚥下機能とその障害		
14回目	摂食嚥下リハビリテーション		
15回目	障害児の療育と家族支援		
評価方法	筆記試験		
教科書	特になし		
参考書・資料等	授業の中で適時紹介する		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

授業科目	社会保障論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦(第1種衛生管理者)	オフィスアワー	月～金曜日 9:00～17:00
一般目標	社会保障・福祉制度について歴史から現代の制度や仕組み・内容を理解する。		
行動目標	基礎的な知識の習得と、医療福祉従事者としての福祉国家に対する思考方法を養う。そのために、 1.多様な社会保障の仕組みや内容を説明できる。 2.患者や利用者に必要な社会保障制度について説明できる。		
キーワード	医療保険、介護保険、労働災害保険、生活保護法		
スケジュール			
1回目	社会保障の基本①		
2回目	社会保障の基本②		
3回目	医療保険制度①		
4回目	医療保険制度②		
5回目	医療保険制度③		
6回目	介護保険制度①		
7回目	介護保険制度②		
8回目	介護保険制度③		
9回目	介護保険制度④		
10回目	労働災害保険①		
11回目	労働災害保険②		
12回目	労働災害保険③		
13回目	生活保護①		
14回目	生活保護②		
15回目	まとめ		
評価方法	・定期試験 ・授業態度・演習取組状況を総合的に勘案し評価する。		
教科書	『わかりやすい 社会保障制度 改訂版』 ぎょうせい		
参考書・資料等	適宜、紹介、配布していく。		
履修上の注意	講義・演習の進捗により予定変更ありえます。 医療は社会保障制度での行為、事業であることを意識したうえで、社会の変化、また、改良すべき問題点に対応していることを意識してください。講義では毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら扱うテーマについて調べ、関心をもって講義に生かしてください。		

授業科目	理学療法概論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法概論を理解することでより理学療法士としての知識の幅を広げる。		
行動目標	<p>理学療法の定義, 理学療法とリハビリテーションの違いについて説明でき理学療法、理学療法学の学問的範囲ならびにその拡がりについて説明できる。また理学療法士としてのアイデンティティについて説明できる</p> <p>医療および理学療法を取りまく倫理的課題を把握できる</p> <p>理学療法士及び作業療法士法について説明でき、法令に基づく理学療法士のあり方について説明できる</p> <p>医師法, 保健師助産師看護師法との関係について説明でき、医業類似行為に属する職種との違いについて説明できる</p> <p>多職種連携における対立・葛藤・意見調整(コンフリクトマネジメント)について説明できる</p> <p>個人情報とは何かに、個人情報の漏洩防止策について説明できる等</p>		
キーワード	スケジュール		
1回目	理学療法の定義, 理学療法とリハビリテーションの違いについて		
2回目	理学療法、理学療法学の学問的範囲ならびにその拡がりについて		
3回目	理学療法士としてのアイデンティティについて		
4回目	医療および理学療法を取りまく倫理的課題		
5回目	理学療法士及び作業療法士法について、法令に基づく理学療法士のあり方について		
6回目	医師法, 保健師助産師看護師法との関係について、医業類似行為に属する職種との違いについて		
7回目	多職種連携における対立・葛藤・意見調整(コンフリクトマネジメント)について		
8回目	個人情報とは何かに、個人情報の漏洩防止策について		
9回目	コンプライアンスとは何か、コンプライアンス違反について		
10回目	医療広告ガイドラインならびに医療広告規制について		
11回目	良質な理学療法の提供に向けて質を保証することの必要性		
12回目	理学療法の質を保証するための具体的な方法		
13回目	理学療法実践と研究の関連についてと根拠となる研究成果と実践への活用例		
14回目	理学療法学における研究の必要性・意義		
15回目	医療および理学療法の歴史的な流れとその意味と理学療法士に求められるさまざまな役割, 法的義務について		
評価方法	定期試験、講義受講・参加態度を基準に総合判定する。		
教科書			
参考書・資料等	授業の中で適時紹介する		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

授業科目	リハビリテーション概論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	リハビリテーションが生まれた背景や語源の意味, リハビリテーションとは何かを理解できる。		
行動目標	リハビリテーション・作業療法の歴史を説明できる。 ノーマライゼーション・IL運動をする説明できる。 疾病・生活機能の概念と分類を説明できる。 作業療法の対象となる人々を説明できる。 多岐にわたる領域の作業療法を説明できる。		
キーワード	障がい者、全人間的復権、多職種連携		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	リハビリテーションと機能訓練の違い/医療・保険・社会福祉とリハビリテーションの関わり方		
3回目	リハビリテーション・マインド/廃用性症候群		
4回目	回復期リハビリテーション病棟/生活期リハビリテーション		
5回目	疾患と障害の関係/リハビリテーション科医		
6回目	理学療法と理学療法士/作業療法と作業療法士		
7回目	言語聴覚療法と言語聴覚士/リハビリテーション看護		
8回目	チーム医療/機能評価		
9回目	機能障害/能力低下(能力障害)		
10回目	歩行/装具		
11回目	義肢/車椅子		
12回目	リハビリテーションロボティクス/医療・社会福祉と法律		
13回目	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム		
14回目	まとめ		
15回目	まとめ		
評価方法	課題提出、レポートにて判断します。		
教科書	椿原彰夫:リハビリテーション総論 改訂4版 診断と治療社		
参考書・資料等	随時、資料を配布します。 中村隆一:入門リハビリテーション概論第7版 医歯薬出版 2009		
履修上の注意	リハビリテーション・理学・作業療法とは何か、どのような環境でどのようなことをするお仕事なのかを学びます 将来なりたい理学・作業療法士をイメージしながら一緒に勉強していきましょう。		

授業科目	保健福祉制度論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	保健福祉制度論を理解することでより専門職としての知識の幅を広げる。		
行動目標	疫学の必要性、疫学研究の種類、疫学統計結果の読み方について説明できる 統計用語、研究目的に応じた統計手法の選択について説明できる 代表的な統計手法の結果の読み方について説明できる サンプルサイズ、EBMのステップ、エビデンスレベルについて説明できる 診療ガイドラインとはどのようなものか、共有意思決定のあり方について説明できる 研究者倫理(オーサーシップ、研究不正を含む)、研究対象者に対する倫理的配慮について説明できる 利益相反、研究倫理審査、研究の意義、研究疑問・研究仮説、研究疑問に応じた研究デザインについて説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	疫学の必要性について		
2回目	疫学研究の種類について		
3回目	疫学統計結果の読み方について		
4回目	統計用語について		
5回目	研究目的に応じた統計手法の選択について		
6回目	代表的な統計手法(平均値の差の検定、分散分析、相関、回帰、二元表に基づく解析)の結果の読み		
7回目	サンプルサイズ、EBMのステップ、エビデンスレベルについて		
8回目	診療ガイドラインとはどのようなものかについて		
9回目	共有意思決定のあり方について		
10回目	研究者倫理(オーサーシップ、研究不正などを含む)について		
11回目	研究対象者に対する倫理的配慮について		
12回目	利益相反について		
13回目	研究倫理審査、研究の意義、研究疑問・研究仮説、研究疑問に応じた研究デザインについて		
14回目	研究疑問に基づき、先行研究を検索する		
15回目	先行研究を批判的に吟味する		
評価方法	定期試験、講義受講・参加態度を基準に総合判定する。		
教科書			
参考書・資料等	授業の中で適時紹介する		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

授業科目	基礎理学療法学Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士としての基礎となる知識を学習してください。		
行動目標	理学療法の概要・歴史・役割・過程について説明できる 「理学療法モデル」について説明できる 理学療法の職域について説明できる 各病期(急性期, 回復期, 生活期, 介護・終末期)における理学療法の意義や目的について説明できる 理学療法士の職能について説明できる 理学療法士の教育課程について説明できる 理学療法学としての研究について説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	理学療法の概要について		
2回目	理学療法の歴史について		
3回目	理学療法の役割について		
4回目	理学療法の過程について		
5回目	理学療法の過程について		
6回目	「理学療法モデル」について		
7回目	「理学療法モデル」について		
8回目	理学療法の職域について		
9回目	理学療法の職域について		
10回目	各病期(急性期, 回復期, 生活期, 介護・終末期)における理学療法の意義や目的について		
11回目	各病期(急性期, 回復期, 生活期, 介護・終末期)における理学療法の意義や目的について		
12回目	各病期(急性期, 回復期, 生活期, 介護・終末期)における理学療法の意義や目的について		
13回目	理学療法士の職能について		
14回目	理学療法士の教育課程について		
15回目	理学療法学としての研究について		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	ビジュアルレクチャー基礎理学療法学 大橋ゆかり編、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等			
履修上の注意	資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。しっかりと学習してください。		

授業科目	基礎理学療法学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士の治療の基礎となるところです。しっかりとした学習ができるようにしてください。		
行動目標	疼痛・筋緊張異常・関節可動域制限・筋力低下の病態・創傷, 靭帯損傷とそのメカニズムについて説明できる 骨損傷(骨折, 疲労骨折など)の病態とそのメカニズムについて説明できる 運動麻痺の病態とそのメカニズムについて説明できる 感覚異常の病態とそのメカニズムについて説明できる 平衡機能低下の病態とそのメカニズムについて説明できる 認知機能低下の病態とそのメカニズムについて説明できる		
キーワード	スケジュール		
1回目	疼痛の病態とそのメカニズムについて		
2回目	筋緊張異常の病態とそのメカニズムについて		
3回目	筋緊張異常の病態とそのメカニズムについて		
4回目	関節可動域制限の病態とそのメカニズムについて		
5回目	関節可動域制限の病態とそのメカニズムについて		
6回目	筋力低下の病態とそのメカニズムについて		
7回目	筋力低下の病態とそのメカニズムについて		
8回目	創傷, 靭帯損傷の病態とそのメカニズムについて		
9回目	創傷, 靭帯損傷の病態とそのメカニズムについて		
10回目	骨損傷(骨折, 疲労骨折など)の病態とそのメカニズムについて		
11回目	骨損傷(骨折, 疲労骨折など)の病態とそのメカニズムについて		
12回目	運動麻痺の病態とそのメカニズムについて		
13回目	感覚異常の病態とそのメカニズムについて		
14回目	平衡機能低下の病態とそのメカニズムについて		
15回目	認知機能低下の病態とそのメカニズムについて		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	ビジュアルレクチャー基礎理学療法学 大橋ゆかり編、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等			
履修上の注意	資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 しっかりと学習してください。		

授業科目	理学療法研究法	履修年次	3年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	田崎裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>必要な論文を検索できる。 論文の内容を理解することができる。 論文を第三者に分かりやすく伝えることができる。</p>		
行動目標	<p>研究論文に使用される専門用語や統計処理の意味がわかる。 必要な文献の検索しその方法を知る。 論文の構成と主旨を理解し、要約して説明することができる。</p>		
キーワード			
スケジュール			
1回目/2回目	研究法総論		
3回目/4回目	論文の紹介とその解説		
5回目/6回目	抄読会用レジュメの作成方法		
7回目/8回目	抄読会用プレゼンテーションの作成方法		
9回目/10回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
11回目/12回目	文献検索及び作成準備		
13回目/14回目	文献検索及び作成準備		
15回目/16回目	文献検索及び作成準備		
17回目/18回目	文献検索及び作成準備		
19回目/20回目	文献検索及び作成準備		
21回目/22回目	実験結果の分析1		
23回目/24回目	実験結果の分析2		
25回目/26回目	論文の作成1		
27回目/28回目	論文の発表1		
29回目/30回目	論文の発表2		
評価方法	プレゼンテーション(70%)およびレジュメ作成(30%)		
教科書	資料を配布		
参考書・資料等	最新 理学療法学講座 理学療法研究法 編著:対馬栄輝 医歯薬出版株式会社 はじめての研究法コ・メディカルの研究法入門 第2版 神陵文庫		
履修上の注意	<p>要点を整理して、聴衆に解りやすい表現(図や写真)を意識すること。 抄読の準備及び発表は個人ごとに行う。 下書きを忘れず全体の把握をすること。 各項目を理解し、解りやすく表現すること。 文章の意味を的確に伝えられるように説明の仕方を工夫すること。</p>		

授業科目	統合理学療法学	履修年次	3年次
		単位数	3単位
授業形態	講義	必要時間数	90時間(45コマ)
一般目標	卒業に向け、総合的な学習を行う。		
行動目標	模擬試験を通して、総合的知識の中で、不足している部分を見つけ復習につなげる。		
キーワード	総合学習、復習		
スケジュール			
1回目～3回目	模擬試験		
4回目～6回目	模擬試験		
7回目～9回目	解説		
10回目～12回目	解説		
13回目～15回目	模擬試験		
16回目～18回目	模擬試験		
19回目～21回目	解説		
22回目～24回目	解説		
25回目～27回目	模擬試験		
28回目～30回目	模擬試験		
31回目～33回目	解説		
34回目～36回目	解説		
37回目～39回目	模擬試験		
40回目～42回目	解説		
43回目～45回目	解説		
評価方法	復習を見つめる中での取り組み方		
教科書	特になし		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	理学療法管理学Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士にとって、管理することは多岐にわたります。しっかりと学習をしてください。		
行動目標	理学療法の実施とその対価(診療報酬・介護報酬など)について説明できる 理学療法の実施後の診療記録と書類管理(電子カルテなどを含む)について説明できる 理学療法の実施における他職種との業務調整(処方内容の確認、他職種への申し送り)について説明できる 理学療法の実施に関わるカンファレンスについて説明できる 理学療法機器の保守点検・安全管理について説明できる 理学療法機器の配置計画(職場環境デザインを含む)について説明できる 人事考課(職員採用・昇格審査など)、労務管理(勤務時間・休暇管理など)について説明できる		
キーワード	スケジュール		
1回目	理学療法の実施とその対価(診療報酬)について		
2回目	理学療法の実施とその対価(介護報酬など)について		
3回目	理学療法の実施後の診療記録と書類管理(電子カルテなどを含む)について		
4回目	理学療法の実施後の診療記録と書類管理(電子カルテなどを含む)について		
5回目	理学療法の実施における他職種との業務調整(処方内容の確認)について		
6回目	理学療法の実施における他職種との業務調整(処方内容の確認)について		
7回目	理学療法の実施における他職種との業務調整(他職種への申し送り)について		
8回目	理学療法の実施における他職種との業務調整(他職種への申し送り)について		
9回目	理学療法の実施に関わるカンファレンスについて		
10回目	理学療法機器の保守点検・安全管理について		
11回目	理学療法機器の配置計画(職場環境デザインを含む)について		
12回目	人事考課(職員採用)について		
13回目	人事考課(昇格審査など)について		
14回目	労務管理(勤務時間)について		
15回目	労務管理(休暇管理など)について		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上上げた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。しっかりと学習してください。		

授業科目	理学療法管理学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川 孝彦(第1種衛生管理者)	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士として従事するために必要な、管理・運営の基本、リスクマネジメント、コミュニケーションスキル等を学び、管理・運営についての知識を習得する。		
行動目標	理学療法部門の管理運営に必要な基礎的理論を理解する 医療機関の分類、職種、部門について説明できる チーム医療を遂行するために必要な基礎的知識を説明できる		
キーワード	理学療法管理 多職種連携 地域包括ケアシステム 組織運営マネジメント		
スケジュール			
1回目	理学療法管理学の源流		
2回目	病院の分類と組織		
3回目	専門職とチームケア		
4回目	社会保障のしくみ		
5回目	医療保険制度		
6回目	介護保険制度		
7回目	診療・介護報酬と収益構造		
8回目	保健・医療・介護・福祉の連携		
9回目	業務管理		
10回目	情報管理		
11回目	リスク管理		
12回目	感染症管理		
13回目	権利擁護と職業倫理		
14回目	教育管理		
15回目	理学療法士の政治・政策への関与		
評価方法	適宜、小テストを行います。また、演習成果物の内容・体裁、講義受講態度および演習の取組などを総合して評価する。再試験等を行わないので注意してください。		
教科書	“理学療法管理学Ⅰ” で使用した 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト理学療法管理学 中山書店		
参考書・資料等	配布資料		
履修上の注意	1年次、履修した“理学療法管理学Ⅰ”の内容を発展した講義と演習となります。医療制度や介護保険の知識は理学療法における業務及び管理に直結するため、しっかりと理解が必要である。日頃から医療や福祉に関する制度に興味を持ち、時事問題に関心をもって履修すること。		

授業科目	理学療法評価学Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	神崎 美佳・吉種 拳汰	オフィスアワー	原則 月～金 8:30～17:20
一般目標	評価とは何かを理解し、リハビリテーションを施行する上での必要性を説明できる。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法における「評価」とは、理学療法を実施するために必要な患者(対象者)の情報を収集し、それを統合・解釈・判断するという重要なプロセスである。 「評価」の意義と重要性について理解する 理学療法にの領域に関わらず実施すべき基本的な情報収集について学ぶ 理学療法評価構成要素および評価の進め方が理解できる 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション、理学療法評価の意義		
2回目	理学療法評価の目的		
3回目	理学療法評価の位置づけ		
4回目	評価の過程、手順		
5回目	理学療法評価と障害モデル		
6回目	理学療法評価の種類		
7回目	評価の構成要素および評価の進め方① 間接的情報収集(カルテ情報、他部門情報)		
8回目	評価の構成要素および評価の進め方① 間接的情報収集(X線・CT・MRI等の画像情報)		
9回目	評価の構成要素および評価の進め方② 直接的情報収集(面接)		
10回目	評価の構成要素および評価の進め方② 直接的情報収集(検査測定、動作観察、動作分析など)		
11回目	評価時期と目的		
12回目	評価の記録		
13回目	問題リストの整理の仕方、治療プログラムの立案		
14回目	評価環境、器具		
15回目	医療面接の実際		
評価方法	授業態度、小テスト、筆記試験		
教科書	標準理学療法講座 理学療法評価学 医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等			
履修上の注意	実技を行う際には事前に連絡するので、実習着で臨むこと。		

授業科目	理学療法評価技術論Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	神崎 美佳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法評価について、リハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義を理解し、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を行える技術を習得する。		
行動目標	臨床的思考過程のなかで理学療法評価の目的や意義を説明できる。 各検査において適切なオリエンテーションの展開ができる。 各検査において検査・測定器具を正しく取り扱い、適切な測定肢位を展開することができる。 各検査において検査・測定結果を正しい解釈することができる。 各検査において検査・測定の結果を説明することができる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション、バイタルサイン(血圧、脈拍、呼吸数など)		
2回目	バイタルサイン(血圧、脈拍、呼吸数など)		
3回目	機能形態測定(四肢長、周径)		
4回目	機能形態測定(四肢長、周径)		
5回目	疼痛検査		
6回目	疼痛検査		
7回目	反射		
8回目	反射		
9回目	知覚検査		
10回目	知覚検査		
11回目	筋緊張		
12回目	筋緊張		
13回目	バランス検査		
14回目	バランス検査		
15回目	協調性検査		
評価方法	筆記試験(50点)、実技試験(50点)に加えて授業参加態度および提出物等にて評価を行う。		
教科書	最新理学療法学講座 理学療法評価学 編著:望月 久 医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	必要に応じて随時配布		
履修上の注意	基本的に実技の講義になります。スクラブを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。実技に関しては反復して復習を行うこと。		

授業科目	理学療法評価技術総論Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	神崎美佳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法評価について、理学療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。		
行動目標	関節可動域制限の程度と関連要因を把握する評価が実施できる 筋力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目/2回目	関節可動域制限の程度と関連要因を把握する評価		
3回目/4回目	関節可動域制限の程度と関連要因を把握する評価		
5回目/6回目	関節可動域制限の程度と関連要因を把握する評価		
7回目/8回目	関節可動域制限の程度と関連要因を把握する評価		
9回目/10回目	関節可動域制限の程度と関連要因を把握する評価		
11回目/12回目	関節可動域制限の程度と関連要因を把握する評価		
13回目/14回目	筋力低下の程度と関連要因を把握する評価		
15回目/16回目	筋力低下の程度と関連要因を把握する評価		
17回目/18回目	筋力低下の程度と関連要因を把握する評価		
19回目/20回目	筋力低下の程度と関連要因を把握する評価		
21回目/22回目	筋力低下の程度と関連要因を把握する評価		
23回目	筋力低下の程度と関連要因を把握する評価		
評価方法	筆記試験(50点) 筆記試験は授業の最終回終了後の期末試験期間中に行う。 実技試験(50点)		
教科書	ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版, 著者 田崎義昭・斎藤佳雄, 南山堂		
参考書・資料等	理学療法評価学 改訂第6版, 著者 松澤正, 金原出版 中村利孝 松野丈夫 他著・「標準整形外科学 第14版」医学書院、2020年。		
履修上の注意			

授業科目	理学療法評価技術総論Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員	神崎美佳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法評価について、理学療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。		
行動目標	バイタルサイン(血圧, 脈拍, 呼吸数など), 機能形態計測(四肢長, 周径など)が確認できる 筋緊張異常の程度, 持久性低下の程度, 感覚異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる 疼痛(急性痛, 慢性疼痛)の程度と関連要因を把握する評価が実施できる 姿勢異常(臥位, 座位, 立位)の程度と関連要因を把握する評価が実施できる 運動能力低下, 動作能力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる 起居移動動作能力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる バランス・平衡機能低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる		
キーワード	スケジュール		
1回目/2回目	バイタルサイン(血圧, 脈拍, 呼吸数など)		
3回目/4回目	機能形態計測(四肢長, 周径など)		
5回目/6回目	機能形態計測(四肢長, 周径など)		
7回目/8回目	筋緊張異常の程度と関連要因を把握する評価		
9回目/10回目	持久性低下の程度と関連要因を把握する評価		
11回目/12回目	感覚異常の程度と関連要因を把握する評価		
13回目/14回目	疼痛(急性痛, 慢性疼痛)の程度と関連要因を把握する評価		
15回目/16回目	姿勢異常(臥位, 座位, 立位)の程度と関連要因を把握する評価		
17回目/18回目	運動能力低下, 動作能力低下の程度と関連要因を把握する評価		
19回目/20回目	起居移動動作能力低下の程度と関連要因を把握する評価		
21回目/22回目	バランス・平衡機能低下の程度と関連要因を把握する評価		
23回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(50点) 筆記試験は授業の最終回終了後の期末試験期間中に行う。 実技試験(50点)		
教科書	ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版, 著者 田崎義昭・斎藤佳雄, 南山堂		
参考書・資料等	理学療法評価学 改訂第6版, 著者 松澤正, 金原出版 中村利孝 松野丈夫 他著「標準整形外科学 第14版」医学書院、2020年。		
履修上の注意			

授業科目	理学療法評価学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	神崎 美佳	オフィスアワー	原則 月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>評価技術の向上と評価の意味を理解し、適切な評価ができる。 日常生活とは何かを理解し、リハビリテーションを施行する上での必要性を説明できる。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の意味を説明できる ・患者の状態に応じて、適切な評価ができる ・評価結果から問題点を考える事が出来る ・日常生活活動の概念が説明できる ・日常生活活動の範囲(セルフケア、生活関連動作、生活の質)が説明できる ・セルフケアを構成する主な動作を理解し説明できる ・日常生活に必要な身体動作を理解し説明できる ・日常生活動作の評価方法を理解し、評価が行える ・日常生活動作と障害や生活の質との関係を理解することができる ・移動補助具や支援機器について基本的な使用方法を理解し説明できる 		
キーワード	スケジュール		
1回目	評価の意味:バイタルサイン(血圧、脈拍、呼吸数など)、機能形態測定(四肢長、周径)		
2回目	評価の意味:疼痛検査		
3回目	評価の意味:反射、知覚検査		
4回目	評価の意味:筋緊張、バランス検査、協調性検査		
5回目	評価の意味:整形外科的検査①		
6回目	評価の意味:整形外科的検査②		
7回目	評価の意味:片麻痺機能検査		
8回目	日常生活動作とは何か。		
9回目	QOL、BADL、IADL、APDL		
10回目	ADLと障害 BIとFIM		
11回目	起居動作・移乗動作の基本①		
12回目	起居動作・移乗動作の基本②		
13回目	ADLを支援する機器:車椅子、杖・歩行補助具、福祉用具		
14回目	ADLの運動学的分析		
15回目	ICFとICIDH		
評価方法	授業態度、小テスト、筆記試験		
教科書	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版		
参考書・資料等			
履修上の注意	実技を行う際には事前に連絡するので、実習着で臨むこと。		

授業科目	理学療法技術総論Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法技術全般の基本的知識となります。		
行動目標	理学療法場面で起こりえる医療事故(インシデントを含む)やリスクを列挙できる 理学療法関連機器の安全点検・整備について説明できる 患者・対象者教育の必要性について説明できる 患者・対象者教育に必要なプロセスを説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	理学療法場面で起こりえる医療事故(インシデントを含む)やリスク		
2回目	理学療法場面で起こりえる医療事故(インシデントを含む)やリスク		
3回目	理学療法場面で起こりえる医療事故(インシデントを含む)やリスク		
4回目	理学療法関連機器の安全点検・整備について		
5回目	理学療法関連機器の安全点検・整備について		
6回目	理学療法関連機器の安全点検・整備について		
7回目	患者・対象者教育の必要性について		
8回目	患者・対象者教育の必要性について		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	図解 理学療法技術ガイド 第4版 石川 齊、武富由雄他編集 文光堂		
履修上の注意	資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 しっかりと学習してください。		

授業科目	理学療法技術総論Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法技術全般の基本的知識となります。		
行動目標	<p>患者・対象者教育実施時の留意点について説明できる</p> <p>セルフケアや自主練習の目的と必要性について説明できる</p> <p>疾患および機能不全に応じたリスクや注意事項などを説明できる</p> <p>患者・対象者の動機づけを引き出す為に必要なポイントを説明できる</p>		
キーワード			
スケジュール			
1回目	患者・対象者教育実施時の留意点について		
2回目	患者・対象者教育実施時の留意点について		
3回目	セルフケアや自主練習の目的と必要性について		
4回目	セルフケアや自主練習の目的と必要性について		
5回目	疾患および機能不全に応じたリスクや注意事項など		
6回目	疾患および機能不全に応じたリスクや注意事項など		
7回目	患者・対象者の動機づけを引き出す為に必要なポイント		
8回目	患者・対象者の動機づけを引き出す為に必要なポイント		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	<p>1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。</p> <p>2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。</p>		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。しっかりと学習してください。		

授業科目	運動療法学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	西尾佑貴	オフィスアワー	月～木曜日 9時～17時
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法について疾患別ではなく全体としての技術を理解して実施することができる 2. 評価技術ができる前提で、そのデータから問題点を考察し、運動療法の選択ができる 		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各評価より明らかになった問題点に対して実施する運動療法の原理を説明できる 2. 各評価より明らかになった問題点に対して運動療法を選択・実施することができる 3. 論文なども引用し、その効果について検証することができる 		
キーワード	運動療法、関節可動域制限、筋力低下、姿勢異常、起居動作		
スケジュール			
1回目	総論 オリエンテーション		
2回目	クリニカルリーズニング 臨床推論		
3回目	筋機能と運動療法		
4回目	筋機能と運動療法 実技		
5回目	関節可動性と運動療法		
6回目	関節可動性と運動療法 実技		
7回目	バランス機能と運動療法		
8回目	バランス機能と運動療法 実技		
9回目	中枢神経機能と運動療法		
10回目	中枢神経機能と運動療法 実技		
11回目	協調運動機能と運動療法		
12回目	協調運動機能と運動療法 実技		
13回目	基本動作と運動療法		
14回目	基本動作と運動療法 実技		
15回目	加齢による運動機能低下と運動療法 / セルフケア能力の低下と指導		
評価方法	1. レポート内容、授業への参加態度などを総合的に評価します。		
教科書	1. Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学 編集: 対馬栄輝 Medical View		
参考書・資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準理学療法学 運動療法学 総論 第5版 監修: 吉尾雅春 医学書院 2. 考える理学療法 評価から治療手技の選択 著: 丸山仁司 文光堂 3. マニュアルセラピーに対する クリニカルリーズニングのすべて 編著: Mark A Jones 協同医学書院 		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回授業の最後にリアクションシートの記入・提出をしてもらいます。 2. 授業への参加およびリアクションシートの内容、レポート提出と内容にて総合的に評価を行います。 		

授業科目	日常生活活動論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	神崎 美佳	オフィスアワー	原則 月～金 8:30～17:20
一般目標	日常生活とは何かを理解し、リハビリテーションを施行する上での必要性を説明できる。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動の概念が説明できる ・日常生活活動の範囲(セルフケア,生活関連動作,生活の質)が説明できる ・セルフケアを構成する主な動作を理解し説明できる ・日常生活に必要な身体動作を理解し説明できる ・日常生活動作の評価方法を理解し,評価が行える ・日常生活動作と障害や生活の質との関係を理解することができる ・移動補助具や支援機器について基本的な使用方法を理解し説明できる 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 日常生活動作とは何か。		
2回目	QOL、BADL、IADL、APDL		
3回目	ADLと障害 BIとFIM		
4回目	QOL評価		
5回目	小テスト、演習		
6回目	ADLを支援する機器① 車椅子		
7回目	ADLを支援する機器② 杖、補講補助具		
8回目	ADLを支援する機器③ 福祉用具		
9回目	小テスト、実技演習		
10回目	ADLの運動学的分析		
11回目	起居動作・移乗動作の基本		
12回目	起居動作・移乗動作の基本(実技)		
13回目	生活環境と家屋調査		
14回目	ICFとICIDH		
15回目	まとめ		
評価方法	授業態度、小テスト、筆記試験		
教科書	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版		
参考書・資料等	PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版 (羊土社)		
履修上の注意	実技を行う際には事前に連絡するので、実習着で臨むこと。		

授業科目	物理療法学 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	理学療法の一つとなる物理療法について理解し、実施できることを目指す。 (実際に実施することは別の単位となる)		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 物理療法の種類を説明できる ② 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の適応について説明できる ③ 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の禁忌について説明できる ④ 物理療法(温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 超音波療法, 電気刺激療法, 牽引療法)の実施方法について説明できる 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	総論、温熱療法		
2回目	超音波		
3回目	寒冷療法		
4回目	水治療法		
5回目	光線療法		
6回目	電気刺激療法		
7回目	牽引療法		
8回目	その他の治療法		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	物理療法、吉田 秀樹 編集、メジカルビュー社		
参考書・資料等	<p>イラストでわかる物理療法、杉元雅晴・菅原 仁 編、医歯薬出版株式会社</p> <p>エビデンスから身につける物理療法、庄本康治 編、羊土社</p> <p>物理療法学、烏野 大・川村博文 編、医歯薬出版株式会社</p> <p>物理療法学テキスト 改訂第3版、細田多穂 監修、南江堂</p>		
履修上の注意	後期には、前記で学習する物理療法を実際に体験します。この授業を通し理解を深め、実際に実践することができるように知識を高める必要があります。		

授業科目	物理療法学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	機器を安全に操作できるようになる。機器の特性を知る。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の操作に関して、リスク管理をする。 ・適応疾患を類別する。 ・禁忌事項を判断する。 ・治療を行える。 		
キーワード	適応・禁忌・リスク管理・物理的作用		
スケジュール			
1回目	物理療法器具の使用		
2回目	物理療法器具の使用		
3回目	物理療法器具の使用		
4回目	物理療法器具の使用		
5回目	物理療法器具の使用		
6回目	物理療法器具の使用		
7回目	物理療法器具の使用		
8回目	物理療法器具の使用		
9回目	物理療法器具の使用		
10回目	物理療法器具の使用		
11回目	物理療法器具の使用		
12回目	物理療法器具の使用		
13回目	物理療法器具の使用		
14回目	物理療法器具の使用		
15回目	物理療法器具の使用		
評価方法	グループ発表 実験への取り組み姿勢 出欠席		
教科書	物理療法学テキスト(南江堂)		
参考書・資料等			
履修上の注意	臨床で多用される知識・技術のため、各自が機器を扱えるように習得する必要がある。機器の特性や注意事項を再認識しておく。また、物理療法における必要知識として、解剖学・生理学の知識が重要となるので復習しておくこと。		

授業科目	義肢学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	豊田 輝	オフィスアワー	
一般目標	義肢の基本となる理論などを理解するとともに各切断に応じた義肢の名称・機能・適応について理解し、理学療法士・作業療法士として必要な評価および治療に必要な事項を習得する。		
行動目標	各切断高位に応じた義肢の特徴を説明できる。 切断者に対する評価の目的を説明できる。 切断者に対する評価を実施できる。 義足のアライメント調整ができる。 切断者に対するプログラムが立案できる。		
キーワード	切断者・義肢・アライメント		
スケジュール			
1回目	義肢学総論(歴史, 切断原因, 切断高位と切断術など)		
2回目	切断者の評価(全体的評価)		
3回目	断端管理法(目的, 利点と欠点など)		
4回目	大腿義足ソケット		
5回目	大腿義足ソケット		
6回目	膝義足		
7回目	膝継手・足継手		
8回目	大腿義足・膝義足アライメント		
9回目	下腿義足ソケット		
10回目	下腿義足ソケット		
11回目	サイム義足・足部義足		
12回目	下腿義足・サイム義足アライメント		
13回目	股義足ソケット・股義足アライメント		
14回目	切断者に対するプログラム		
15回目	上肢切断のリハビリテーション		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	義肢・装具学 ―異常とその対応がわかる動画付き、出版社名:羊土社、監修高田治実、編集豊田輝、石垣栄		
参考書・資料等			
履修上の注意	適宜、実技練習を行うことがあるため、実習ができる服装で受講すること。その他、「切断者の評価」コマでは、テープメジャー等を持参すること		

授業科目	装具学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	神崎 美佳	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	装具の使用目的や方法・注意点を理解し、使える。症例によって適切な装具を選択できる。		
行動目標	装具・各種部品の名称や特徴の理解 疾患別装具療法の理解 靴型装具や車椅子・杖の理解 装具の給付制度の理解		
キーワード	関節の動きと装具の役割・構成部品の役割・日常動作と装具の役割		
スケジュール			
1回目	装具学総論		
2回目	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト		
3回目	足継手の制御機構		
4回目	脳卒中片麻痺の装具		
5回目	脳卒中患者の装具療法の実際		
6回目	短下肢装具装着における歩行分析		
7回目	整形外科装具		
8回目	脊柱側弯症の装具、小児疾患の装具		
9回目	上肢装具～末梢神経障害・関節リウマチ等～①		
10回目	上肢装具～末梢神経障害・関節リウマチ等～②		
11回目	頸椎・胸腰椎疾患の装具		
12回目	対麻痺の装具		
13回目	車いす・杖・歩行器等		
14回目	靴型装具・義肢装具の給付制度		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題等を含む)、筆記試験を総合して判断します。		
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 単行本 羊土社		
参考書・資料等	適宜、配布します。		
履修上の注意	実際の装具を装着体験してもらうことがあります。数やサイズに限りがあるため、全員に装着してもらうことは難しいですが、動きやすい服装(私服で可)をお願いします。		

授業科目	運動器疾患の理学療法 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動器疾患に対する理学療法に必要な評価方法・臨床推論プロセス・運動療法の基礎・リスク管理方法を学び、臨床における適切な対応力を習得する。		
行動目標	骨関節疾患にかかる理学療法が実施できる 変形性関節症, 骨折, 脱臼, 靭帯損傷, 関節リウマチとその近縁疾患, スポーツ損傷・外傷, 脊椎疾患, 腰痛症, 肩関節周囲炎, 腱板損傷 骨関節疾患にかかる理学療法について説明できる スポーツ理学療法の概要と考え方について説明できる スポーツ活動支援における理学療法士の役割, 理学療法手技について説明できる 障がい者スポーツ支援の概要と考え方, 理学療法士の役割について説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	運動器疾患の理学療法とは		
2回目	骨関節疾患にかかる理学療法 変形性関節症		
3回目	骨折, 脱臼, 靭帯損傷		
4回目	関節リウマチとその近縁疾患		
5回目	スポーツ損傷・外傷		
6回目	脊椎疾患		
7回目	腰痛症		
8回目	肩関節周囲炎, 腱板損傷		
9回目	骨関節疾患にかかる理学療法について		
10回目	スポーツ理学療法の概要と考え方について		
11回目	スポーツ活動支援における理学療法士の役割について		
12回目	スポーツ活動支援における理学療法について		
13回目	障がい者スポーツ支援の概要と考え方について		
14回目	障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割について		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書	理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 I 第2版, 著 石川朗・河村廣幸, 中山書店 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 II 第2版, 著 石川朗・河村廣幸, 中山書店		
参考書・資料等	運動療法のための機能解剖学的触診技術・上肢 第2版 林典雄 メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診技術・下肢・体幹 第2版 林典雄 メジカルビュー社 整形外科運動療法ナビゲーション・上肢・体幹 第2版 整形外科リハビリテーション学会 メジカルビュー社 整形外科運動療法ナビゲーション・下肢 第2版 整形外科リハビリテーション学会 メジカルビュー社		
履修上の注意	解剖学・生理学・運動学・整形外科の知識に関してはある程度復習をしておいてください。		

授業科目	運動器疾患の理学療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	演習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動器疾患に対する理学療法に必要な評価方法・臨床推論プロセス・運動療法の基礎・リスク管理方法を学び、臨床における適切な対応力を習得する。		
行動目標	骨関節疾患にかかる理学療法が実施できる 変形性関節症, 骨折, 脱臼, 靭帯損傷, 関節リウマチとその近縁疾患, スポーツ損傷・外傷, 脊椎疾患, 腰痛症, 肩関節周囲炎, 腱板損傷 骨関節疾患にかかる理学療法について説明できる スポーツ理学療法の概要と考え方について説明できる スポーツ活動支援における理学療法士の役割, 理学療法手技について説明できる 障がい者スポーツ支援の概要と考え方, 理学療法士の役割について説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目/2回目	骨関節疾患にかかる理学療法 変形性関節症		
3回目/4回目	骨折, 脱臼, 靭帯損傷		
5回目/6回目	関節リウマチとその近縁疾患		
7回目/8回目	スポーツ損傷・外傷		
9回目/10回目	脊椎疾患, 腰痛症		
11回目/12回目	肩関節周囲炎, 腱板損傷		
13回目/14回目	骨関節疾患にかかる理学療法について		
15回目/16回目	スポーツ理学療法の概要と考え方について		
17回目/18回目	スポーツ活動支援における理学療法士の役割について		
19回目/20回目	スポーツ活動支援における理学療法について		
21回目/22回目	障がい者スポーツ支援の概要と考え方について		
23回目	障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割について		
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書	理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ 第2版, 著 石川朗・河村廣幸, 中山書店 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅱ 第2版, 著 石川朗・河村廣幸, 中山書店		
参考書・資料等	運動療法のための機能解剖学的触診技術・上肢 第2版 林典雄 メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診技術・下肢・体幹 第2版 林典雄 メジカルビュー社 整形外科運動療法ナビゲーション・上肢・体幹 第2版 整形外科リハビリテーション学会 メジカルビュー社 整形外科運動療法ナビゲーション・下肢 第2版 整形外科リハビリテーション学会 メジカルビュー社		
履修上の注意	解剖学・生理学・運動学・整形外科の知識に関してはある程度復習をしておいてください。		

授業科目	運動器疾患の理学療法Ⅲ	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動器疾患において統合と解釈を行います		
行動目標	運動器疾患の理学療法について幅広い知識を説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	運動器疾患の理学療法について		
2回目	運動器疾患の理学療法について		
3回目	運動器疾患の理学療法について		
4回目	運動器疾患の理学療法について		
5回目	運動器疾患の理学療法について		
6回目	運動器疾患の理学療法について		
7回目	運動器疾患の理学療法について		
8回目	運動器疾患の理学療法について		
9回目	運動器疾患の理学療法について		
10回目	運動器疾患の理学療法について		
11回目	運動器疾患の理学療法について		
12回目	運動器疾患の理学療法について		
13回目	運動器疾患の理学療法について		
14回目	運動器疾患の理学療法について		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	解剖学・生理学・運動学・整形外科の知識に関してはある程度復習をしておいてください。		

授業科目	中枢神経疾患の理学療法 I		履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態	講義		必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	高杉 潤		オフィスアワー	金(12:10~17:00)
一般目標	脳血管障害, 中枢神経系の変性疾患, 脱髄疾患など, 代表的神経・筋難病などについて学習する。病態を理解し, 理学療法的治療の原理・理論を学習する。具体的には, 脳血管障害による片麻痺, パーキンソン病, 協調性障害などに対する評価, 理学療法について学習する。			
行動目標	1. 脳血管障害の種類や病態、症状を理解した上で、理学療法の評価・治療について説明できる。 2. パーキンソン病、運動失調症の病態を理解し、理学療法の評価・治療について説明できる。			
キーワード	脳、神経系障害、脳外科			
スケジュール				
1・2・3回	7月11日(2・3・4限)	脳血管障害の病態と治療		
4・5・6回	7月18日(2・3・4限)	脳血管障害の各期の理学療法		
7・8・9回	7月25日(2・3・4限)	脳卒中片麻痺のアプローチ		
10・11・12回	9月12日(2・3・4限)	ニューロリハビリテーション・高次脳機能障害		
13・14・15回	9月19日(2・3・4限)	パーキンソン病、運動失調の評価と治療		
評価方法	筆記試験(100点)によって決定する。			
教科書	①脳機能の基礎知識と神経症候ケーススタディ: 症例から学ぶリハビリテーション臨床思考 改訂第2版(メジカルビュー) ②ジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション 第2版(羊土社)			
参考書等・資料	<資料> 授業に必要な資料は随時配布する。 <参考書> 随時、紹介する。			
履修上の注意	神経系に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。			

授業科目	中枢神経疾患の理学療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	演習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	高杉 潤	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>脳の構造・機能を知り、脳血管障害に由来する臨床徴候とそのメカニズムを理解する。 片麻痺をはじめ、脳血管障害により生じる種々の障害に対する理学療法の実際と科学的根拠について理解する。 講義に加え、基本的な治療技術を習得する。</p>		
行動目標	<p>中枢神経疾患にかかる理学療法が実施できる 脳血管障害(片麻痺を含む)、認知症 高次脳機能障害、Parkinson病とその関連疾患 脊髄小脳変性症(SCD)、脊髄損傷(頸髄損傷を含む) 中枢神経疾患にかかる理学療法について説明できる 筋萎縮性側索硬化症(ALS)、多発性硬化症(MS) 外傷性脳損傷(TBI)、脳腫瘍</p>		
キーワード			
スケジュール			
1回目/2回目	中枢神経疾患にかかる理学療法 脳血管障害(片麻痺を含む)		
3回目/4回目	脳血管障害(片麻痺を含む)		
5回目/6回目	認知症		
7回目/8回目	高次脳機能障害		
9回目/10回目	高次脳機能障害		
11回目/12回目	Parkinson病とその関連疾患		
13回目/14回目	脊髄小脳変性症(SCD)		
15回目/16回目	脊髄損傷(頸髄損傷を含む)		
17回目/18回目	中枢神経疾患にかかる理学療法 筋萎縮性側索硬化症(ALS)		
19回目/20回目	多発性硬化症(MS)		
21回目/22回目	外傷性脳損傷(TBI)		
23回目	脳腫瘍		
評価方法	定期試験(90%)、授業態度(10%)で総合的に評価する。		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	解剖学、生理学、運動学、神経内科学、脳外科学、評価学などの学習内容が基礎となるため、十分に復習を行うこと。		

授業科目	中枢神経疾患の理学療法Ⅲ	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	中枢神経疾患において統合と解釈を行います		
行動目標	中枢神経疾患の理学療法について幅広い知識を身に付けることができる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	中枢神経疾患の理学療法について		
2回目	中枢神経疾患の理学療法について		
3回目	中枢神経疾患の理学療法について		
4回目	中枢神経疾患の理学療法について		
5回目	中枢神経疾患の理学療法について		
6回目	中枢神経疾患の理学療法について		
7回目	中枢神経疾患の理学療法について		
8回目	中枢神経疾患の理学療法について		
9回目	中枢神経疾患の理学療法について		
10回目	中枢神経疾患の理学療法について		
11回目	中枢神経疾患の理学療法について		
12回目	中枢神経疾患の理学療法について		
13回目	中枢神経疾患の理学療法について		
14回目	中枢神経疾患の理学療法について		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	解剖学、生理学、運動学、神経内科学、脳外科学、評価学などの学習内容が基礎となるため、十分に復習を行うこと。		

授業科目	末梢神経の理学療法	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	末梢神経疾患に対する評価から介入法、問題解決までの理学療法を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ●末梢神経障害について説明ができる。 1)末梢神経の構造について説明できる 2)末梢神経の特徴的な損傷・変形を説明できる 3)適切な評価方法を説明できる 		
キーワード	外傷 軟部組織損傷 病態生理 治療		
	スケジュール		
1回目	ガイダンス 外傷学(復習)		
2回目～8回目	末梢神経の構造と各部位の症状、障害について 頭頸部 肩甲帯 上肢 前腕 手指 骨盤帯 大腿 下腿 足部 足趾		
9回目	末梢神経についての解剖		
10回目	末梢神経についての生理学		
11回目	末梢神経の損傷・変性		
12回目	末梢神経の評価, 方法		
13回目	末梢神経損傷に関する国家試験範囲①		
14回目	末梢神経損傷に関する国家試験範囲②		
15回目	まとめ		
評価方法	・定期試験 95%・講義態度 5%を基準に総合判定する。		
教科書	《Crosslink 理学療法学テキスト》神経障害理学療法学Ⅱ メジカルビュー社		
参考書・資料等	適宜、紹介、配布する。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ●評価・臨床実習はじめ神経障害疾患を有する対象者を担当する機会が多い。理解には、解剖学・運動学の知識がないときわめて困難である。よって、講義前に学生は必ず教科書、参考図書に目を通して下さい。 ●講義中の居眠りは厳禁。 		

授業科目	脊椎障害の理学療法		履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態	講義		必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	高杉 潤		オフィスアワー	金(12:10~17:00)
一般目標	脊椎、脊髄における構造と機能、各疾患の病態に関する理解を深め、基本的な理学療法の評価方法、治療プログラムを習得する。			
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脊椎・脊髄の解剖学的・生理学的特徴を説明できる。 ・代表的な脊椎疾患、脊髄疾患の病態と特性を説明できる。 ・脊椎疾患、脊髄疾患の基本的な評価・治療を行える。 ・脊髄損傷者に対する環境整備について説明できる。 			
キーワード	脳、神経系障害、脳外科			
スケジュール				
1・2・3回	5月30日(2・3・4限)	脊椎・脊髄の機能と解剖①②③		
4・5・6回	6月6日(2・3・4限)	脊椎・脊髄疾患の病態と画像①②③		
7・8・9回	6月13日(2・3・4限)	脊椎疾患のアプローチ①②③		
10・11・12回	6月27日(2・3・4限)	脊髄疾患の評価①②③		
13・14・15回	7月4日(2・3・4限)	脊髄損傷のアプローチ①②③		
評価方法	筆記試験(100点)によって決定する。			
教科書	ジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション 第2版(羊土社)			
参考書・資料等	<p><資料> 授業に必要な資料は随時配布する。</p> <p><参考書> 随時、紹介する。</p>			
履修上の注意	脊椎・脊髄に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。			

授業科目	小児・発達の理学療法	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	三沢 峰茂	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	小児疾患の代表的な疾患(脳性麻痺、二分脊椎、神経筋疾患など)の症候をまとめ、その障害に対する理学療法の理解を深める。		
行動目標	発達にかかる理学療法が実施できる 脳性麻痺 発達にかかる理学療法について説明できる 二分脊椎, 運動発達遅滞 染色体異常(Down症候群など), 骨系統疾患 発達性協調運動障害, 先天性神経筋疾患 早産児, 重症心身障害児, 中途障害児		
キーワード			
スケジュール			
1回目	発達にかかる理学療法 脳性麻痺		
2回目	脳性麻痺		
3回目	発達にかかる理学療法 二分脊椎		
4回目	二分脊椎		
5回目	二分脊椎		
6回目	運動発達遅滞		
7回目	運動発達遅滞		
8回目	染色体異常(Down症候群など)		
9回目	染色体異常(Down症候群など)		
10回目	骨系統疾患		
11回目	発達性協調運動障害		
12回目	先天性神経筋疾患		
13回目	早産児		
14回目	重症心身障害児		
15回目	中途障害児		
評価方法	筆記試験		
教科書	特になし		
参考書・資料等	授業の中で適時紹介する		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

授業科目	内部障害系疾患の理学療法 I	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	・小川明宏(城西国際大)	オフィスアワー	初講時に指示する
一般目標	循環器機能評価の理論と測定方法を理解する 循環器疾患の基本概念を理解し患者に適した運動療法を理解する 循環器患者の運動耐容能評価を理解する 循環器患者への評価と運動療法の実施を理解する		
行動目標	・循環器疾患の機序について、生理学の知識を元に説明ができる ・循環器疾患に対しての理学療法を実践できる		
キーワード	運動生理, 循環器疾患, 運動療法		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション(内部障害について)		
2回目	循環器疾患の基礎概念		
3回目	動脈硬化の原因と病態		
4回目	虚血性心疾患の病態とリハビリテーション		
5回目	心不全の病態		
6回目	心不全のリハビリテーション		
7回目	大血管疾患の病態とリハビリテーション		
8回目	末梢動脈・静脈疾患の病態とリハビリテーション		
9回目	刺激伝導系と心電図について		
10回目	不整脈について		
11回目	循環器疾患の運動耐容能の評価		
12回目	循環器疾患の評価法について		
13回目	急性期から回復期の心臓リハビリテーションについて		
14回目	心臓リハビリテーションのプログラム設計について		
15回目	総復習・症例ディスカッション		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・試験、講義・演習の参加態度を基準に総合判定する。 ・授業態度によっては課題等の提出を求めることがある。 ・知識定着確認の小テストを実施することがある。 		
教科書	随時、資料を配布する。		
参考書・資料等	随時、資料を配布する。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患の病態生理・理学療法の理論を深く理解し、症例を通じて学びます。 ・循環器疾患の講義後に、対応する演習を予定し、理論と実践を連携、技術習得を目指します。 		

授業科目	内部障害系疾患の理学療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	藤川 孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	生理学の知識を元に、代謝、循環についての理解を深める。 内部障害に対する理学療法の意義を理解し、技術を習得する。		
行動目標	呼吸器疾患にかかる理学療法が実施できる(間質性肺炎, 慢性閉塞性肺疾患(COPD), 結核性肺炎) 呼吸器疾患にかかる理学療法について説明できる(外科手術後, ICU管理, 人工呼吸器管理状態) 循環器疾患にかかる理学療法が実施できる(末梢動脈疾患, 心不全(心筋梗塞, 狭心症)) 循環器疾患にかかる理学療法について説明できる 代謝系患にかかる理学療法が実施できる(糖尿病, 肥満症) 代謝疾患にかかる理学療法について説明できる 腎疾患にかかる理学療法について説明でき(慢性腎臓病)		
キーワード	運動生理, 循環・代謝疾患, 運動療法, 心臓リハビリテーション		
スケジュール			
1回目/2回目	呼吸器疾患にかかる理学療法 間質性肺炎		
3回目/4回目	慢性閉塞性肺疾患(COPD), 結核性肺炎		
5回目/6回目	呼吸器疾患にかかる理学療法 外科手術後		
7回目/8回目	ICU管理, 人工呼吸器管理状態		
9回目/10回目	吸引モデル		
11回目/12回目	循環器疾患にかかる理学療法 末梢動脈疾患, 心不全(心筋梗塞, 狭心症)		
13回目/14回目	循環器疾患にかかる理学療法		
15回目/16回目	循環器疾患にかかる理学療法		
17回目/18回目	代謝系患にかかる理学療法 糖尿病		
19回目/20回目	肥満症		
21回目/22回目	代謝疾患にかかる理学療法		
23回目	腎疾患にかかる理学療法 慢性腎臓病		
評価方法	授業態度・小テスト・試験		
教科書	最新 理学療法学講座 内部障害理学療法学 (医歯薬出版株式会社)		
参考書・資料等	講師配布資料		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度によっては課題等の提出を求める可能性があるため留意すること。 ・毎回の授業ごとにミニテストを実施、単元ごとに小テストを実施予定。 		

授業科目	理学療法疾患論Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	西尾佑貴	オフィスアワー	月～木曜日 9時～17時
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疼痛、がん、皮膚外傷などにおける理学療法について説明できる。 2. 疼痛、がん、皮膚外傷などにおけるリスク管理や目的などを説明できる。 		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性疼痛・慢性疼痛など疼痛に対する理学療法を説明できる。 2. がんの理学療法について説明できる。 3. 皮膚外傷などの理学療法について説明できる。 		
キーワード	理学療法、急性疼痛、慢性疼痛、がん性疼痛、褥瘡、熱傷、浮腫、癌リハ		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 痛みの定義と分類		
2回目	運動器の痛みのメカニズム 痛みの神経解剖		
3回目	臨床で見られる疼痛の病態 急性疼痛と慢性疼痛		
4回目	疼痛評価と治療		
5回目	疼痛への理学療法		
6回目	がんの病態、検査、評価、治療		
7回目	がんリハビリテーション アセスメント		
8回目	がんリハビリテーション 疾患による理学療法の特異性		
9回目	がん性疼痛		
10回目	がんリハビリテーション 理学療法		
11回目	リンパ浮腫 理学療法		
12回目	皮膚外傷 褥瘡の管理		
13回目	皮膚外傷 褥瘡に対する理学療法		
14回目	皮膚外傷 熱傷に対する理学療法		
15回目	まとめ		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。 		
教科書	なし		
参考書・資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1. Crosslink 理学療法テキスト 内部障害の理学療法学 2. 図解 理学療法技術ガイド 第5版 3. 最新理学療法学講座 内部障害理学療法学 医歯薬出版株式会社 		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 2. 各単元ごとに小テストを実施します。 		

授業科目	理学療法疾患論Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	神崎美佳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	女性特有の疾患もあります。 性別にかかわらず幅広い知識を得てください。		
行動目標	ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法士の役割について説明できる ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法について説明できる 精神疾患に対する理学療法について説明できる 統合失調症 気分障害(うつ病) ストレス関連障害 視覚障害を合併する歩行・生活指導における理学療法について説明できる 前庭性めまい・摂食嚥下障害に対する理学療法について説明できる 排泄(排尿・排便)障害に対する理学療法について説明できる 産科・婦人科領域の機能障害に対する理学療法について説明できる		
キーワード	スケジュール		
1回目	ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法士の役割について		
2回目	ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法士の役割について		
3回目	ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法		
4回目	ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法		
5回目	精神疾患に対する理学療法について 統合失調症		
6回目	気分障害(うつ病)		
7回目	ストレス関連障害		
8回目	視覚障害を合併する歩行・生活指導における理学療法について		
9回目	視覚障害を合併する歩行・生活指導における理学療法について		
10回目	前庭性めまいに対する理学療法について		
11回目	前庭性めまいに対する理学療法について		
12回目	摂食嚥下障害に対する理学療法について		
13回目	排泄(排尿・排便)障害に対する理学療法について		
14回目	排泄(排尿・排便)障害に対する理学療法について		
15回目	産科・婦人科領域の機能障害に対する理学療法について		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 しっかりと学習してください。		

授業科目	地域理学療法学Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川 孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地域における障害者を取り巻く環境と社会参加参画における支援制度等を理解する。		
行動目標	地域における法制度について理解する 具体的な内容について経験する。 各障害を有する方の支援のあり方について理解する		
キーワード	障害 社会参加 支援制度		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション, 地域理学療法の特徴		
2回目	地域理学療法の基礎知識		
3回目	疾患と障害の理解 身体障害者福祉法による支援制度 ①		
4回目	疾患と障害の理解 身体障害者福祉法による支援制度 ②		
5回目	疾患と障害の理解 身体障害者福祉法による支援制度 ③		
6回目	疾患と障害の理解 身体障害者福祉法による支援制度 ④		
7回目	疾患と障害の理解 障害者手帳の役割①		
8回目	疾患と障害の理解 障害者手帳の役割②		
9回目	疾患と障害の理解 障害者手帳の役割③		
10回目	疾患と障害の理解 障害者手帳の申請から交付まで①		
11回目	疾患と障害の理解 障害者手帳の申請から交付まで②		
12回目	疾患と障害の理解 障害者手帳の申請から交付まで③		
13回目	障害者総合支援法による支援 概要		
14回目	障害者総合支援法による支援 概要		
15回目	まとめ		
評価方法	原則、毎講義でリアクションペーパーの作成・提出を課します。課題成果物の内容・体裁、講義受講態度および演習の取組などを総合して評価する。 再試験等は行わないので注意してください。		
教科書	『<<Crosslink 理学療法学テキスト>>地域理学療法学』メジカルビュー社		
参考書・資料等	随時、参考図書や資料を紹介していく。		
履修上の注意	タブレット(あればノートPC)を必要に応じて持参していただきます。随時、指示します。 日頃から課題遂行能力を研鑽する機会を持つようにしましょう。		

授業科目	地域理学療法学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	1. 地域リハビリテーションについて理解する。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割りについて理解する。		
行動目標	介護予防における理学療法士の役割・理学療法について説明できる 緩和ケアにおける理学療法士の役割・理学療法について説明できる 終末期医療における理学療法士の役割・理学療法について説明できる 産業理学療法における理学療法士の役割・理学療法について説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	介護予防における理学療法士の役割について		
2回目	介護予防における理学療法について		
3回目	緩和ケアにおける理学療法士の役割について		
4回目	緩和ケアにおける理学療法について		
5回目	終末期医療における理学療法士の役割について		
6回目	終末期医療における理学療法について		
7回目	産業理学療法における理学療法士の役割について		
8回目	産業理学療法における理学療法について		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト(南江堂)		
参考書・資料等	1. 理学療法学テキスト 地域理学療法学(メディカルビュー) 2. 最新理学療法学講座 地域理学療法学(医歯薬出版) 3. 利用者から学ぶ福祉住環境整備(三輪書店)		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、基本、毎回到小テストを行います。 2. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目	地域理学療法学Ⅲ	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	1. 地域リハビリテーションについて理解する。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について理解する。		
行動目標	大規模災害時における活動支援の概要ならびに災害時における理学療法士の役割について説明できる 国際支援における理学療法士の役割について説明できる 国際支援に関わる基盤(国際協力機構(JICA)派遣など)について説明できる 健康維持, 健康増進における理学療法士の役割・理学療法について説明できる 集団を対象とした指導方法について説明できる 学校保健および特別支援教育(通級指導を含む)における理学療法士の役割について説明できる 学校保健および特別支援教育(通級指導を含む)における理学療法について説明できる		
スケジュール			
1回目	大規模災害時における活動支援の概要ならびに災害時における理学療法士の役割について		
2回目	国際支援における理学療法士の役割について		
3回目	国際支援に関わる基盤(国際協力機構(JICA)派遣など)について		
4回目	健康維持, 健康増進における理学療法士の役割について		
5回目	健康維持, 健康増進における理学療法について		
6回目	集団を対象とした指導方法について		
7回目	学校保健および特別支援教育(通級指導を含む)における理学療法士の役割について		
8回目	学校保健および特別支援教育(通級指導を含む)における理学療法について		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト(南江堂)		
参考書・資料等	1. 理学療法学テキスト 地域理学療法学(メディカルビュー) 2. 最新理学療法学講座 地域理学療法学(医歯薬出版) 3. 利用者から学ぶ福祉住環境整備(三輪書店)		
履修上の注意	1. 2回目以降の講義初めに、基本、毎回到小テストを行います。 2. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目	臨床実習 I (見学)	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間
担当教員	神崎美佳 他全教員	オフィスアワー	
一般目標	臨床における理学療法士の役割を見学実習を通して包括的に体験する。 医療従事者としての基本的態度を学ぶ。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の業務および役割を理解する。 2. 理学療法士が関わる種々の疾患または障害のある対象者について理解する。 3. 対象者や実習指導者とのコミュニケーションが適切にとれる。 4. 医療従事者としての身だしなみや言葉遣い、行動などが適切にできる。 		
キーワード			
スケジュール			
<p>実習期間:1週間 *臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。</p> <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床見学実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で1週間の臨床見学実習を行う。 3. 臨床見学実習後オリエンテーション 4. 臨床見学実習発表会(レジュメ発表) <p><実習の実際></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で治療見学を行う。 2. 臨床見学実習報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。 			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床見学実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書			
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	疾患特性など病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	臨床実習Ⅱ(地域)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床見学実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 理学療法士の臨床現場において対象者を身近に感じ取り信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力を高める。また、評価や治療の一部を体験することで、理学療法に関する知識や技術の必要性を認識することを目的とする。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者に対して問診技術を中心としたコミュニケーションが適切にとれる。 2. 理学療法士が関わる様々な疾患または障害に対して実施する評価や治療の一部を理解することができる。 3. 理学療法に関する知識や技術の必要性を認識することができる。 		
スケジュール			
<p>実習期間:1週間 * 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。</p> <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床体験実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で1週間の臨床見学実習を行う。 3. 臨床体験実習後オリエンテーション 4. 臨床体験実習発表会(レジュメ発表) <p><実習の実際></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で治療見学を行う。 2. 臨床体験実習報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。 			
	臨床実習指導者による評価と校内での臨床見学実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	疾患特性など病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	臨床評価実習	履修年次	2年次
		単位数	6単位
授業形態	実習	必要時間数	270時間
一般目標	臨床体験実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 各施設で対象者に対して理学療法評価を実施する。 対象者を評価することで理学療法士が関わる様々な疾患や障害を理解し、問題点把握や治療目標の立案を行う。		
行動目標	1.指導者の助言・指導の下に立案した評価内容を実施できる。 2.対象者の問題点を抽出し、治療目標の立案ができる。 3.対象者の病態像や障害像、生活像を把握することができる。 4.評価の結果をレポートとしてまとめて報告することができる。		
キーワード	総合学習、復習		
スケジュール			
<p>実習期間:6週間 *臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学習などを含め45時間以内とする。</p> <p><内容> 1.臨床評価実習前オリエンテーション 2.本校指定の臨床実習施設で4週間の臨床評価実習を行う。 3.臨床評価実習後オリエンテーション 4.臨床評価実習発表会(スライド発表)</p> <p><実習の実際> 1.本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で評価の結果から問題抽出を行い、治療目標を立案する。 2.臨床評価実習報告書を毎日指導者に提出する。 3.レポート課題等は必要に応じて課される。</p>			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床評価実習の報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	評価技術に対する十分な実技練習と病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	臨床総合実習	履修年次	3年次
		単位数	12単位
授業形態	実習	必要時間数	315時間
一般目標	臨床評価実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 各施設で対象者に対して理学療法評価および治療技術を実施する。 対象者の問題点把握や治療プログラムの立案を通して理学療法士としての一連の流れを体験する。		
行動目標	1.対象者の問題点を抽出し、治療目標の立案ができる。 2.指導者の助言・指導の下に立案した治療プログラムを実施できる。 3.医療人としての役割や責務を理解することができるようになる。 4.経験した内容をレポートとしてまとめて報告することができる。		
スケジュール			
<p>実習期間:12週間 *臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。</p> <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.総合臨床実習前オリエンテーション 2.本校指定の臨床実習施設で8週間の総合臨床実習を行う。 3.総合臨床実習後オリエンテーション 4.総合臨床実習発表会 <p><実習の実際></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指揮・監督の下で評価の結果から問題点週出を行い、治療目標化治療計画を立案する。 2.総合臨床実習報告書を毎日指導者に提出する。 3.レポート課題等は必要に応じて課される。 			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床評価実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート内容を総合的に評価する。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	評価技術・治療技術に対する十分練習と疾患特性など病態像について理会を深めておくこと。		

Syllabus

2024・2025年度

国際医療福祉専門学校
リハビリテーション学科
作業療法士コース

授業科目	生命倫理	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金8:30～17:20
一般目標	骨を通して一般的倫理観を理解していきます		
行動目標	一般的倫理観を身に付ける 医療人としての倫理を身に付ける		
キーワード	倫理		
スケジュール			
1回目	骨模型ならべ		
2回目	骨模型ならべ		
3回目	骨模型ならべ		
4回目	骨模型ならべ		
5回目	生命倫理とは		
6回目	生命倫理とは		
7回目	生命倫理とは		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、レポートにて判断します。		
教科書	特にありません		
参考書・資料等	特にありません		
履修上の注意	提出物などしっかりと期限内に提出をしましょう		

授業科目	プロフェッショナリズム	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	8:30~17:20
一般目標	プロフェッショナリズムを感じて専門職としての資質向上に努めてください。		
行動目標	必要な課題を自主的に発見できる 課題の重要性・必要性に応じて優先順位を決定できる 他者と協力して、課題の解決に向けた対処方法を見出すことができる 課題の解決に向けた対応に参画できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	必要な課題を自主的に発見/課題の重要性・必要性に応じて優先順位を決定		
2回目	他者と協力して、課題の解決に向けた対処方法を見出す/課題の解決に向けた対応に参画		
3回目	医療事故(アクシデント・インシデント)・院内感染について		
4回目	医療事故(インシデントを含む)が発生した場合の対応について		
5回目	医療の安全性を確保するための対応策/感染対策について		
6回目	医療現場における清潔・不潔の概念/キャリアパス, キャリア開発の概念		
7回目	個々のキャリアパスの検討/自らの卒業後のキャリアデザインを表現		
8回目	生涯にわたる自己研鑽の必要性/能力向上のために実施可能な学習方法		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	レポート課題(1回100点満点)		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	レポート課題の提出が遅れた場合は未提出とみなし留年対象となってしまいます。必ず提出期限内に提出をお願いします。		

授業科目	英語	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田茂久	オフィスアワー	月～金曜日 9:00～17:00
一般目標	1. 医学、特にリハビリテーション場面で使われる英語を習得する。		
行動目標	1. 身体各部の英語の名称が理解できる。 2. 医療現場で用いられる機器等の名称が英語で理解できる。 3. セラピストが使う用語や略語が理解できる。 4. 医師によるカルテなど、英語で書かれた記録から情報を得られる。		
キーワード	英語 セラピスト 専門用語		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション・「骨」関連用語		
2回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語①		
3回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語②		
4回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語③		
5回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語④		
6回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑤		
7回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑥		
8回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑦		
9回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑧		
10回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑨		
11回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑩		
12回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑪		
13回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑫		
14回目	「筋・運動名・身体部位・診断名・リハビリテーション評価・カルテ」関連用語⑬		
15回目	まとめ		
評価方法	1. 小テスト、課題提出状況および内容にて総合的に評価します。		
教科書	なし		
参考書・資料等	1. 臨床実習用語集(配布資料)		
履修上の注意	1. タブレットを必ず持参してください。 2. 2回目以降、小テストを行います。 3. 毎回、提出課題があります。		

授業科目	情報処理	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	<p>情報化社会となった今、中高生からパソコンを使用しICTを有効に活用できることが当たり前となっている。また、臨床の現場においてもパソコンやタブレットPCでの管理が標準となってきている。この講義では、iPadを使用し一般的なパソコン操作やタブレット操作を学び、簡単な操作方法を身に付けることを目標とする。</p>		
行動目標	<p>iPadを使用して簡単な情報処理を行うことができる。 文章を作成するのにICT機器を有効活用することができる。 統計処理という概念を理解することができる。</p>		
キーワード	iPad, 情報処理, パソコン, 統計処理, ICT		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション(ICT機器のセッティング)		
2回目	IT業界の歴史について		
3回目	ICT機器の使用について		
4回目	ICT機器の機能の確認		
5回目	文章のタイピング及びイラストの挿入等、紙面の体裁について		
6回目	統計処理について(意義、概念)		
7回目	統計処理について(方法ほか)1		
8回目	統計処理について(方法ほか)2		
9回目	統計処理について(方法ほか)3		
10回目	国家試験に出る統計処理		
11回目	課題作成1		
12回目	課題作成2		
13回目	プレゼンテーション1		
14回目	プレゼンテーション2		
15回目	まとめ		
評価方法	ICT機器にて課題を作成し提出されたデータで評価する。		
教科書	特に指定する教科書はないがパソコンやiPadの基本的な操作方法、パソコン、マイクロソフトOffice(Word、Excel、PowerPoint)に関する知識を身に付けておく必要がある。		
参考書・資料等	都度、配布します。		
履修上の注意	授業はICT機器の操作と講義を並行して行う予定である。ICT機器を2回以上忘れた場合、授業態度不良とみなし減点する。また、使用するICT機器に関しては、必要なアプリ等は自宅でセットアップしておくことが望ましい。ICT機器の操作スキルに関しては個人によって差があるので、学生同士でフォローしながら円滑に授業を進めて行く。		

授業科目	教育学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:30
一般目標	<p>作業療法士・理学療法士を取り巻く社会では、教育に携わる機会を挙げると暇がないのが実情である。よって本講では教育学の基礎知識を紹介しながら、教育学的思考の初歩を経験する場を提供する。内容は、作業療法士・理学療法士に必要なスキルを、講義・演習を通じて学びとクラスの親睦の深まりも追求したい。最終的には深い人間理解に根ざした教育観を養うことを目標とする。</p>		
行動目標	<p>「教えること」から「学ぶこと」への気づきが、ひいては患者教育へとつながることを理解する。そして、作業療法士・理学療法士の役割と教育の意義を理解できること。</p>		
キーワード	<p>教育 しつけ 方法論 古典 行動分析</p>		
	<p>スケジュール</p>		
1回目	<p>ガイダンス 教育学とは何か? 目的と意義 ヒトにとっての学び</p>		
2回目	<p>情報伝達とコミュニケーション(1) その方法</p>		
3回目	<p>情報伝達とコミュニケーション(2) 情報受発信力 討論・対話力(1)</p>		
4回目	<p>情報受発信力 討論・対話力(2)</p>		
5回目	<p>古典から考える(1)</p>		
6回目	<p>古典から考える(2)</p>		
7回目	<p>古典から考える(3)</p>		
8回目	<p>Summary オペラントの行動分析から考える 作業療法・理学療法への展望</p>		
評価方法	<p>原則として定期試験で評価する。ただし、場合によってはグループワーク等の受講取組態度を加味することがある。</p>		
教科書	<p>「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。</p>		
参考書・資料等	<p>参考図書:随時紹介します。</p>		
履修上の注意	<p>講義では毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら将来の自身の作業療法・理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。</p>		

授業科目	心理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	増子 遥華	オフィスアワー	
一般目標	作業療法士として、相手の身になってリハビリテーションを行う上での心理学の基礎知識を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の心の代表的な認知メカニズムについて説明できる ・心理学の基本的な概念について説明できる ・心理学の知識を日常生活に関連付けて考えることができる 		
キーワード	心の働き、しくみ		
スケジュール			
1回目	心理学とは 心理学の誕生と発展、研究方法		
2回目	感覚・知覚①		
3回目	感覚・知覚②		
4回目	注意・認知		
5回目	情動と動機づけ		
6回目	性格とパーソナリティ①		
7回目	性格とパーソナリティ②		
8回目	記憶と学習①		
9回目	記憶と学習②		
10回目	言語・概念		
11回目	思考		
12回目	知能		
13回目	発達① 乳児期・幼児期・児童期の発達		
14回目	発達② 青年期・成人期・老年期の発達		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	特になし		
参考書・資料等	<p>リハベーシック 心理学・臨床心理学 第2版, 編集 内山靖・藤井浩美・立石雅子, 医歯薬出版株式会社 公認心理師現任者講習会テキスト 改訂版, 監修 一般財団法人日本心裡研修センター, 金剛出版 徹底図解心理学:カラー版, 編著者 青木紀久代・神宮英夫, 新星出版社</p>		
履修上の注意	理学療法士・作業療法士において、心理学は必須となります。しっかりと学習してください。		

授業科目	ボランティア論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	8:30~17:20
一般目標	施設などにボランティア体験に行くことで、専門職としての意識を身に着けるように頑張りましょう。		
行動目標	ボランティア体験を通して専門職としての意識を身に着けることができる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	ボランティア体験		
2回目	ボランティア体験		
3回目	ボランティア体験		
4回目	ボランティア体験		
5回目	ボランティア体験		
6回目	ボランティア体験		
7回目	ボランティア体験		
8回目	ボランティア体験		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	レポート課題(1回100点満点)		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	レポート課題の提出が遅れた場合は未提出とみなし留年対象となってしまいます。 必ず提出期限内に提出をお願いします。		

授業科目	保健体育	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法士に必要な身体的観点や運動感覚を身体で体感する。 様々な活動を通じ、心身の成長を促すとともに他者とのコミュニケーション能力を養う。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動を通じ、心身の成長を促す。 ・基本動作における身体の使い方を知る。 ・障がい者体験や基本的な福祉用具の使用体験を通して障がいを感じることができる。 ・他者と協力して行動する意義を知る。 		
キーワード	コミュニケーション、心身機能、健康、レクリエーション		
	スケジュール		
1回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
2回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
3回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
4回目	パラスポーツを体験してみよう。(ボッチャ)		
5回目	オリエンテーションについて / 意識して身体を動かすということ。		
6回目	ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインを考えて(体験して)みよう。		
7回目	障害者体験をしてみよう。		
8回目	介助用具(福祉用具)を使ってみよう。		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度にて判断します。授業中の態度が不良(居眠り、無反応など)で注意を行った後も改善されない場合、減点する。		
教科書	講義中に資料を配布します。		
参考書・資料等	なし		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく楽しく元気よく、意欲的に取り組むこと。 ・怪我には注意すること。 		

授業科目	コミュニケーション論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	神崎美佳	オフィスアワー	8:30~17:20
一般目標	コミュニケーションを取ることは、リハビリテーションの場面で非常に必要となります。しっかりと理解し、コミュニケーションが取れるようにしましょう。		
行動目標	人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について説明できる 良好な人間関係を作る条件や要因を考察できる 他者の意見を傾聴できる 理解した結論に基づいた行動ができる 情報管理の必要性について説明できる 知り得た情報の発信, 記録, 保存に関して, 情報漏洩などのリスク管理ができる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について		
2回目	人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について		
3回目	良好な人間関係を作る条件や要因を考察		
4回目	良好な人間関係を作る条件や要因を考察		
5回目	他者の意見を傾聴		
6回目	理解した結論に基づいた行動		
7回目	情報管理の必要性について		
8回目	知り得た情報の発信, 記録, 保存に関して, 情報漏洩などのリスク管理		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	レポート課題(1回100点満点)		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	レポート課題の提出が遅れた場合は未提出とみなし留年対象となってしまいます。必ず提出期限内に提出をお願いします。		

授業科目	社会の理解	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦(社会学士)	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	<p>「社会」は、色々な意味を含んでいるが、自身の経験や常識(だけ)に基づき、「社会」についてを曖昧に理解しがちである。その「社会」を構成するのは、作業療法・理学療法の対象となる人間であり、帰属集団といえる。本講では、集団構成員の人間の一面を理解し、家族、地域社会、国家という社会集団について学習する。次いで、医療、作業療法・理学療法界を取り巻く諸課題を関連させて考えることができるようにすることを目標とする。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ●「社会」について多角的に理解するとともに、人間と社会の関連について認識を深める。 ●医療従事者としての社会との関わりについての豊かなイメージを培う。 		
キーワード	社会とは 家族 ジェンダー 自己と他者 アノミー		
スケジュール			
1回目	ガイダンス～ イントロダクション——社会学とはどんな学問か？		
2回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 1)自己——「見る自分」と「見られる自分」		
3回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 2)家族とジェンダー		
4回目	相互作用——社会的ネットワーク 地域社会の変化と問題点(都市部と農村部)		
5回目	地域社会の変化と問題点(現代の都市型社会における地域問題)		
6回目	貧困と社会的排除(デュルケムによる)		
7回目	他者との関わり—教育の観点から		
8回目	まとめ		
評価方法	・定期試験 ・授業態度・演習取組状況を総合的に勘案し評価する。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	参考図書: 以下は難しいですが興味があれば目を通してください。 E.デュルケム(著)、宮島 喬(翻訳) 『自殺論』(中公文庫) 他		
履修上の注意	講義・演習の進捗により予定変更ありえます。 医療が社会の中の行為、事業であることを意識したうえで、社会がつねに変化の中にあること、また、改良すべき問題点を生み出していることを意識してください。講義では毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら扱うテーマについて調べ、関心をもって講義に生かしてください。		

授業科目	物理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	姉川 秀治	オフィスアワー	
一般目標	身近な力学現象(モノと運動)を、自分の言葉で捉え直して、自分自身の力学的自然観を創造する。		
行動目標	<p>運動の第1法則を自分の言葉で捉え直し、モノの存在について理解を深める。 運動の第1・第2法則を自分の言葉で捉え直し、運動概念の理解を深める。 運動の第2法則を捉え直し、因果論的説明が納得の形式であることを知る。 運動の第3法則を捉え直し、力がモノとモノとの相互作用であることを理解する。 力を図象化することで理解を深める。 練習問題は、すすんで取り組んで理解する。</p>		
キーワード	自分の言葉、捉え直し、モノ、運動、力		
スケジュール			
1回目	相対速度の考察から運動概念を揺さぶる 自然観の歴史を振り返る		
2回目	運動の第1法則 モノの存在と運動 多様な表現、モノの存在論		
3回目	速度、加速度の概念整理 $v \sim t$ グラフを使って運動学の初歩を整理		
4回目	運動の第2法則 外力と速度変化の因果関係 モノの世界の因果律		
5回目	力概念の整理と静力学の初歩 力のモーメント 浮力		
6回目	運動の第3法則 力は相互作用 モノの世界の言葉 モノの世界の関係論		
7回目	力を図示して運動の法則を振り返る 光について てこについて		
8回目	Energy(運動方程式積分型、Energy概念一般) 練習問題を中心に総復習		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	<p>筆記試験(100%) 力学的自然観についての自主提出レポート(最大15点の加点あり) ただし、最大点数は100点とする。</p>		
教科書	担当教員による描き下ろし資料「力学の世界へ」		
参考書・資料等			
履修上の注意	<p>特別な予備知識は不要だが、「言葉」にきちんと向き合うことが必要である。 テキストは、毎回持参する必要がある。</p>		

授業科目	解剖学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	火～木 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造と位置を知る。 基本構造や形態から基本的な運動機能を考える。		
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。		
キーワード	人体, 形態学, 三次元		
スケジュール			
1回目	第2章 解剖学総論、骨学:骨組織と骨格の構造		
2回目	第2章 骨格各論(上肢帯部)		
3回目	第2章 骨格各論(上腕部と肘部)		
4回目	第2章 骨格各論(前腕部と手部)		
5回目	第2章 骨格各論(骨盤)		
6回目	第2章 骨格各論(大腿部と膝蓋骨)		
7回目	第2章 骨格各論(下腿部と足部)		
8回目	第2章 骨格各論(頭蓋骨の脳頭蓋)		
9回目	第2章 骨格各論(頭蓋骨の顔面頭蓋)		
10回目	第2章 骨格各論(頸部)		
11回目	第3章 関節と靭帯(骨の連結)		
12回目	第3章 関節と靭帯(関節の分類)		
13回目	第3章 関節と靭帯(関節靭帯各論 上肢)		
14回目	第3章 関節と靭帯(関節靭帯各論 下肢)		
15回目	第3章 関節と靭帯(関節靭帯各論 下肢)		
評価方法	期末試験および出席率 課題作成などその他状況による		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 機能解剖学的 触診技術 メディカル ビュー(上肢)、(下肢・体幹) 解剖学を学ぶための必須演習 全身骨学 学習サイドノート わかば出版		
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといふことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考え、構造や形態にも意味があるものとして捉える。 暗記する部分が多い科目だが、自身の体に置き換えて勉強し、疑問を見つけるつもりで学習することが重要である。		

授業科目	解剖学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	火～木 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造と位置を知る。 基本構造や形態から基本的な運動機能を考える。		
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。		
キーワード	人体, 形態学, 三次元		
スケジュール			
1回目	第4章 筋系(筋系総論)		
2回目	第4章 筋系(筋系各論) 上肢の筋-上肢帯の筋		
3回目	第4章 筋系(筋系各論) 上肢の筋-上腕の筋		
4回目	第4章 筋系(筋系各論) 上肢の筋-前腕屈曲の筋		
5回目	第4章 筋系(筋系各論) 上肢の筋-前腕伸展の筋		
6回目	第4章 筋系(筋系各論) 上肢の筋-手部の筋		
7回目	第4章 筋系(筋系各論) 下肢の筋-下肢帯の筋		
8回目	第4章 筋系(筋系各論) 下肢の筋-大腿部の前面の筋		
9回目	第4章 筋系(筋系各論) 下肢の筋-大腿部の後面の筋		
10回目	第4章 筋系(筋系各論) 下肢の筋-下腿部の筋		
11回目	第4章 筋系(筋系各論) 下肢の筋-足部の筋		
12回目	第4章 筋系(筋系各論) 体幹の筋-頭部の筋、四大咀嚼筋		
13回目	第4章 筋系(筋系各論) 体幹の筋-頭頸部の筋、舌骨上下筋群		
14回目	第4章 筋系(筋系各論) 体幹の筋-頸部および胸部の筋		
15回目	第4章 筋系(筋系各論) 体幹の筋-腹部及び背部の筋		
評価方法	期末試験および出席率 課題作成などその他状況による		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 機能解剖学的 触診技術 メディカル ビュー(上肢)、(下肢・体幹)		
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといふことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考え、構造や形態にも意味があるものとして捉える。 暗記する部分が多い科目だが、自身の体に置き換えて勉強し、疑問を見つけるつもりで学習することが重要である。		

授業科目	解剖学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間の機能について知る。		
行動目標	<p>体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 骨格の位置を確認し筋のはたらきをしる。 人体の働きより臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築しなおす。</p>		
キーワード	脊髄損傷, 発生機序, ADL指導		
スケジュール			
1回目	循環・血管系①		
2回目	循環・血管系②		
3回目	泌尿器系①		
4回目	泌尿器系②		
5回目	皮膚系①		
6回目	皮膚系②		
7回目	感覚器系①		
8回目	感覚器系②		
9回目	呼吸器系		
10回目	消化器系		
11回目	内分泌系		
12回目	骨の指標を知る1(頭頸・体幹部)		
13回目	骨の指標を知る2(上肢)		
14回目	骨の指標を知る3(下肢)		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度、試験、小テストなどを総合的にみて評価する。		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学		
参考書・資料等	<p>カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 解剖学カラーアトラス 第5版 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 基礎運動学 第6版 医歯薬出版</p>		
履修上の注意	<p>人体の正常な構造や形態を学ぶといくことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。</p>		

授業科目	生理学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	火～木 8:30～17:20
一般目標	人体の機能について日常生活と照らし合わせて考える。		
行動目標	<p>人体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 人体の働きを知り臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書や資料のイラスト、写真から必要なことを説明する。 人体内で起きている見えない現象を理解する。</p>		
キーワード	人体, 構造と機能, ホメオスタシス		
スケジュール			
1回目	第1章 解剖生理学のための基礎知識(構造からみた人体)		
2回目	第1章 解剖生理学のための基礎知識(素材からみた人体)①細胞の機能		
3回目	第1章 解剖生理学のための基礎知識(素材からみた人体)②細胞膜の働き		
4回目	第2章 栄養の消化と吸収(口腔・咽頭・食道)		
5回目	第2章 栄養の消化と吸収(腹部消化管の構造と機能)		
6回目	第2章 栄養の消化と吸収(膵臓・肝臓・胆能の構造と機能)		
7回目	第3章 呼吸と血液のはたらき(呼吸器の構造)		
8回目	第3章 呼吸と血液のはたらき(呼吸)		
9回目	第3章 呼吸と血液のはたらき(血液)①		
10回目	第3章 呼吸と血液のはたらき(血液)②		
11回目	第3章 呼吸と血液のはたらき(血液)③		
12回目	第4章 血液の循環とその調節(循環器の構成、心臓の構造)		
13回目	第4章 血液の循環とその調節(心臓の拍出機能)		
14回目	第4章 血液の循環とその調節(末梢循環系の構造)		
15回目	第4章 血液の循環とその調節(血液の循環の調節、リンパ管)		
評価方法	<p>単元末試験 出席率 その他(状況による)</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院		
参考書・資料等	<p>カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院</p>		
履修上の注意	<p>人体の構造(形態学・解剖学)と密接に関連するため、必要と思われる基礎医学の知識は常に復習しておく必要がある。 医学の基礎知識として重要なため、解剖学や運動学とともに常に振り返りことが重要となる。 疾患を紐解く上で重要な科目となる。そのため暗記ではなく、理解説明することを学習目標とすることが重要である。</p>		

授業科目	生理学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	火～木 8:30～17:20
一般目標	人体の機能について日常生活と照らし合わせて考える。		
行動目標	<p>人体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 人体の働きを知り臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書や資料のイラスト、写真から必要なことを説明する。 人体内で起きている見えない現象を理解する。</p>		
キーワード	人体, 機能, 日常の生活		
スケジュール			
1回目	第5章 体液の調節と尿の生成(腎臓の構造と機能)①		
2回目	第6章 体液の調節と尿の生成(腎臓の構造と機能)②		
3回目	第5章 体液の調節と尿の生成(排尿路と排尿調節)①		
4回目	第5章 体液の調節と尿の生成(排尿路と排尿調節)②		
5回目	第5章 体液の調節と尿の生成(体液の調節)		
6回目	第6章 内臓機能の調節(自律神経による調節)①		
7回目	第6章 内臓機能の調節(自律神経による調節)②		
8回目	第6章 内臓機能の調節(自律神経による調節)③		
9回目	第6章 内臓機能の調節(自律神経による調節)④		
10回目	第6章 内臓機能の調節(内分泌系による調節)①		
11回目	第6章 内臓機能の調節(内分泌系による調節)②		
12回目	第7章 身体の支持と運動(筋の収縮)①		
13回目	第7章 身体の支持と運動(筋の収縮)②		
14回目	第7章 身体の支持と運動(筋の収縮)③		
15回目	第7章 身体の支持と運動(筋の収縮)④		
評価方法	<p>期末試験および出席率 課題作成などその他状況による</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院		
参考書・資料等	<p>カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院</p>		
履修上の注意	<p>人体の構造(形態学・解剖学)と密接に関連するため、必要と思われる基礎医学の知識は常に復習しておく必要がある。 医学の基礎知識として重要なため、解剖学や運動学とともに常に振り返りことが重要となる。 疾患を紐解く上で重要な科目となる。そのため暗記ではなく、理解説明することを学習目標とすることが重要である。</p>		

授業科目	生理学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義、演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	実際の人体を五感で構築する。		
行動目標	授業で学んだ人体の基本的な働き(機能)を体験する。 実験を通して人体の働きの知識を身につける。 自己の体験をもとに人体の機能を理解する。 体内で起きている見えない現象を理解する。		
キーワード	神経系, 循環器系, 消化器系		
スケジュール			
1回目	身体の支持と運動(骨格筋)		
2回目	身体の支持と運動(骨)		
3回目	情報の受容と処理(神経系)1		
4回目	情報の受容と処理(神経系)2		
5回目	情報の受容と処理(末梢神経系)1		
6回目	情報の受容と処理(末梢神経系)2		
7回目	情報の受容と処理(中枢神経系)1		
8回目	情報の受容と処理(中枢神経系)2		
9回目	情報の受容と処理(体性感覚)		
10回目	情報の受容と処理(特殊感覚)1		
11回目	情報の受容と処理(特殊感覚)2		
12回目	摂食・嚥下機能1		
13回目	摂食・嚥下機能2		
14回目	血液の演習1		
15回目	まとめ		
評価方法	レポート、授業態度及び出席率を総合的に評価する。		
教科書	プリントを配布		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学・生理学の知識を演習により体感するためより明確に理解できる。しかしながら、演習の意図や目的を判らないまま行うことはリスクを伴い、また、知識の構築にも繋がらないので前期で学習した内容を復習しておくことが大切である。 状況により項目が前後することがあります。		

授業科目	運動学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	西尾佑貴	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	1. 理学療法と作業療法の基礎となる、体の運動はどのようにして活動しているのかを理解する。 2. 各関節の物理的な動きと筋活動などの動作分析の基礎を理解する。		
行動目標	1. 動きの仕組みを学ぶ。 2. 動きのもととなる運動法則を学ぶ。 3. 各関節の動きに関係する関節の角度や筋の働きについて学ぶ。		
キーワード	運動学、運動、モーメント、物理法則、運動法則、身体とてこ、関節構成		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 運動学とは 運動学の歴史		
2回目	運動学を学ぶための基礎知識 ①身体運動の面と軸、時間、速度、加速度		
3回目	運動学を学ぶための基礎知識 ②円運動、モーメント		
4回目	生体力学の基礎 ①<身体運動と力学、時間と空間>		
5回目	生体力学の基礎 ②<運動学的分析>		
6回目	生体力学の基礎 ③<筋力と重力>		
7回目	生体力学の基礎 ④<運動法則>		
8回目	生体力学の基礎 ⑤<仕事とエネルギー、骨と関節の運動>		
9回目	生体力学の基礎 ⑥<身体とてこ>		
10回目	関節の構成 ①肩関節、肘関節		
11回目	関節の構成 ②手関節、手指関節		
12回目	関節の構成 ③股関節、膝関節		
13回目	関節の構成 ④足関節、足指関節		
14回目	関節の構成 ⑤脊柱の関節、顎関節		
15回目	関節の構成 ⑥顔面と頭部		
評価方法	1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。		
教科書	1. 基礎運動学 第7版、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	1. 運動学テキスト、南江堂 2. 15レクチャーシリーズ 運動学 中山書店 3. PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート、医歯薬出版株式会社		
履修上の注意	1. 非定期に小テストを実施します。 2. 資料等を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目	運動学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森	オフィスアワー	月～金 9:00～17:20
一般目標	作業療法の基礎となる、体の運動はどのようにして活動しているのかを理解する。 他の知識へ関連付けられる。		
行動目標	①関節の種類とその構成要素について説明できる。 ②四肢の関節運動のメカニズムについて説明できる。 ③体幹の関節運動のメカニズムについて説明できる。		
キーワード	運動学、運動、モーメント、物理法則、運動法則、身体とてこ		
	スケジュール		
1回目	オリエンテーション		
2回目	上肢帯の構成要素を知る		
3回目	肩関節の構成要素と関節運動のメカニズム		
4回目	肘関節の構成要素と関節運動のメカニズム		
5回目	手関節の構成要素と関節運動のメカニズム		
6回目	肩関節～手関節のまとめ		
7回目	下肢帯の構成要素を知る		
8回目	骨盤帯の構成要素と関節運動のメカニズム		
9回目	股関節の構成要素と関節運動のメカニズム		
10回目	膝関節の構成要素と関節運動のメカニズム		
11回目	足関節の構成要素と関節運動のメカニズム		
12回目	股関節～足関節のまとめ		
13回目	顔面筋の構成要素と働きを知る		
14回目	体幹筋の構成要素と働きを知る		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。授業中の居眠り、声掛けに対して無反応などは授業態度を不良とみなし、注意をしても改善が見られない場合は減点する。		
教科書	基礎運動学 第7版 中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート、中村雅美、医歯薬出版株式会社 PT・OTのための運動学テキスト、小柳磨毅 他編、金原出版株式会社 消して忘れない 運動学 要点生理ノート、福井勉 他編、羊土社 カラー版カパンジー機能解剖学 原著第6版 I上肢 II下肢 III脊椎・体幹・頭部, A.I.Kapandji, 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版, Donald A.Neumann, 医歯薬出版		
履修上の注意	筋・骨格系の解剖学の内容と一部重複する部分がありますが、骨や筋は運動を理解するために最低限必要な知識となります。相互に確認しながら復習するようにして下さい。質問がある時は、その場で聞いてください。		

授業科目	運動学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動に関わる栄養およびエネルギーの生産やその仕組みについて理解する。 2. 運動に関わる神経の働きについて理解する。 3. スポーツに関連する運動に関する基本と運動障害の予防について理解する。 		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動に関わる栄養およびエネルギーの生産やその仕組みについて説明できる。 2. 運動に関わる神経の働きについて説明できる。 3. 運動とスポーツに関する基本を説明できる。 4. 運動に関わる諸検査値をチェックし、異常値を認識できる。 		
キーワード	運動エネルギー 代謝 神経支配 ホルモン 酵素		
	スケジュール		
1回目	運動エネルギー源としてのタンパク質とその代謝について		
2回目	運動エネルギー源としての脂質とその代謝について		
3回目	運動エネルギー源としての糖質とその代謝について		
4回目	運動に関連するホルモンと酵素の働き		
5回目	基礎代謝とエネルギー代謝および呼吸商について		
6回目	運動に関わる神経系の基礎		
7回目	上肢の筋とその支配神経		
8回目	下肢の筋とその支配神経/体幹の筋とその支配神経		
9回目	スポーツと運動		
10回目	活動(運動)を実行する上で必要となる姿勢制御・運動制御の理論的背景について		
11回目	随意運動の制御システムについて		
12回目	運動学習理論について		
13回目	運動学習理論について		
14回目	運動学習の過程とそのモデルについて		
15回目	運動学習の過程とそのモデルについて		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験と小テスト、授業への参加態度などを総合的に評価します。 2. 筆記試験は最終授業より1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行います。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎運動学 第6版補訂, 中村隆一他, 医歯薬出版 2. 生化学・栄養学, 内山靖他, 医歯薬出版 		
参考書・資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシング・グラフィカ 病態生理学 疾病の成り立ち①, メディカ出版 2. 病態栄養専門 管理栄養士のための病態栄養ガイドブック 6版, 日本栄養病態学会, 南江堂 		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 2. 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。 		

授業科目	運動学演習	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	姿勢と正常な動作を理解する。 正常な諸動作の分析方法を理解する。 正常歩行とその分析方法を理解する。		
行動目標	姿勢と正常な動作を学ぶ。 正常な諸動作の分析方法を学ぶ。 正常歩行とその分析方法を学ぶ。		
キーワード	姿勢 動作 動作分析 歩行分析		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション／重心、身体重心位置、支持基底面、COGの求め方、関節および歩行モーメント		
2回目	立位保持、静止立位と重心動揺、静止立位におけるモーメント		
3回目	寝返り動作の分析		
4回目	起き上がり動作の分析		
5回目	立ち上がり動作の分析		
6回目	正常歩行の分析基礎 ①歩行周期		
7回目	正常歩行の分析基礎 ②歩行周期と各関節角度		
8回目	正常歩行の分析基礎 ③歩行周期と下肢筋の収縮		
9回目	正常歩行の分析基礎 ④時間距離因子		
10回目	正常歩行の分析基礎 ③足部ロッカー		
11回目	基本動作の発達過程について		
12回目	基本動作の発達過程について		
13回目	基本動作のメカニズムについて		
14回目	基本動作のメカニズムについて		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50% 上記にて総合的に評価します。		
教科書	基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	姿勢・動作・歩行分析、臨床歩行分析研究会、羊土社 標準理学療法学 臨床動作分析、医学書院 消っして忘れない 運動学要点整理ノート、羊土社 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学、中山書店 高齢者理学療法学テキスト、南江堂		
履修上の注意	2回目以降の講義初めに、不定期に小テストを行います。 必要に応じて資料を配布し、それら資料の中からも、期末試験時に出題します。		

授業科目	基礎医学総論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	医学の基礎となる点を意識し学習をしてください		
行動目標	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて説明できる 活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連を説明できる 活動(行動)による精神・心理機能の変化について説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて		
2回目	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて		
3回目	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて		
4回目	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて		
5回目	モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて		
6回目	活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連		
7回目	活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連		
8回目	活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連		
9回目	活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連		
10回目	活動(行動)と身体, 認知, 感情(情動)の関連		
11回目	活動(行動)による精神・心理機能の変化について		
12回目	活動(行動)による精神・心理機能の変化について		
13回目	活動(行動)による精神・心理機能の変化について		
14回目	活動(行動)による精神・心理機能の変化について		
15回目	活動(行動)による精神・心理機能の変化について		
評価方法	レポート課題(1回100点満点)		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	レポート課題の提出が遅れた場合は未提出とみなし留年対象となってしまいます。 必ず提出期限内に提出をお願いします。		

授業科目	人間発達学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間は母胎内から発達している。即ち、人間の一生は胎児から始まり、誕生を迎え、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期と障害発達することを理解することを本講義の目標とする。発達過程には生理的(身体・運動)にも、心理的にも発達する。これらの基本的な発達段階とその特性を中心に講義を通して学んでいく。		
行動目標	生涯発達の観点から、胎児期・新生児期・乳幼児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期以降から老年期にかけて標準的な発達を理解し、それぞれの特徴を説明できる。また、各ライフステージを通じた人間理解の為、それぞれの発達過程を学ぶ。 ①発達概念・理論について理解する。 ⑤上肢機能(つまみ・把持)の発達過程を理解する。 ②人間発達における各種検査について理解する。 ⑥感覚機能(感覚・知覚・認知)の発達過程を理解する。 ③原始反射・反応のメカニズム及び過程を理解する。 ⑦学童～老年期の発達過程を理解する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	受精のメカニズムについて		
2回目	胎児の発達過程での機能・形態的变化について		
3回目	乳・幼児期における運動発達・精神発達・言語発達について		
4回目	小児期における運動発達・精神発達・言語発達について		
5回目	青年期における身体構造・生理機能の変化について		
6回目	青年期に生じる心理・社会的変化について		
7回目	成人期における身体構造の変化について		
8回目	成人期における生理機能の変化について		
9回目	成人期に生じる心理・社会的変化について		
10回目	老年期における身体構造の変化について		
11回目	老年期における生理機能の変化について		
12回目	老年期に生じる心理・社会的変化について		
13回目	第1次性徴・第2次性徴について		
14回目	発達過程における性差について		
15回目	ライフイベントの性差について		
評価方法	定期試験にて単位認定を行う。		
教科書	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 医歯薬出版		
参考書・資料等	<資料> 講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書> 随時、紹介する。		
履修上の注意	理学・作業療法士が関わる発達領域における入口となる講義となる。 解剖学・生理学・運動学などで学習することに関連付け、人間の発達過程について理解を深めるように努めたい。 学修する範囲が広く、予習・復習を心掛けていただきたい。		

授業科目	医学概論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義(リモート)	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～木曜日 9:00～17:00
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 21世紀の医学について理解する。 各種疾患の概要や予防策などについて理解する。 		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 医学の歴史について学ぶ。 予防医学について学ぶ。 主要な疾患の予防策を中心に学ぶ。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	医学の歴史について		
2回目	メタボリックシンドロームおよび糖尿病の基本と予防		
3回目	高血圧症と脂質異常症の基本と予防		
4回目	心血管疾患の基本と予防		
5回目	脳卒中の基本と予防		
6回目	認知症の基本と予防		
7回目	ガンの基本と予防		
8回目	ロコモティブシンドロームおよびフレイル、サルコペニアの基本と予防		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 課題提出、授業への参加態度などを総合的に評価します。 		
教科書	なし		
参考書・資料等	<ol style="list-style-type: none"> コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論 改訂8版 中外医学社 21世紀の予防医学・公衆衛生: 社会・環境と健康 杏林書院 		
履修上の注意			

授業科目	病理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本淳智	オフィスアワー	
一般目標	専門職としての基礎知識を習得し、正しい理学療法を行えるようになるために、病気の成り立ちと臨床的特徴を理解する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の正常な構造及び機能を理解する 2. 疾病の原因と臨床症状の因果関係を理解する 3. 疾病の際にその臓器や器官に生じる肉眼的及び組織学的変化を理解する 4. 疾病に対する予防や治療に関する知識を習得する 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	細胞損傷と組織損傷について・壊死とアポトーシスについて		
2回目	傷害組織の修復過程ならびに再生過程について		
3回目	炎症の定義・意義・炎症反応のメカニズムについて		
4回目	感染症の分類・感染経路・感染の予防について		
5回目	呼吸器障害(拘束性, 閉塞性, 混合性)の違いとそれぞれの病因・病態について		
6回目	低酸素血症および高炭酸ガス血症の病因・病態について		
7回目	酸塩基平衡障害(アルカローシス, アシドーシス)の病因・病態について		
8回目	血行障害(虚血, 充血, うっ血, 出血)の違いとそれぞれの病因・病態について		
9回目	血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について		
10回目	糖代謝異常の病因・病態ならびにタンパク質・アミノ酸代謝異常の病因・病態について		
11回目	脂質代謝異常の病因・病態また無機質代謝異常の病因・病態について		
12回目	腫瘍の病因について		
13回目	腫瘍の分類, グレード, ステージ・浸潤・転移・自立性増殖などについて		
14回目	廃用症候群の病因・廃用症候群の分類について		
15回目	代表的な廃用症候群(褥瘡, 関節拘縮, 筋萎縮など)の病態について		
評価方法	授業態度(出席回数含む) 定期試験		
教科書	系統看護学講座 病理学 医学書院		
参考書・資料等	授業資料は都度配布		
履修上の注意			

授業科目	薬理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	五郎丸 美智子	オフィスアワー	
一般目標	薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の使用目的を説明できる ・薬の主作用、副作用、毒性の関係を説明できる ・代表的な疾患の治療薬を列記できる ・代表的な疾患の治療薬について作用機序を説明できる 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	総論 薬の基本について例をあげて学ぶ		
2回目	総論 薬の動態について学ぶ		
3回目	総論 薬効に影響する因子などについて例をあげて学ぶ		
4回目	感染症に対する代表的薬物を学ぶ		
5回目	がんの仕組みを知り、関係の薬を学ぶ		
6回目	薬物の作用機序について		
7回目	薬物の投与方法について		
8回目	薬物の体内動態について		
9回目	運動器系疾患に対する薬物療法について		
10回目	神経系疾患に対する薬物療法について		
11回目	呼吸・循環器・代謝系疾患に対する薬物療法について		
12回目	その他の疾患に対する薬物療法について		
13回目	薬物の副作用について		
14回目	薬害について		
15回目	多剤服用(ポリファーマシー)症状について		
評価方法	筆記試験 小テスト 授業態度		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進3		
参考書・資料等	基礎医学シリーズ 目で見える薬理学入門第3版 vol.1-12 山崎 純一 原案監修 医学映像教育センター 今日の治療薬 2016、浦部 晶夫 他編、南江堂		
履修上の注意	薬物療法と理学療法、作業療法との関わり合いに留意して授業に臨むこと		

授業科目	栄養学	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金内 則子	オフィスアワー	授業の前後
一般目標	栄養学の基礎的な知識およびライフステージや傷病者の栄養について、チーム医療を担うための基本的な知識を備える。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の働きおよび消化吸収、代謝について理解する。 ・栄養スクリーニング、アセスメント、栄養ケアプランと評価について理解する。 		
キーワード	栄養学の基礎、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、栄養療法		
スケジュール			
1回目	リハビリテーションと栄養		
2回目	栄養学の基礎(糖質)		
3回目	栄養学の基礎(たんぱく質)		
4回目	栄養学の基礎(脂質)		
5回目	栄養素の消化と吸収		
6回目	エネルギー代謝		
7回目	ライフステージと栄養		
8回目	摂食嚥下機能と栄養		
9回目	栄養スクリーニング		
10回目	栄養アセスメント		
11回目	栄養ケアプラン(必要栄養量)		
12回目	栄養ケアプラン(栄養投与ルート)		
13回目	栄養ケアプラン(栄養投与内容)		
14回目	糖尿病の食事療法		
15回目	脳血管疾患の栄養管理・総括		
評価方法	筆記試験		
教科書	リハベーシック「生化学・栄養学」第2版 医歯薬出版		
参考書・資料等	<p><資料> 授業に必要な資料は随時配布する。</p> <p><参考書> 随時、紹介する。</p>		
履修上の注意	生理学、生化学、内科学等で学習することと関連づけ、理解を深めること。		

授業科目	救急救命医学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	千葉 勉	オフィスアワー	8:30~17:20
一般目標	高度化する医療ニーズに対応するため、観察力、判断力を養うとともに救急救命学の基礎を習得する。		
行動目標	救急医療体制について説明できる。 一次救命処置(心肺蘇生法・AED取扱方法)について説明及び実施ができる。 各種応急処置(三角巾等)について説明及び実施ができる。 患者の急変時への対応、観察要領について説明ができる。		
キーワード	心肺停止、一次救命処置		
スケジュール			
1回目	救急医療体制について(消防編)		
2回目	一次救命処置(心肺蘇生法・AEDの取扱い)		
3回目	一次救命処置(心肺蘇生法・AEDの取扱い)		
4回目	二次救命処置		
5回目	胸骨圧迫・AED取扱い(実習)		
6回目	三角巾の取扱要領(実習)		
7回目	症候群(意識低下, けいれん, 失神, めまい, 呼吸困難, 胸痛, 嘔気・嘔吐, 腹痛, 頭痛, 動機)について		
8回目	症候群(急性肺障害・急性呼吸促進症候群, 咽頭痛, 腰背部痛, 全身性炎症反応症候群)について		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	筆記試験(50点)及び実技試験(AIでの胸骨圧迫スコア)(50点)の合計100点 ※ただし、授業態度により減点あり		
教科書	特になし		
参考書・資料等	救急救命学科で作成した資料		
履修上の注意			

授業科目	精神医学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	小林 誠	オフィスアワー	
一般目標	専門職としての基礎知識を習得し、正しい作業療法を行えるようになるために、主な精神疾患の症状・診断・治療について理解する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科のリハビリテーションにおける臨床精神医学の役割を説明できる。 2. 日本における精神医療の現状を説明できる。 3. 精神疾患の病態について説明できる。 4. 精神疾患の治療について説明できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	疫学, 予後について		
2回目	病因, 症候について		
3回目	検査(画像・生理検査を含む), 診断, 治療について		
4回目	リハビリテーション医療について		
5回目	精神障害の一般的疾患について 器質性精神障害(症状性を含む)		
6回目	精神作用物質使用による精神および行動の障害		
7回目	統合失調症, 統合失調様障害および妄想性障害		
8回目	気分障害<感情障害>(躁うつ病, うつ病を含む)		
9回目	神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害		
10回目	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群(摂食障害, 非器質性睡眠障害を含む)		
11回目	成人のパーソナリティ<人格>および行動の障害		
12回目	精神遅滞(知的障害)		
13回目	心理的発達の障害(広汎性発達障害, 特異的発達障害を含む)		
14回目	児期及び青年期に通常発症する行動および情動の障害(注意欠如・多動性障害など)		
15回目	てんかん		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	上野武治編:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学第4版 医学書院 2015		
参考書・資料等	授業資料は都度、配布します。		
履修上の注意	理学・作業療法士は、精神科の患者さんに接する分野でも活躍しています。臨床症状的視点、社会適応的視点からみた各精神障害を理解できるよう学んでください。		

授業科目	臨床心理学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	心の動きに関する基礎知識や心理学的な人間理解および手掛かりとなる理論を学び、人が適応・成長するとは何かを考える。そして、心理検査、心理療法の基礎を学び、対人援助サービスを行うための心構えを身につける。		
行動目標	①心理学の歴史について説明できる。 ②防衛機制と転移・逆転移について説明できる。 ③学習・記憶・行動について説明できる。 ④児童・青年期心理について説明できる。 ⑤成人・高齢者心理について説明できる。 ⑥患者・対象者心理について説明できる。 ⑦臨床心理検査法について説明できる。 ⑧心理療法およびカウンセリングについて説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	ガイダンス 何故臨床心理学を学ぶ必要があるのか？ 臨床心理学とリハビリテーション		
2回目	知覚心理学・学習心理学		
3回目	発達と知能①乳児期・児童期		
4回目	発達と知能②思春期・青年期		
5回目	発達と知能③成人期・中年期・老年期		
6回目	防衛機制1		
7回目	防衛機制2		
8回目	心理アセスメントと心理検査		
9回目	臨床心理学の介入技法 ①認知行動療法		
10回目	臨床心理学の介入技法 ②催眠療法 精神分析療法 内観療法 絵画療法 箱庭療法 交流分析		
11回目	臨床心理学の介入技法 ③来談者中心療法 支持的精神療法 集団精神療法 森田療法		
12回目	小テスト		
13回目	フィードバック・フィードフォワード		
14回目	国家試験問題演習		
15回目	国家試験問題演習		
評価方法	筆記テスト80% 小テスト・成果物等 20%		
教科書	リハベーシック 心理学・臨床心理学 第2班		
参考書等	リハベーシック 心理学・臨床心理学 第2班		
履修上の注意			

授業科目	骨関節障害論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田茂久	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	整形疾患(骨折、関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷など)の原因、病理、症状を理解し、作業療法評価および治療の選択ができる。		
行動目標	① 疫学, 予後について理解・説明できる。 ② 病因, 症候について理解・説明できる。 ③ 評価, 検査(画像・生理検査を含む), 診断について理解・説明できる。 ④ リハビリテーション医療について理解・説明できる。 ⑤ その他の治療について理解・説明できる。 ⑥ 骨関節障害の一般的疾患について理解・説明できる。		
キーワード	整形疾患における評価、治療理論、プロトコール		
スケジュール			
1回目	末梢神経障害① 解剖生理・新駆支配、各神経損傷の病態、病理、分類		
2回目	末梢神経障害② 各神経損傷の評価と治療、各種検査方法と評価の手順		
3回目	末梢神経障害③ 各神経損傷の評価と治療、各種検査方法と評価の手順		
4回目	骨折① 定義、分類、治癒過程、合併症、二次的障害の発生機序と対処		
5回目	骨折② 定義、分類、治癒過程、合併症、二次的障害の発生機序と対処		
6回目	骨折③ 高齢者の3大骨折の病態、評価、治療について		
7回目	骨折④ 高齢者の3大骨折の病態、評価、治療について		
8回目	関節リウマチ① 機能障害と生活障害、病態と症状		
9回目	関節リウマチ② 評価と治療、各種検査と評価の手順		
10回目	退行性疾患① 変形性膝関節症 病態・評価・治療		
11回目	退行性疾患② 頸椎症性脊髄症 病態、症状、評価と治療		
12回目	手外科疾患 屈筋腱損傷① 機能解剖、病態、症状、合併症		
13回目	手外科疾患 屈筋腱損傷② 評価と治療、各種検査と評価の手順		
14回目	肩関節疾患① 腱板損傷 機能解剖と病態、症状、治癒過程		
15回目	肩関節疾患② 腱板損傷 評価と治療、各種検査と評価の手順		
評価方法	筆記試験100%		
教科書	作業療法学全書 改定第3版 身体障害 中村隆一著 協同医書出版社 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 長崎重信監修 MEDICAL VIEW		
参考書・資料	<資料> 講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書> 随時、紹介する。		
履修上の注意	この科目を学修する上で整形外科学Ⅰ・Ⅱの知識は必須である。講義に参加するにあたり、しっかりと復習に努めたい。近年、作業療法士においても整形疾患の患者・ご利用者様を担当する機会も増えており、臨床実習においても関わる機会がある為、積極的な参加を心掛けたい。		

授業科目	疼痛医学論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	疼痛はリハビリテーションを行う上で重要な位置づけになりますので頑張って学んでいきましょう。		
行動目標	①疫学, 予後について説明できる ②病因, 症候について説明できる ③検査(画像・生理検査を含む), 診断, 治療について説明できる ④リハビリテーション医療について説明できる ⑤慢性疼痛の分類について説明できる		
キーワード	疼痛検査、リハビリテーション医療、急性疼痛・慢性疼痛		
スケジュール			
1回目	疫学, 予後について		
2回目	病因, 症候について		
3回目	検査(画像・生理検査を含む), 診断, 治療について		
4回目	リハビリテーション医療について		
5回目	慢性疼痛の分類について 一次慢性疼痛(非特異的腰痛, 線維筋痛症などを含む)		
6回目	がん性慢性疼痛		
7回目	術後および外傷後慢性疼痛(複合性局所疼痛症候群; CRPSなどを含む)		
8回目	術後および外傷後慢性疼痛(複合性局所疼痛症候群; CRPSなどを含む)		
9回目	慢性神経障害性疼痛(帯状発疹後神経痛, 三叉神経痛, 視床痛, 幻視痛などを含む)		
10回目	慢性神経障害性疼痛(帯状発疹後神経痛, 三叉神経痛, 視床痛, 幻視痛などを含む)		
11回目	慢性筋骨格系痛		
12回目	慢性筋骨格系痛		
13回目	その他の慢性疼痛(慢性頭痛, 慢性口腔顔面痛, 慢性内臓痛などを含む)		
14回目	その他の慢性疼痛(慢性頭痛, 慢性口腔顔面痛, 慢性内臓痛などを含む)		
15回目	まとめ		
評価方法	定期試験 100%		
教科書	中村利孝 松野丈夫 他著・「標準整形外科学 第14版」医学書院、2020年。		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

授業科目	神経障害論		履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態	講義		必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	高杉 潤		オフィスアワー	金(12:10~17:00)
一般目標	脳・神経系の構造・機能を知り、理学療法の対象となる神経系疾患を中心に、臨床徴候とそのメカニズムを理解する。脳神経外科の対象となる疾患の病態、症候の特徴、各種検査を理解する。			
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の各病態と症候、外科的治療が理解できる。 ・脳神経系の各疾患に対する外科治療の概要を理解できる。 ・脳画像(CT・MRI)が読影でき、病巣や疾患を判別し、症状や機能障害を予測することができる。 			
キーワード	脳、神経系障害、脳外科			
スケジュール				
1・2・3回	4月11日(2・3・4限)	脳機能障害 神経学的症候(1)(2)(3) 感覚障害、運動麻痺、脳神経検査		
4・5・6回	4月18日(2・3・4限)	脳機能障害 神経心理学的症候(1)(2)(3) 失語・失行・失認		
7・8・9回	4月25日(2・3・4限)	脳画像読影の基礎(1)(2)(3)		
10・11・12回	5月9日(2・3・4限)	脳血管障害の基礎と臨床(1)(2)(3)		
13・14・15回	5月23日(2・3・4限)	脳頭部外傷と外科的治療(1)(2) 総括		
評価方法	筆記試験(100点)によって決定する。			
教科書	ジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション 第2版(羊土社)			
参考書・資料等	<p><資料> 授業に必要な資料は随時配布する。</p> <p><参考書> 随時、紹介する。</p>			
履修上の注意	神経系に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。			

授業科目	内部障害論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	国家試験、臨床で出会う内部障害論に対して理解を深め、説明できるようにする。		
行動目標	①呼吸器疾患について理解し、説明できる。 ②内分泌・代謝疾患について理解し、説明できる。 ③消化器疾患について理解し、説明できる。 ④腎・泌尿器疾患について理解し、説明できる。 ⑤生殖器疾患について理解し、説明できる。 ⑥血液疾患・自己免疫疾患について理解し、説明できる。		
キーワード	消化管 循環器 内分泌 代謝 腎 泌尿器 免疫 アレルギー 血液 老年学		
スケジュール			
1回目	呼吸器疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
2回目	呼吸器疾患の一般的な呼吸器疾患について 慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎、誤嚥性肺炎など		
3回目	循環器疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
4回目	循環器疾患の一般的な循環器疾患について 心臓疾患、大血管疾患、末梢動脈疾患		
5回目	内分泌・代謝疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
6回目	一般的な内分泌・代謝疾患の内分泌・代謝疾患について ホルモン機能亢進症、機能不全症、糖尿病、肥満症		
7回目	消化器疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
8回目	消化器疾患の一般的な消化器疾患について 肝炎、腫瘍		
9回目	腎・泌尿器疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
10回目	腎・泌尿器疾患の一般的な腎・泌尿器疾患について 腎不全、下部尿路疾患		
11回目	生殖器疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
12回目	生殖器疾患の一般的な生殖器疾患について 乳がん、子宮がん、卵巣がん、前立腺がん		
13回目	血液疾患・自己免疫疾患の疫学、予後、病因、症候、検査(画像)、診断、治療、リハビリテーション医療について		
14回目	血液疾患・自己免疫疾患の一般的な血液疾患・自己免疫疾患について 貧血、膠原病		
15回目	まとめ		
評価方法	①筆記試験 100%		
教科書	ビジュアルノート 第5版 メディックメディア		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	生理学で履修した内容を復習しつつ、内科学、老年学について学びます。必要に応じて、生理学の教科書、プリントを用意しておいてください。		

授業科目	臨床検査・画像診断学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者である作業療法士は検査や画像情報から障害を予測し、対応する必要がある、リスク管理に繋がる。 ここでは臨床検査、画像の総論を学ぶ。各読み取りは骨関節、中枢他で行う。		
行動目標	①画像検査(Xp,CT,MRI,超音波エコー)について説明できる ②レントゲン画像から作業療法実施上の留意点について説明できる ③CT,MRI画像から作業療法実施上の留意点について説明できる ④超音波エコー画像から作業療法実施上の留意点について説明できる ⑤ビデオなどの動作解析画像から作業療法実施上の留意点について説明できる ⑥心電図波形から作業療法実施上の留意点について説明できる ⑦筋電図波形から作業療法実施上の留意点について説明できる		
キーワード	スケジュール		
1回目	ガイダンス		
2回目	①画像検査(Xp,CT,MRI,超音波エコー)について説明できる		
3回目	②レントゲン画像から作業療法実施上の留意点について説明できる		
4回目	③CT,MRI画像から作業療法実施上の留意点について説明できる		
5回目	④超音波エコー画像から作業療法実施上の留意点について説明できる		
6回目	⑤ビデオなどの動作解析画像から作業療法実施上の留意点について説明できる		
7回目	⑥心電図波形から作業療法実施上の留意点について説明できる		
8回目	⑦筋電図波形から作業療法実施上の留意点について説明できる		
評価方法	定期テストにて評価します。		
教科書	授業で使用する資料は随時配布します。		
参考書・資料等	PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方 医歯薬出版株式会社 中島雅美 中島喜代彦 大村優慈 編著		
履修上の注意	医療職には基本となる科目となりますが、今まで触れたことのない内容のため、理解するまでに時間がかかると思います。わからなければ質問し、予習、復習を30分行い、理解してください。		

授業科目	疾病と障害	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者である作業療法士は検査や画像情報から障害を予測し、対応する必要がある、リスク管理に繋がる。 ここでは臨床検査、画像の総論を学ぶ。各読み取りは骨関節、中枢他で行う。		
行動目標	①がん関連疾患について、臨床医学の疫学、予後、病因、症候について説明できる ②がん関連障害と臨床医学の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ③がん関連障害と臨床医学のリハビリテーション医療について説明できる ④熱傷の疫学、病理、病態、症候、検査(画像、生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑤褥瘡・創傷の疫学、病理、病態、症候について説明できる ⑥褥瘡・創傷の検査(画像、生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑦褥瘡・創傷のリハビリテーション医療について説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	ガイダンス		
2回目	①がん関連障害と臨床医学の疫学、予後について		
3回目	②がん関連障害と臨床医学の病因、症候について		
4回目	③がん関連障害と臨床医学の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について		
5回目	④がん関連障害と臨床医学のリハビリテーション医療について		
6回目	⑤その他の治療について説明できる。		
7回目	①熱傷の疫学について説明できる		
8回目	②熱傷の病理、病態、症候について説明できる		
9回目	③熱傷の検査(画像、生理検査を含む)、診断、治療について説明できる		
10回目	④熱傷のリハビリテーション医療について説明できる		
11回目	①褥瘡・創傷の疫学について説明できる		
12回目	②褥瘡・創傷の病理、病態、症候について		
13回目	③褥瘡・創傷の検査(画像、生理検査を含む)、診断、治療について		
14回目	褥瘡・熱傷のリハビリテーション医療について		
15回目	まとめ		
評価方法	定期テストにて評価します。		
教科書	授業で使用する資料は随時配布します。		
参考書・資料等	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 メディカルビュー 長崎 重信[監修・編集]		
履修上の注意	がん関連障害、皮膚障害(熱傷・褥瘡)について学びます。臨床でもたびたび関わる疾患であり、近年国家試験でも問われてきている分野になります。授業で学んだことを、自分なりにまとめ、他者に説明できるようにしましょう。		

授業科目	老年期障害論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田茂久	オフィスアワー	月～金 9:00～17:20
一般目標	①対象となる高齢者が年齢を重ねて起こる身体的、精神的変化を理解する ②高齢の方々を対象に、援助が必要な日常の作業は何か、どうすればその作業を行えるようになる、あるいは続けることができるかを考えられる視点を養うことができる。		
行動目標	①老年期障害と臨床医学の疫学、予後について説明できる ②老年期障害と臨床医学の病因、症候について説明できる ③老年期障害と臨床医学の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ④老年期障害と臨床医学のリハビリテーション医療について説明できる ⑤その他の治療について説明できる ⑥老年期障害の一般的疾患について説明できる ⑦老年期症候の分類、代表的な老年症候群(サルコペニア、フレイル、認知症など)の病態について説明できる		
キーワード	診断、病態、治療		
スケジュール			
1回目	老化と老年病の考え方		
2回目	加齢に伴う変化:生理機能(形態学変化も含めて)		
3回目	加齢に伴う変化:運動機能		
4回目	加齢に伴う変化:精神心理面		
5回目	高齢者に多い症候と老年期症候群		
6回目	循環器疾患		
7回目	呼吸器疾患		
8回目	消化器疾患		
9回目	骨関節疾患		
10回目	神経疾患		
11回目	精神疾患		
12回目	内分泌代謝疾患		
13回目	社会学・経済学からみた高齢社会、高齢者の医療・看護・介護・福祉・保健		
14回目	高齢者のリハビリテーション・退院支援(グループワーク)		
15回目	高齢者の終末期医療の考え方		
評価方法	筆記試験		
教科書	標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版 医学書院 作業療法学ゴールドマスター 老年期作業療法学 MEDICAL VIEW社		
参考書・資料等	授業資料は都度、配布します。		
履修上の注意	作業療法士として老年期にあたる高齢者の方々と関わる機会は今後多くなっていきます。 高齢者の特性、罹患しやすい疾患など、作業療法介入を含めてしっかりと理解に努めてください。		

授業科目	リハビリテーション学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	
一般目標	医療の分野で生じる倫理観を自分の言葉で説明できる		
行動目標	①生命倫理、医療倫理、臨床倫理の関連領域の倫理の動向が理解できる。 ②医療・理学作業療法における倫理に関する規範・原則や指針(倫理の原則、倫理指針、日本理学療法士協会・作業療法士協会の倫理綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート、ニュルンベルク綱領)について説明できる。 ③医療の進歩に伴う倫理的課題の同行について説明できる。 ④医療や理学・作業療法の現場における倫理的課題と解決方法について説明できる。 ⑤保健医療における個人情報の取り扱いとセキュリティについて説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	ガイダンス		
2回目	生命倫理、医学倫理、臨床倫理について		
3回目	医療における倫理について(ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート、ニュルンベルク綱領)		
4回目	医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について①(倫理の基礎)		
5回目	医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について②(インフォームド・コンセント)		
6回目	医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について③(患者の自己決定権)		
7回目	医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について④(脳死について)		
8回目	医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について⑤(出産と生殖補助医療について)		
9回目	医療やリハビリテーションの現場における倫理的課題と解決方法		
10回目	保険医療における個人情報の取り扱いとセキュリティについて		
11回目	個人情報保護や守秘義務に関する法規について		
12回目	多職種間の情報共有時の配慮について		
13回目	情報開示に関する法的根拠と注意点		
14回目	国際化の動向と保健・医療における課題		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(個人ワーク、グループワーク)、小テストにて判断します。		
教科書	授業で使用する資料は随時配布します。		
参考書・資料等	生命倫理学入門(第4版), 今井道夫, 産業図書 保健・医療職のための生命倫理ワークブック, 吉川ひろみ マンガで学ぶ整形倫理, 児玉 聡・なつたか, (株)科学同人		
履修上の注意	グループワークを行います。自分の意見をしっかり伝え、相手の意見も尊重しましょう。		

授業科目	社会保障論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦(第1種衛生管理者)	オフィスアワー	月～金曜日 9:00～17:00
一般目標	社会保障・福祉制度について歴史から現代の制度や仕組み・内容を理解する。		
行動目標	基礎的な知識の習得と、医療福祉従事者としての福祉国家に対する思考方法を養う。そのために、 1.多様な社会保障の仕組みや内容を説明できる。 2.患者や利用者に必要な社会保障制度について説明できる。		
キーワード	医療保険、介護保険、労働災害保険、生活保護法		
スケジュール			
1回目	社会保障の基本①		
2回目	社会保障の基本②		
3回目	医療保険制度①		
4回目	医療保険制度②		
5回目	医療保険制度③		
6回目	介護保険制度①		
7回目	介護保険制度②		
8回目	介護保険制度③		
9回目	介護保険制度④		
10回目	労働災害保険①		
11回目	労働災害保険②		
12回目	労働災害保険③		
13回目	生活保護①		
14回目	生活保護②		
15回目	まとめ		
評価方法	・定期試験 ・授業態度・演習取組状況を総合的に勘案し評価する。		
教科書	『わかりやすい 社会保障制度 改訂版』 ぎょうせい		
参考書・資料等	適宜、紹介、配布していく。		
履修上の注意	講義・演習の進捗により予定変更ありえます。 医療は社会保障制度での行為、事業であることを意識したうえで、社会の変化、また、改良すべき問題点に対応していることを意識してください。講義では毎回意見を伺うので、寝ている、聞いていないでは講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら扱うテーマについて調べ、関心をもって講義に生かしてください。		

授業科目	作業療法概論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	作業療法の定義、歴史、領域と対象について修学し、作業療法について説明することができる。		
行動目標	①日本の作業療法について説明できる。 ②領域別作業療法について説明できる。 ③作業療法理論、モデルについて説明できる。 ④作業療法のプロセスについて説明できる。 ⑤理学療法士及び作業療法士法について説明できる。 ⑥診療録(カルテ)についての基本的な知識を修得し、問題志向型医療記録(problem-oriented medical 21 record)形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。 ⑦作業療法部門における管理について説明できる。		
キーワード	作業療法、領域別作業療法、作業療法理論・モデル		
スケジュール			
1回目	～イントロダクション～ 作業療法の紹介、作業療法は難しいのか・・・		
2回目	作業療法とは… 作業、作業分析①		
3回目	作業療法とは… 作業、作業分析②		
4回目	作業療法とは… 作業療法の歴史① 作業療法の実際		
5回目	作業療法とは… 作業療法の歴史②		
6回目	作業療法の対象… 障害の理解、諸外国における作業療法の対象の捉え方		
7回目	作業療法の実際① 作業療法の原理、作業療法の理論、領域別作業療法作業療法の実際		
8回目	作業療法の実際② 領域別作業療法(身体障害・精神障害)		
9回目	作業療法の実際③ 領域別作業療法(発達領域・高齢期障害)		
10回目	作業療法の実際④ 病気別作業療法(急性期・回復期・生活期)		
11回目	作業療法の実際⑤ 病気別作業療法(終末期)、圏外作業療法		
12回目	作業療法の臨床思考過程に触れる①		
13回目	作業療法の臨床思考過程に触れる②		
14回目	作業療法の臨床思考過程に触れる③		
15回目	作業療法の臨床思考過程に触れる④		
評価方	提出課題(レポート)100%で評価を行います。		
教科書	特になし		
参考書・資料	作業療法学全書 改定第3版 作業療法概論 第1巻 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業療法概論 メディカルビュー社		
履修上の注意	作業療法について学ぶ大切な講義です。専門的な言葉が多いですが、講義中にわかりやすく説明をしています。 第1回～第8回まではリモートにて講義を行います。		

授業科目	リハビリテーション概論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	リハビリテーションが生まれた背景や語源の意味, リハビリテーションとは何かを理解できる。		
行動目標	リハビリテーション・作業療法の歴史を説明できる。 ノーマライゼーション・IL運動をする説明できる。 疾病・生活機能の概念と分類を説明できる。 作業療法の対象となる人々を説明できる。 多岐にわたる領域の作業療法を説明できる。		
キーワード	障がい者、全人間的復権、多職種連携		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	リハビリテーションと機能訓練の違い/医療・保険・社会福祉とリハビリテーションの関わり方		
3回目	リハビリテーション・マインド/廃用性症候群		
4回目	回復期リハビリテーション病棟/生活期リハビリテーション		
5回目	疾患と障害の関係/リハビリテーション科医		
6回目	理学療法と理学療法士/作業療法と作業療法士		
7回目	言語聴覚療法と言語聴覚士/リハビリテーション看護		
8回目	チーム医療/機能評価		
9回目	機能障害/能力低下(能力障害)		
10回目	歩行/装具		
11回目	義肢/車椅子		
12回目	リハビリテーションロボティクス/医療・社会福祉と法律		
13回目	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム		
14回目	まとめ		
15回目	まとめ		
評価方法	課題提出、レポートにて判断します。		
教科書	椿原彰夫:リハビリテーション総論 改訂4版 診断と治療社		
参考書・資料等	随時、資料を配布します。 中村隆一:入門リハビリテーション概論第7版 医歯薬出版 2009		
履修上の注意	リハビリテーション・理学・作業療法とは何か、どのような環境でどのようなことをするお仕事なのかを学びます 将来なりたい理学・作業療法士をイメージしながら一緒に勉強していきましょう。		

授業科目	保健福祉制度論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	保健福祉制度論を理解することでより専門職としての知識の幅を広げる。		
行動目標	疫学の必要性、疫学研究の種類、疫学統計結果の読み方について説明できる 統計用語、研究目的に応じた統計手法の選択について説明できる 代表的な統計手法の結果の読み方について説明できる サンプルサイズ、EBMのステップ、エビデンスレベルについて説明できる 診療ガイドラインとはどのようなものか、共有意思決定のあり方について説明できる 研究者倫理(オーサーシップ、研究不正などを含む)、研究対象者に対する倫理的配慮について説明できる 利益相反、研究倫理審査、研究の意義、研究疑問・研究仮説、研究疑問に応じた研究デザインについて説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	疫学の必要性について		
2回目	疫学研究の種類について		
3回目	疫学統計結果の読み方について		
4回目	統計用語について		
5回目	研究目的に応じた統計手法の選択について		
6回目	代表的な統計手法(平均値の差の検定、分散分析、相関、回帰、二元表に基づく解析)の結果の読み		
7回目	サンプルサイズ、EBMのステップ、エビデンスレベルについて		
8回目	診療ガイドラインとはどのようなものかについて		
9回目	共有意思決定のあり方について		
10回目	研究者倫理(オーサーシップ、研究不正などを含む)について		
11回目	研究対象者に対する倫理的配慮について		
12回目	利益相反について		
13回目	研究倫理審査、研究の意義、研究疑問・研究仮説、研究疑問に応じた研究デザインについて		
14回目	研究疑問に基づき、先行研究を検索する		
15回目	先行研究を批判的に吟味する		
評価方法	定期試験、講義受講・参加態度を基準に総合判定する。		
教科書			
参考書・資料等	授業の中で適時紹介する		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

授業科目	基礎作業療法学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>作業療法における「作業」の個人的意味を理解し、ひとと作業と環境の相互作用の結果としての作業遂行を考え、個々人における「作業」の意義を考慮し、実践できるように学習する。 種々の作業活動について、作業の遂行、必要な道具・材料、工程等を学ぶ。</p>		
行動目標	<p>①作業療法における「作業」を理解できる。 ②作業療法における「作業」の個人的意味合いを理解できる。 ③人と作業と環境の相互作用を理解できる。 ④作業遂行において必要なもの考えることができる。 ⑤個々人における「作業」の意義を考え、実践する上での基礎知識を理解する。 ⑥作業活動に必要な道具、材料、行程を説明できる。 ⑦作業の特性、体験した作業についての肯定的側面と否定的側面を挙げる事ができる。</p>		
キーワード	作業 作業療法士 作業分析		
スケジュール			
1回目	～オリエンテーション ひとと作業の関わり		
2回目	作業とは・・・作業療法の歴史		
3回目	作業を用いた治療		
4回目	心身機能向上の方法		
5回目	作業分析① 作業分析とは・・・分析方法について		
6回目	作業分析② 分析結果と治療目標について		
7回目	作業分析③ 作業の治療への適応		
8回目	作業の治療への適応	activity体験②籐細工	
9回目	作業の治療への適応	activity体験②籐細工	
10回目	作業の治療への適応	activity体験②籐細工	
11回目	作業の治療への適応	activity体験②籐細工	
12回目	作業の治療への適応	activity体験②籐細工	
13回目	作業分析(レポート課題)の書式と記載について		
14回目	作業分析のFB		
15回目	作業分析 まとめ		
評価方法	<p>①作業分析に用いた作品の提出(20%) ②作業分析を実施した際のレポート課題の提出(80%) 上記の2点で単位認定を行う。</p>		
教科書	作業学 [作業療法学ゴールドマスターテキスト] 第3版 メディカルビュー社		
参考書等	作業 その治療的応用 改定第2版 協同医書出版社		
履修上の注意	<p>作業療法について学ぶ第一歩の科目となります。 作業療法士が用いる作業とは何か、作業の個人的意味、作業療法の活用と治療への適応と今後の作業療法士教育の基礎となる科目ですので、事前・事後学習および積極的に講義で参加してください。</p>		

授業科目	基礎作業療法学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	①人・環境・作業の関係性を理解する。 ②作業療法の各種モデル(生体力学モデル、運動学習モデル、環境適応モデル、人間作業モデル、カナダ作業遂行モデル、感覚統合モデル等)を理解する。 ③作業療法に関連した各種理論や枠組み(認知行動療法、応用行動分析、精神分析等)を理解する。		
行動目標	①人・環境・作業の関係性を説明できる。 ②作業と健康、ウェルビーイング、人権等との関係性を説明できる。 ③作業行動理論及び作業科学について説明できる。 ④人の作業プロフィールを作成することができる。 ⑤作業療法のリーズニングについて説明できる。 ⑥作業療法の各種モデル(生体力学モデル、運動学習モデル、環境適応モデル、人間作業モデル、カナダ作業遂行モデル、感覚統合モデル等)を説明できる。 ⑦作業療法に関連した各種理論や枠組み(認知行動療法、応用行動分析、精神分析等)を説明できる。		
キーワード	作業療法リーズニング、人間作業モデル、カナダ作業遂行モデル		
スケジュール			
1回目	人・環境・作業の関係性について		
2回目	作業と健康、ウェルビーイング、人権等との関係性について		
3回目	作業行動理論及び作業科学について①		
4回目	作業行動理論及び作業科学について②		
5回目	人の作業プロフィールの作成 グループワーク①		
6回目	人の作業プロフィールの作成 グループワーク②		
7回目	人の作業プロフィールの作成 グループワーク③		
8回目	作業療法のリーズニングについて①		
9回目	作業療法のリーズニングについて②		
10回目	作業療法の各種モデルについて① 生体力学モデル・運動学習モデル		
11回目	作業療法の各種モデルについて② 環境適応モデル		
12回目	作業療法の各種モデルについて③ 人間作業モデル・カナダ作業遂行モデル		
13回目	作業療法の各種モデルについて④ 感覚統合モデル		
14回目	作業療法に関連した各種理論や枠組みの理解 (認知行動療法・応用行動分析)		
15回目	作業療法に関連した各種理論や枠組みの理解 (精神分析)		
評価方法	①定期試験:80% ②提出物、講義内成果物:20% 上記にて総合的に評価を実施します。		
教科書	作業学 [作業療法学ゴールドマスターテキスト] 第3版 メディカルビュー社		
参考書・資料等	適宜、講義内にて参考資料を配布します。		
履修上の注意	作業療法の知識や技術、「作業とは何か…」を学ぶ大事な科目である。作業療法士を目指す上で必須となる科目となる為、集中して取り組んで下さい。		

授業科目	作業療法研究学	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>研究の成果を解釈し、適用していく方法を学ぶ。 将来的な作業療法研究活動の基盤をつくるため、作業療法学研究の方法を学ぶ。</p>		
行動目標	<p>①2群間の差について適切な検定手法を選択し実施できる(群間の対応あり、なしを含む)。 ②パラメトリック・ノンパラメトリック検定の違い、カイ2乗検定法、一元配置分散分析、2変量の散布図を描き、回帰と相関の違いを説明できる。 ③根拠に基づいた医療(EBM)の5つのステップを列挙できる。 ④Patient, population, problem, intervention (exposure), comparison, outcome を用いた問題の定式化ができる。 ⑤研究デザインを概説、データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。 ⑥得られた情報の批判的吟味ができる。 ⑦診療ガイドラインの種類と使用上の注意、推奨の強さについて違いを説明できる。</p>		
キーワード	臨床・研究倫理、統計と解析、文献抄録		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	研究法を学ぶ意義について		
3回目	臨床倫理と研究倫理について		
4回目	研究の種類とデザインについて		
5回目	研究に必要な手法について		
6回目	信頼性と妥当性、検定について		
7回目	統計方法と解析方法について①		
8回目	統計方法と解析方法について②		
9回目	統計と解析の実践について①		
10回目	統計と解析の実践について②		
11回目	文献の検索方法		
12回目	文献抄録とは(文献抄録作成)		
13回目	抄録・プレゼンテーション(ポスター)作成		
14回目	プレゼンテーション(ポスター)発表		
15回目	まとめ		
評価方法	<p>筆記試験 50% プレゼン、成果物 50% 上記にて総合的に評価をします。</p>		
教科書	作業療法研究法 竹田徳則・大浦智子 編著(医歯薬出版)		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	<p>確率統計や分析手法、文献の探し方等を中心に授業を進めていきます。 ノートパソコンを使って統計処理を実践しますので、いつでも使用できるように準備をしておきましょう。</p>		

授業科目	統合作業療法学	履修年次	3年次
		単位数	3単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	生活行為向上マネジメントの概念のもと。提示された症例の全体像を把握し、現状の能力や生活行為を妨げている要因の分析、それにもとづいた目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法の流れを体験する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された疾患の基礎知識を自身で調べることが出来る。 ・必要な情報を考え、情報を得ることが出来る。 ・情報収集から得た情報から動作の確認が行える。 ・評価計画の立案、評価の目的・留意点を踏まえ、実施できる。 ・評価結果の仮説の立証と結果の解釈ができる。 ・目標と目標に合わせた治療プログラムが立案できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1・2・3回目	オリエンテーション、症例提示と調べ学習		
4・5・6回目	基礎・医学的・社会的情報の収集		
7・8・9回目	基本的動作・ADL観察		
10・11・12回目	動作・活動観察からの臨床推論		
13・14・15回目	評価計画の立案		
16・17・18回目	評価目的・留意点の確認、評価実施①		
19・20・21回目	結果の解釈①		
22・23・24回目	評価目的・留意点の確認、評価実施②		
25・26・27回目	結果の解釈②		
28・29・30回目	評価目的・留意点の確認、評価実施③		
31・32・33回目	結果の解釈③		
34・35・36回目	現状の課題と生活行為を妨げている要因の整理		
37・38・39回目	ゴール及びプログラム立案①		
40・41・42回目	ゴール及びプログラム立案②		
43・44・45回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	体験を通して、一連の作業療法思考過程を理解できるよう取り組むこと。		

授業科目	作業療法管理学Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。		
行動目標	①作業療法の実施とその対価(診療報酬・介護報酬など)について説明できる。 ②作業療法の実施後の診療記録と書類管理(電子カルテなどを含む)について説明できる。 ③作業療法の実施における他職種との業務調整(処方内容の確認、他職種への申し送り)について説明できる ④作業療法の実施に関わるカンファレンスについて説明できる。 ⑤作業療法機器の保守点検・安全管理について説明できる。 ⑥作業療法機器の配置計画(職場環境デザインを含む)について説明できる。 ⑦人事考課(職員採用・昇格審査など)について説明できる。 ⑧労務管理(勤務時間・休暇管理など)について説明できる。		
キーワード	マネジメント、PDCAサイクル、アクシデント、インシデント、感染対策、ハラスメント		
スケジュール			
1回目	ガイダンス		
2回目	①作業療法におけるマネジメント		
3回目	②組織の成り立ちとマネジメント		
4回目	③情報のマネジメント		
5回目	④作業療法と医療サービス		
6回目	⑤医療安全のマネジメント		
7回目	⑥作業療法業務のマネジメント(1) 人・物・経済性のマネジメント		
8回目	⑦作業療法業務のマネジメント(2) 情報・時間・ストレスのマネジメント		
9回目	⑧作業療法業務のマネジメント(3) 実践からの学び		
10回目	⑨作業療法の役割と職域		
11回目	⑩作業療法の職業倫理		
12回目	⑪作業療法をとりまく諸制度		
13回目	⑫作業療法臨床実習の理解と管理体制		
14回目	⑬作業療法士のキャリア開発		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験 100%		
教科書	作業療法管理学入門 第2版、大庭順平 編著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	疑問があれば自分で調べることを。調べた結果わからないことを質問しましょう。 作業療法士として、患者様の評価・治療に関する知識のみではなく、臨床の現場で必要となる業務に関する内容を幅広く学習します。		

授業科目	作業療法管理学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金(8:30～9:20)
一般目標	作業療法管理学Ⅰで学んだことの復習及び、さらなる学びを通して、知識の定着を図る		
行動目標	①組織のマネジメントについて、医療施設、介護施設、福祉施設の違いについて説明できる。 ②理学療法士、作業療法士、言語聴覚士それぞれの職業倫理について説明できる。 ③リハビリテーションにおける業務管理について説明できる。 ④人材育成・キャリア開発について説明できる。		
キーワード	組織マネジメント、ウェル・ビーイング、経営理念、財務管理、経営企画、企業		
スケジュール			
1回目	ガイダンス		
2回目	リハビリテーションにおける管理運営とは		
3回目	社会保障制度と組織について		
4回目	医療保険制度と組織について		
5回目	介護保険制度と組織について		
6回目	医療施設の組織マネジメント		
7回目	介護施設の組織マネジメント		
8回目	福祉施設の組織マネジメント①特別養護老人ホーム		
9回目	" ②障害者福祉施設		
10回目	リハビリテーションにおける業務管理①		
11回目	リハビリテーションにおける業務管理②		
12回目	リハビリテーションにおける人材育成・キャリア開発①		
13回目	リハビリテーションにおける人材育成・キャリア開発②		
14回目	リハビリテーションにおける人材育成・キャリア開発③		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験、小テスト、授業態度にて総合的に判断します。 ※授業態度とは授業に取り組む姿勢、意欲等、授業の進行を妨げる等の不適切な行動をとっている学生に対し、 教員から注意を受けたにもかかわらず改善が見られず、同じ内容で注意された場合、定期テストの点数より 5点減点とする。		
教科書	指定なし(講義資料は授業ごとに配布)		
参考書・資料等	PT・OT・STのためのリハビリテーション管理学 診断と治療社 久保孝明 山野 克明 編集		
履修上の注意	近い将来関わることとなります。近年の国家試験でも問われてきている科目のため、しっかりと理解しておきましょう。		

授業科目	作業療法評価学総論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>作業療法評価とは、作業療法という一連の過程の中で、各種情報収集、観察、面接、検査・測定などの方法を用いて得られた情報を整理・分析・考察することである。その上で、対象者の障害像を総体的に把握し、治療目標の設定や治療プログラムの立案に役立てることで作業療法を提供します。本科目では、関節可動域検査について理解し、測定方法の実際を習得する。</p>		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 基本軸と移動軸および参考可動域を説明できる。 2) 健常人の関節可動域を測定できる。 3) 適切な記録および学術的資料として活用できる。 4) 関節の機能状態を客観的に把握し、 5) その制限因子を考察できる。 6) 日常生活と関節可動域の関連について説明できる。 		
キーワード	関節可動域、基本軸、移動軸、参考可動域、代償動作		
スケジュール			
1回目	関節運動の基本		
2回目	関節可動域の測定の定義と目的		
3回目	肩甲帯(屈曲・伸展、挙上・下制)		
4回目	肩関節(屈曲・伸展、外転・内転)		
5回目	肩関節(外旋・内旋)		
6回目	肩関節(水平屈曲・伸展)、肘関節		
7回目	前腕・手関節		
8回目	股関節(屈曲・伸展、外転・内転)		
9回目	股関節(外旋・内旋)、膝関節		
10回目	足関節・足部		
11回目	頸部・胸腰部		
12回目	母指・手指・足趾		
13回目	日常生活と関節可動域について		
14回目	まとめ		
15回目	まとめ		
評価方法	実技試験3割、筆記試験4割、パフォーマンス試験3割にて判断します。		
教科書	作業療法評価学[ゴールドマスター・テキスト] 第3版 メディカルビュー 新・徒手筋力検査法【原著第10版】 協同医書出版社		
参考書・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ROMナビ 動画で学ぶ関節可動域測定法 増補改訂第3版 青木主税 他 著 ※授業で使用する資料は随時配布します。 		
履修上の注意	<p>実技が中心のため、基本的にはKCを着用。実習に臨む容姿で受講すること。 ※上衣の下はTシャツが好ましい。 移動軸。基本軸、参考可動域は暗記しておく。</p>		

授業科目	作業療法評価学Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	作業療法評価とは、作業療法という一連の過程の中で、各種情報収集、観察、面接、検査・測定などの方法を用いて得られた情報を整理・分析・考察することである。その上で対象者の障害像を総体的に把握し、治療目標の設定や治療プログラムの立案に役立てるために行う必要がある。		
行動目標	①徒手筋力検査の目的・判断基準・基本的手順を理解する。 ②代償動作・固定と抵抗など基本的な注意事項を理解する。 ③検査法の理念・原則を十分に理解し説明することができる。 ④想定される患者、対象者に対しMMTの手技を実施できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション MMT総論		
2回目	肩甲骨外転と上方回旋、肩甲骨挙上、肩甲骨内転		
3回目	肩甲骨下制と内転、肩甲骨内転と下方回旋 他		
4回目	肩関節屈曲、肩関節伸展、肩関節外転		
5回目	肩関節水平外転、肩関節水平内転、肩関節外旋		
6回目	肩関節内旋、肘関節屈曲、肘関節伸展		
7回目	前腕回内、前腕回外、手関節屈曲、手関節伸展		
8回目	股関節屈曲、股関節屈曲 他		
9回目	股関節外転、股関節内転、股関節外旋 他		
10回目	膝関節屈曲、膝関節伸展		
11回目	足関節底屈、足関節背屈ならびに内がえし 他		
12回目	体幹伸展、骨盤挙上、体幹屈曲		
13回目	体幹回旋、コアテスト		
14回目	手指・脳神経支配筋のテスト		
15回目	まとめ		
評価方法	実技試験6割、筆記試験4割にて判断する。 実技試験は単独ではなく他の教科と同時に進行総合実技試験にて課す場合もある。		
教科書	新・徒手筋力検査法【原著第10版】 協同医書出版社		
参考書等	講義前に資料をPDFにて配布する。 教科書・講義資料の他、必要に応じて、参考資料・文献などを紹介する。		
履修上の注意	準備学習:検査の対象となる筋の理解。特に主要な筋の起始・停止・神経支配は復習しておく。運動障害の要因の一つとして筋力を評価するうえで、テキストを十分に読み込み、臨床実習で使える技術になるように習得してください。授業では毎回白衣を着用。詳細はオリエンテーションでお話します。 ※巷には様々なMMTのテキストが販売されているが、「版」が異なると評価法が異なる物があるので注意すること。		

授業科目	作業療法評価学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	森田茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業の可能にむけた支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。		
行動目標	① 評価の意義と目的について説明できる。 ② 日常生活活動、人が営む生活行為と、それを行うのに必要な心身の活動の分析を実施・説明できる。 ③ 人々ができるようにになりたいこと、できる必要があること、できることが期待されていることなど、個別的な目的や価値における、作業の評価について説明・実施できる。		
キーワード	スケジュール		
1回目/2回目	姿勢制御のバイオメカニクス / 基本動作分析 寝返り動作の分析		
3回目/4回目	基本動作分析 寝返り 指導・介助方法 / 基本動作分析 起き上がり動作の分析		
5回目/6回目	基本動作分析 起き上がり 指導・介助方法 / 基本動作分析 起立・着座の動作の分析		
7回目/8回目	基本動作分析 起立・着座 指導・介助方法 / 基本動作分析 歩行動作の分析		
9回目/10回目	基本動作分析 歩行 指導・介助方法 / 疾患別 動作分析①		
11回目/12回目	疾患別 動作分析② / 疾患別 動作分析③		
13回目/14回目	疾患別 動作分析④ / まとめ		
15回目/16回目	作業療法評価法Ⅰで学んだ知識・技術の確認およびまとめ / 実践的な記録 ～SOAPの記載について～		
17回目/18回目	作業療法思考過程① 事例検討 評価計画の立案 / 作業療法思考過程② 評価結果の統合と解釈		
19回目/20回目	作業療法思考過程③ 焦点化および目標設定 / 作業療法思考過程④ 考察		
21回目/22回目	作業療法思考過程⑤ 作業療法治療計画の立案 / 作業療法思考過程⑥ 事例検討 中枢疾患		
23回目/24回目	作業療法思考過程⑦ 事例検討 中枢疾患 GW / 作業療法思考過程⑧ 事例検討 中枢疾患 GW		
25回目/26回目	作業療法思考過程⑨ 事例検討 中枢疾患 GW / 作業療法思考過程⑩ 事例検討 整形疾患		
27回目/28回目	作業療法思考過程⑪ 事例検討 整形疾患 GW / 作業療法思考過程⑫ 事例検討 整形疾患 GW		
29回目/30回目	作業療法思考過程⑬ 事例検討 整形疾患 GW / まとめ		
評価方法	① 定期試験(50%) ② レポートなどの成果物及び発表内容(50%) 上記の2点で複合評価にて行う。		
教科書	作業療法学全書 改定第3版 身体障害 中村隆一著 協同医書出版社 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 長崎重信監修 MEDICAL VIEW		
参考書・資料等	<資料> 講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書> 随時、紹介する。		
履修上の注意	作業療法思考過程を学ぶ過程である。 グループワークで多面的な考え方を共有し、適切な作業療法実践の為の知識・技術の修得を図るように努力すること。		

授業科目	作業療法評価学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	作業の可能にむけた支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。		
行動目標	① 評価の意義と目的について説明できる。 ② 日常生活活動、人が営む生活行為と、それを行うのに必要な心身の活動の分析を実施・説明できる。 ③ 人々ができるようにになりたいこと、できる必要があること、できることが期待されていることなど、個別的な目的や価値における、作業の評価について説明・実施できる。		
キーワード	姿勢、基本動作分析、作業療法臨床思考過程		
スケジュール			
1回目/2回目	動作分析とは… 姿勢制御のバイオメカニクス、姿勢及び評価について		
3回目/4回目	基本動作分析① ～寝返り～ メカニズムについて学ぶ		
5回目/6回目	基本動作分析① ～寝返り～ 演習:寝返り動作について分析、介助方法・指導について考察する。		
7回目/8回目	基本動作分析② ～起き上がり～ メカニズムについて学ぶ		
9回目/10回目	基本動作分析② ～起き上がり～ 演習:寝返り動作について分析、介助方法・指導について考察する。		
11回目/12回目	基本動作分析③ ～起立・着座～ メカニズムについて学ぶ		
13回目/14回目	基本動作分析③ ～起立・着座～ 演習:寝返り動作について分析、介助方法・指導について考察する。		
15回目/16回目	基本動作分析④ ～歩行～ メカニズムについて学ぶ		
17回目/18回目	基本動作分析④ ～歩行～ 演習:寝返り動作について分析、介助方法・指導について考察する。		
19回目/20回目	作業療法評価法Ⅰで学んだ知識・技術の確認およびまとめ / 実践的な記録 ～SOAPの記載について～		
21回目/22回目	作業療法思考過程① 事例検討 評価計画の立案 / 作業療法思考過程② 評価結果の統合と解釈		
23回目/24回目	作業療法思考過程③ 焦点化および目標設定 / 作業療法思考過程④ 考察		
25回目/26回目	作業療法思考過程⑤ 作業療法治療計画の立案 / 作業療法思考過程⑥ 事例検討A 中枢疾患		
27回目/28回目	作業療法思考過程⑦ 事例検討A 中枢疾患 / 作業療法臨床思考過程⑧ 事例検討B 整形疾患		
29回目/30回目	作業療法思考過程⑨ 事例検討B 整形疾患 / まとめ		
評価方法	①筆記試験50% ②レポート提出50% 上記、2点にて総合評価します。		
教科書	作業療法学全書 改定第3版 身体障害 中村隆一著 協同医書出版社 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 長崎重信監修 MEDICAL VIEW		
参考書等	<資料>講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書>随時、紹介する。		
履修上の注意	作業療法思考過程を学ぶ過程である。 グループワークで多面的な考え方を共有し、適切な作業療法実践の為の知識・技術の修得を図るように努力すること。		

授業科目	中枢神経障害の作業療法 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	中枢神経疾患における病態、症状について理解し、適切な評価を選択・実践できる。		
行動目標	①画像評価と病態及び作業療法評価について説明できる。 ②疾患特異的な評価の主たるものを模擬実践できる。 ▶脳血管障害 ▶外傷性脳損傷 ▶高次脳機能障害		
キーワード	画像評価、脳血管障害、作業療法評価		
スケジュール			
1回目	脳血管障害(被殻・視床・小脳・脳幹) 画像所見を学ぶ①		
2回目	脳血管障害(被殻・視床・小脳・脳幹) 画像所見を学ぶ②		
3回目	脳血管障害(被殻・視床・小脳・脳幹) 病態・症状について学ぶ①		
4回目	脳血管障害(被殻・視床・小脳・脳幹) 病態・症状について学ぶ①		
5回目	高次脳機能障害について学ぶ①		
6回目	高次脳機能障害について学ぶ①		
7回目	脳血管障害の代表的な評価について学ぶ①		
8回目	脳血管障害の代表的な評価について学ぶ①		
9回目	脳血管障害の代表的な評価 実技演習①		
10回目	脳血管障害の代表的な評価 実技演習②		
11回目	脳血管障害の代表的な評価 実技演習③		
12回目	外傷性損傷の画像所見を学ぶ		
13回目	外傷性脳損傷の病態・症状について学ぶ		
14回目	外傷性脳損傷の代表的な評価について学ぶ		
15回目	外傷性脳損傷の代表的な評価 模擬演習		
評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50% 上記にて総合的に評価します。		
教科書	リハに役立つ検査値の読み方・とらえ方 羊土社 PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方第3版国試画像問題攻略 医歯薬出版 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 編集 山口昇、玉垣努 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 MEDICAL VIEW		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	中枢神経障害(脳血管障害)についての画像評価や各種代表的な評価法を学ぶ科目となります。 今後、多くの脳血管障害の対象者の方と関わる機会が多くなると思いますので、積極的に講義へ望んで下さい。		

授業科目	中枢神経疾患の作業療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 9:00～17:20
一般目標	①身体障害分野において対象となる疾患の病態・特徴・関連して現れる症状を理解する。 ②病態から必要となる評価とその意味を知り、治療・訓練へのアプローチなど作業療法実施における過程を知る。		
行動目標	①疫学、予後について説明できる。 ②病因、症候について説明できる。 ③評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について説明できる。 ④リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤その他の治療について説明できる。		
キーワード	変性疾患 難病 画像所見(T1・T2・MRI)		
スケジュール			
1回目	脳血管疾患の病態、障害像について①(病型と臨床症状)		
2回目	脳血管疾患の病態、障害像について②、画像(CT、MRI等)		
3回目	脳血管疾患の病態・特徴および医学的治療		
4回目	脳血管疾患の評価・作業療法目標・作業療法治療の過程について		
5回目	ケーススタディ①		
6回目	ケーススタディ②		
7回目	ケーススタディ③		
8回目	ケーススタディ④		
9回目	外傷性脳損傷の病態・分類・特徴について		
10回目	外傷性脳損傷の医学的治療と作業療法との関連について		
11回目	腫瘍の病態・特徴について		
12回目	腫瘍の医学的治療と作業療法との関連について		
13回目	てんかん・視覚障害・聴覚障害の関連について①		
14回目	てんかん・視覚障害・聴覚障害の関連について②		
15回目	まとめ		
評価方法	①定期試験 ②小テストなどの成果物 上記の2点で複合評価にて行う。		
教科書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 編集 山口昇、玉垣努 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 長崎重信監修 MEDICAL VIEW		
参考書・資料等	<資料>講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書>随時、紹介する。		
履修上の注意	作業療法治療を理解する上において、各疾患の知識が必要不可欠である。 疾病について事前・事後学習に努めること。		

授業科目	中枢神経障害の作業療法Ⅲ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	中枢神経疾患(神経変性疾患・神経筋疾患)における病態、症状について理解し、適切な評価・治療原理を選択・実践できる。		
行動目標	①画像評価と病態及び作業療法評価について説明できる。 ②疾患特異的な評価の主たるものを模擬実践できる。 ③疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ④疾患ごとの予後について説明できる。 ⑤治療原理について説明できる。 ▶神経変性疾患(パーキンソン病、ALS、脊髄小脳変性症) ▶神経筋疾患(MS、ギランバレー症候群、重症筋無力症) ▶嚥下障害		
キーワード	難病、作業療法評価、治療原理		
スケジュール			
1回目	パーキンソン病の画像所見と病態及び作業療法評価について学ぶ		
2回目	パーキンソン病の生活障害の特性・予後、治療原理についてについて学ぶ		
3回目	ALSの画像所見と病態及び作業療法評価について学ぶ		
4回目	ALSの生活障害の特性・予後、治療原理についてについて学ぶ		
5回目	脊髄小脳変性症の画像所見と病態及び作業療法評価について学ぶ		
6回目	脊髄小脳変性症の生活障害の特性・予後、治療原理についてについて学ぶ		
7回目	多発性硬化症の画像所見と病態及び作業療法評価について学ぶ		
8回目	多発性硬化症の生活障害の特性・予後、治療原理についてについて学ぶ		
9回目	ギランバレー症候群の画像所見と病態及び作業療法評価について学ぶ		
10回目	ギランバレー症候群の生活障害の特性・予後、治療原理についてについて学ぶ		
11回目	重症筋無力症の画像所見と病態及び作業療法評価について学ぶ		
12回目	重症筋無力症の生活障害の特性・予後、治療原理についてについて学ぶ		
13回目	嚥下障害の画像所見と病態及び作業療法評価について学ぶ①		
14回目	嚥下障害の画像所見と病態及び作業療法評価について学ぶ②		
15回目	嚥下障害の生活障害の特性・予後、治療原理についてについて学ぶ		
評価方法	筆記試験 100%		
教科書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 編集 山口 昇、玉垣 努 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 MEDICAL VIEW		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	中枢神経障害(難病)についての治療理論・実践について学ぶ科目となります。 今後、多くの脳血管障害の対象者の方と関わる機会が多くなると思いますので、積極的に講義へ望んで下さい。		

授業科目	運動器疾患の作業療法 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーション対象疾患について病学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。		
行動目標	①画像評価と病態及び作業療法評価について説明できる。 ②疾患特異的な評価の主たるものを模擬実践できる。 ▶脊髄損傷 ▶末梢神経損傷 ▶関節リウマチ ▶骨関節疾患 ▶手外科 ▶熱傷		
キーワード	整形外科疾患、画像評価、整形外科疾患における作業療法評価、		
スケジュール			
1回目	脊髄損傷の画像評価、病態及び作業療法評価について学ぶ		
2回目	脊髄損傷における作業療法評価について学ぶ		
3回目	脊髄損傷における作業療法評価 実技演習		
4回目	末梢神経損傷の画像評価、病態及び作業療法評価について学ぶ		
5回目	末梢神経損傷における作業療法評価について学ぶ		
6回目	末梢神経損傷における作業療法評価 実技演習		
7回目	関節リウマチの画像評価、病態及び作業療法評価について学ぶ		
8回目	関節リウマチにおける作業療法評価について学ぶ		
9回目	関節リウマチにおける作業療法評価 実技演習		
10回目	骨関節疾患の画像評価、病態及び作業療法評価について学ぶ		
11回目	骨関節疾患における作業療法評価を学び、実技演習		
12回目	手外科の画像評価、病態及び作業療法評価について学ぶ		
13回目	手外科における作業療法評価を学び、実技演習		
14回目	熱傷の画像評価、病態及び作業療法評価について学ぶ		
15回目	熱傷における作業療法評価を学び、実技演習		
評価方法	筆記試験 100%		
教科書	標準整形外科学 第14版 中村利孝 医学書院		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	作業療法臨床において対象となることの多い疾患であり、専門領域につながる重要な科目である。暗記だけではなく、疾病の成り立ちを理解するように事前・事後学習に努めること。		

授業科目	運動器疾患の作業療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	整形疾患(骨折、関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷など)の原因、病理、症状を理解し、作業療法評価および治療の選択ができる。		
行動目標	① 疫学、予後について説明できる。 ② 病因、症候について説明できる。 ③ 評価、検査、診断について説明できる。 ④ リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤ その他の治療について説明できる。 ⑥ 整形外科の一般的疾患について説明できる。		
キーワード	整形疾患、退行性疾患、中枢神経疾患		
スケジュール			
1回目	靭帯損傷 診断と病態、症状と治療について		
2回目	炎症性疾患 骨・関節・軟部組織における感染症の代表的疾患		
3回目	慢性関節疾患① 変形性関節症の診断、病態、症状、外科的治療		
4回目	慢性関節疾患② 痛風の病態、症状、外科的治療		
5回目	代謝性疾患 骨粗鬆症、くる病・骨軟化症の診断、病態外科的治療		
6回目	骨・軟部組織腫瘍 発生及び診断、病態と外科的治療		
7回目	脊椎疾患① 脊椎(頸椎・胸腰椎)疾患の診断、病態、症状		
8回目	脊椎疾患② 脊椎(頸椎・胸腰椎)疾患の検査・評価・治療		
9回目	熱傷① 熱傷の診断と検査(重症度・範囲)、病態、症状、合併症		
10回目	熱傷② 熱傷の検査、評価、治療		
11回目	切断① 切断の診断と分類、病態、症状、合併症		
12回目	切断② 切断の検査、評価、治療および装具の適応		
13回目	脊髄損傷① 脊髄損傷の分類・種類、病態、症状、合併症		
14回目	脊髄損傷② 脊髄損傷のADL障害および評価(ザンコリー機能分類など)		
15回目	脊髄損傷③ 脊髄損傷の治療、作業療法介入		
評価方法	筆記試験100%		
教科書	標準整形外科学 第14版 内田淳正 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 整形外科学第5班 執筆 染矢富士子 菊池尚久 医学書院		
参考書・資料	作業療法学全書 改定第3版 身体障害 中村隆一著 協同医書出版社 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 長崎重信監修 MEDICAL VIEW 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 山口昇 玉垣努 李 範爽 医学書院		
履修上の注意	整形外科領域における作業療法を理解する上において、各疾患の知識が必要不可欠である。疾病について事前・事後学習に努めること。		

授業科目	義肢装具学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーション対象疾患について病学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。		
行動目標	①義肢装具に関わる作業療法士の役割について説明できる。 ⑦スプリントについて説明・作成できる。 ②上肢切断について説明できる。 ⑧下肢装具について説明できる。 ③義手の基本構造について説明できる。 ⑨頸椎体幹装具について説明できる。 ④義手の適合判定について説明できる。 ⑩疾患ごとの装具について説明できる。 ⑤筋電義手について説明できる。 ▶脳卒中 ▶脳性まひ ▶関節リウマチ ▶頸髄損傷 ⑥下肢切断・義足について説明できる ▶骨折 ▶腱損傷 ▶末梢神経損傷 ⑦上肢装具について説明できる。		
キーワード	各種装具の特徴・特性 装具療法 給付制度		
	スケジュール		
1回目	装具学総論		
2回目	上肢装具・義手について①		
3回目	上肢装具・義手について②		
4回目	上肢装具・義手について③		
5回目	下肢装具について		
6回目	足継手、下肢装具のチェックアウト		
7回目	足継手の制御機構について		
8回目	CVA片麻痺装具について		
9回目	対麻痺装具について		
10回目	整形外科的装具		
11回目	末梢神経損傷における装具について		
12回目	頸椎・胸腰椎疾患の装具		
13回目	側弯装具・小児装具		
14回目	関節リウマチの装具について		
15回目	補装具における給付制度について		
評価方法	筆記試験 100%		
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 単行本 羊土社		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	実際の装具を装着体験してもらうことがあります。数やサイズに限りがあるため、全員に装着してもらうことは難しいですが、動きやすい服装(私服で可)でお願いします。		

授業科目	内部障害系疾患の作業療法 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金(8:30～9:20)
一般目標	内部障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。		
行動目標	①それぞれの疾患の疫学、予後について説明できる。 ②病因、症候について説明できる。 ③検査(画像・生理検査を含む)、診断について説明できる。 ④それぞれの一般的疾患について説明できる。 ⑤疾患ごとの評価と作業療法プログラムを立案できる。		
キーワード	COPD、間質性肺炎、心筋梗塞、狭心症、大動脈瘤、糖尿病、腎不全、がん		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 内部障害総論		
2回目	①呼吸器疾患(解剖学・生理学)		
3回目	①呼吸器疾患(知識・検査データ・治療)		
4回目	①呼吸器疾患(障害評価と作業療法プログラム)		
5回目	①COPDレポート作成(1)		
6回目	①COPDレポート作成(2)		
7回目	②循環器疾患(解剖学・生理学)		
8回目	②循環器疾患(知識・検査データ・治療)		
9回目	②循環器疾患(障害評価と作業療法プログラム)		
10回目	③代謝障害(解剖学・生理学)		
11回目	③糖尿病(知識・検査データ・治療)		
12回目	③糖尿病(障害評価と作業療法プログラム)		
13回目	③腎不全(知識・検査データ・治療)		
14回目	③腎不全(障害評価と作業療法プログラム)		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験、小テスト、授業態度にて総合的に判断します。 ※授業態度とは授業に取り組む姿勢、意欲等、授業の進行を妨げる等の不適切な行動をとっている学生に対し、教員から注意を受けたにもかかわらず改善が見られず、同じ内容で注意された場合、定期テストの点数より5点減点とする。		
教科書	指定なし(講義資料は授業ごとに配布)		
参考書・資料等	・イラストでわかる内部障害、上杉雅之 監修、堀江淳 編集、医歯薬出版株式会社 ・身体障害作業療法学2 内部疾患編 第1版、小林隆司 編集、羊土社 ・内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝、石川明 種村留美 総編集 野田和恵 総編集、中山書店 ・動画でわかる呼吸リハビリテーション第5版、高橋仁美 宮川哲夫 塩谷隆信 編集、中山書店 ・作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション 第2版、石川朗 監修 仙石泰仁 編集、中山書店 ・緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション、島崎寛将 他 編集、中山書店 ・作業療法技術ガイド第4版、石川齊 古川宏 編集主幹、文光堂		
履修上の注意	授業の理解には、解剖学・生理学・内科学の知識が必須です。予習・復習を行いましょ。		

授業科目	内部障害系疾患の作業療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	高度化する医療ニーズに対応するため、観察力、判断力を養うとともに救急救命学の基礎を習得する。		
行動目標	①疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ②疾患ごとの予後について説明できる。 ③疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる ▶呼吸器疾患 ▶循環器疾患 ▶がん ▶糖尿病 ▶サルコペニア ▶泌尿器疾患		
キーワード	呼吸器、循環器、がん、糖尿病、サルコペニア、泌尿器		
	スケジュール		
1回目	呼吸器疾患の生活障害の特性・予後について学ぶ		
2回目	呼吸器疾患の作業療法について学ぶ		
3回目	呼吸器疾患の作業療法について実技演習		
4回目	循環器疾患の生活障害の特性・予後について学ぶ		
5回目	循環器疾患の作業療法について学ぶ		
6回目	循環器疾患の作業療法について実技演習		
7回目	がんの生活障害の特性・予後について学ぶ		
8回目	がんの作業療法について学ぶ		
9回目	がんの作業療法について実技演習		
10回目	糖尿病の生活障害の特性・予後、作業療法について学ぶ		
11回目	糖尿病の作業療法について実技演習		
12回目	サルコペニアの生活障害の特性・予後、作業療法について学ぶ		
13回目	サルコペニアの作業療法について実技演習		
14回目	泌尿器疾患の生活障害の特性・予後、作業療法について学ぶ		
15回目	泌尿器疾患の作業療法について実技演習		
評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50% 上記にて総合的に評価します。		
教科書	イラストでわかる内部障害、上杉雅之 監修、堀江淳 編集、医歯薬出版株式会社 身体障害作業療法学2 内部疾患編 第1版、小林隆司 編集、羊土社 内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝、石川明 種村留美 総編集 野田和恵 総編集、中山書店		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します		
履修上の注意	授業の理解には、解剖学・生理学・内科学の知識が必須です。予習・復習を行いましょ。		

授業科目	小児疾患の作業療法Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	脳性麻痺・二分脊椎・遺伝子病など運動機能に影響のある小児疾患を中心に説明することができる		
行動目標	①疫学・予後・病因・症候について説明できる ②評価や検査、診断方法について説明できる ③小児疾患における生活障害について説明・考えることができる ④小児疾患における適切な作業療法やアプローチ方法について説明・実践することができる		
キーワード	脳性麻痺、二分脊椎、ダウン症、染色体異常、悪性腫瘍、自閉症スペクトラム		
スケジュール			
1回目	イントロダクション(小児疾患の紹介)		
2回目	小児疾患の特徴について		
3回目	疾患の特徴と作業療法(脳性麻痺)		
4回目	疾患の特徴と作業療法(脳性麻痺)		
5回目	疾患の特徴と作業療法(二分脊椎)		
6回目	疾患の特徴と作業療法(二分脊椎)		
7回目	疾患の特徴と作業療法(ダウン症)		
8回目	疾患の特徴と作業療法(ダウン症)		
9回目	疾患の特徴と作業療法(悪性腫瘍)		
10回目	疾患の特徴と作業療法(悪性腫瘍)		
11回目	疾患の特徴と作業療法(遺伝子病・先天性奇形)		
12回目	疾患の特徴と作業療法(遺伝子病・先天性奇形)		
13回目	疾患の特徴と作業療法(自閉症スペクトラム)		
14回目	疾患の特徴と作業療法(自閉症スペクトラム)		
15回目	まとめ		
評価方法	レスポンスシート(小テスト)30%、筆記試験70%にて評価を行う。 ただし、授業態度が著しく悪い者(無発言・居眠り・進行妨害など)に対しては注意の後、減点とする。		
教科書	ゴールドマスターテキスト 第3版 発達障害作業療法学		
参考書・資料	講義前に資料をPDFにて配布する。 教科書・講義資料の他、必要に応じて、参考資料・文献などを紹介する。		
履修上の注意	子供の数が年々減少する一方で、先天性疾患の子供の数は増加傾向にあり、疾患を抱えた状態で生活をするために子供だけでなく家族へのサポートも重要となります。そのため、発達領域で働くための基礎知識や考え方を身に付けておくことは重要になります。		

授業科目	小児疾患の作業療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	正常発達と発達障害の違いと発達障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。		
行動目標	①疫学、予後、病因、症候について説明できる ③評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について説明できる。 ④リハビリテーション医療、その他の治療について説明できる。 ⑥小児の障害の一般的疾患について説明できる。 ⑦疾患ごとの生活障害の特性、予後について説明できる。 ⑨疾患ごとの評価と作業療法について説明・模擬実践できる。 ▶新生児疾患 ▶知的発達障害 ▶進行性筋ジストロフィー ▶重症心身障害 ▶自閉スペクトラム症 ▶学習症 ▶注意欠如・多動症		
キーワード	筋ジストロフィー、重症心身障害、学習障害、注意・多動症		
スケジュール			
1回目	新生児疾患の疫学、予後、病因、症候、評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について学ぶ		
2回目	新生児疾患の障害特性、予後、評価、治療を含めた作業療法を学ぶ		
3回目	知的発達障害の疫学、予後、病因、症候、評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について学ぶ		
4回目	知的発達障害の障害特性、予後、評価、治療を含めた作業療法を学ぶ		
5回目	進行性筋ジストロフィーの疫学、予後、病因、症候、評価、検査(画像・生理検査)、診断について学ぶ		
6回目	進行性筋ジストロフィーの障害特性、予後、評価、治療を含めた作業療法を学ぶ		
7回目	重症心身障害の疫学、予後、病因、症候、評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について学ぶ		
8回目	重心心身障害の障害特性、予後、評価、治療を含めた作業療法を学ぶ		
9回目	自閉スペクトラム症の疫学、予後、病因、症候、評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について学ぶ		
10回目	自閉スペクトラム症の障害特性、予後、評価、治療を含めた作業療法を学ぶ		
11回目	学習症の疫学、予後、病因、症候、評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について学ぶ		
12回目	学習症の障害特性、予後、評価、治療を含めた作業療法を学ぶ		
13回目	注意欠如・多動症の疫学、予後、病因、症候、評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について学ぶ		
14回目	注意欠如・多動症の障害特性、予後、評価、治療を含めた作業療法を学ぶ		
15回目	小児発達障害の作業療法		
評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50% 上記にて総合的に評価します		
教科書	発達過程作業療法学 第3版 加藤寿宏 編(医学書院) イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 監修(医歯薬出版株式会社) 作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学 第3版 長崎重信 監修(メジカルビュー)		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します		
履修上の注意	人間発達学・小児疾患の作業療法Ⅰの内容を踏まえた上での講義内容となりますので、授業の復習をしておいて下さい。		

授業科目	精神障害の作業療法Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	精神領域における作業療法を理解し、各疾患の回復過程に応じた作業療法の展開を考察できる。		
行動目標	①精神科作業療法の歴史を知り、精神科作業療法士の役割について説明することが出来る。 ②精神科作業療法で扱われる理論を知り、説明することが出来る。 ③精神科作業療法の導入から治療までの過程を理解し、説明することが出来る。 ④精神領域での評価手段、評価方法を理解し、それぞれ説明することが出来る。 ⑤疾患ごとの特性を理解し、治療手段を考察することができる。		
キーワード	精神障害 精神障害領域評価 精神障害領域治療		
スケジュール			
1回目/2回目	イントロダクション 精神科作業療法とは・・・/精神科医療状況概論		
3回目/4回目	精神科領域および精神科臨床の基礎理論		
5回目/6回目	精神科作業療法の基礎①・②		
7回目/8回目	統合失調症 病態学及び評価学①		
9回目/10回目	統合失調症 評価学②・③		
11回目/12回目	統合失調症 治療学及びケーススタディ		
13回目/14回目	気分障害 病態学及び評価学①		
15回目/16回目	気分障害 評価学②/治療学		
17回目/18回目	気分障害 治療学及びケーススタディ		
19回目/20回目	不安障害 病態学及び評価・治療学		
21回目/22回目	ストレス関連障害 病態学及び評価・治療学		
23回目/24回目	解離性障害(転換性障害) 病態学及び評価・治療学		
25回目/26回目	身体表現性障害 病態学及び評価・治療学		
27回目/28回目	パーソナリティ障害 病態学		
29回目/30回目	パーソナリティ障害 評価及び治療学		
評価方法	筆記試験 100%		
教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神科作業療法学 第3版 精神医学テキストー精神障害の理解と治療のために(改訂第5版)		
参考書等	<資料> 講義時に必要な資料は適宜配布する。 <参考書> 随時、紹介する。		
履修上の注意	作業療法思考過程を学ぶ過程である。 グループワークで多面的な考え方を共有し、適切な作業療法実践の為の知識・技術の修得を図るように努力すること。		

授業科目	精神障害の作業療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する		
行動目標	①疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ②疾患ごとの予後について説明できる。 ③疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。 ▶統合失調症 ▶気分障害 ▶神経症性障害 ▶パーソナリティー障害 ▶物質依存 ▶てんかん及びその他の精神障害		
キーワード	精神疾患、障害特性、作業療法治療		
スケジュール			
1回目/2回目	統合失調症の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
3回目/4回目	統合失調症の生活障害の特性、予後について学ぶ②		
5回目/6回目	統合失調症の作業療法の実践 実技演習		
7回目/8回目	気分障害の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
9回目/10回目	気分障害の生活障害の特性、予後について学ぶ②		
11回目/12回目	気分障害の作業療法の実践 実技演習		
13回目/14回目	神経症性障害の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
15回目/16回目	神経症性障害の作業療法の実践 実技演習		
17回目/18回目	パーソナリティー障害の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
19回目/20回目	パーソナリティー障害の作業療法の実践 実技演習		
21回目/22回目	物質依存の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
23回目/24回目	物質依存の作業療法の実践 実技演習		
25回目/26回目	てんかん及びその他の精神障害の生活障害の特性、予後について学ぶ①		
27回目/28回目	てんかん及びその他の精神障害の生活障害の特性、予後について学ぶ②		
29回目/30回	てんかん及びその他の精神障害の作業療法の実践 実技演習		
評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50% 上記について総合的に評価します		
教科書	ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 第3版 長崎重信監修 MEDICAL VIEW PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 精神医学 羊土社		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	教科書や資料はあるが、各疾患の特徴・治療について、自分でまとめられるようにしておくこと		

授業科目	高齢期の作業療法 I	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田茂久	オフィスアワー	月～金 9:00～17:20
一般目標	<p>①対象となる高齢者が年齢を重ねてもその人らしい生活を続けられるための援助を考えられるようになる。 ②高齢の方々を対象に、援助が必要な日常の作業は何か、どうすればその作業を行えるようになる、あるいは続けることができるかを考えられる視点を養うことができる。</p>		
行動目標	<p>①障害特性について説明できる。 ②障害ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。 [健康高齢者、虚弱高齢者、身体障害を持った高齢者、精神障害を持った高齢者、認知症] ③終末期リハについて説明できる。 ④予防作業療法について説明できる。</p>		
キーワード	診断、病態、治療		
スケジュール			
1回目	高齢社会、高齢期の課題、社会制度について①		
2回目	高齢社会、高齢期の課題、社会制度について②		
3回目	高齢期の作業療法、高齢期の一般的特徴①		
4回目	高齢期の作業療法、高齢期の一般的特徴②		
5回目	高齢期に多い疾患について①		
6回目	高齢期に多い疾患について②		
7回目	認知症(アルツハイマー、レビー小体、前頭側頭型、血管性、軽度認知症)①		
8回目	認知症(アルツハイマー、レビー小体、前頭側頭型、血管性、軽度認知症)②		
9回目	認知症(アルツハイマー、レビー小体、前頭側頭型、血管性、軽度認知症)③		
10回目	認知症(アルツハイマー、レビー小体、前頭側頭型、血管性、軽度認知症)④		
11回目	高齢期作業療法の実践①		
12回目	高齢期作業療法の実践②		
13回目	一般高齢者の作業療法、介護予防の作業療法①		
14回目	一般高齢者の作業療法、介護予防の作業療法②		
15回目	認知症高齢者の作業療法		
評価方法	<p>筆記試験、課題提出にて総合的に評価します。 筆記試験70%、課題提出30%</p>		
教科書	<p>標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版 医学書院 作業療法学ゴールドマスター 老年期作業療法学 MEDICAL VIEW社</p>		
参考書・資料等	<p>授業資料は都度、配布します。</p>		
履修上の注意	<p>作業療法士として老年期にあたる高齢者の方々と関わる機会は今後多くなっていきます。 高齢者の特性、罹患しやすい疾患など、作業療法介入を含めてしっかりと理解に努めてください。</p>		

授業科目	高齢期の作業療法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	高齢期作業療法における終末期リハ、介護予防について理解し、適切な作業療法を実践できるようにする。		
行動目標	①死の概念と定義や生物学的な個体の死を説明できる。 ②死に至る身体と心の過程を説明できる。その個別性にも共感配慮できる。 ③人生の最終段階における医療(エンド・オブ・ライフ・ケア)での患者とのコミュニケーション、頻度の高い苦痛とその対処法・ケアを説明できる。 ④人生の最終段階における医療での本人の意思決定、事前指示、延命治療、Do not attempt resuscitation、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控えの概念を説明できる。 ⑤患者の死後の家族ケア、終末期作業療法について説明できる		
キーワード	終末期リハ、介護予防、尊厳死と安楽死		
	スケジュール		
1回目	死の概念と定義や生物学的な個体の死について考え、学ぶ		
2回目	死に至る身体と心の過程およびその個別性について学ぶ		
3回目	人生の最終段階における医療(エンド・オブ・ライフ・ケア)での患者とのコミュニケーションを学ぶ		
4回目	人生の最終段階における医療における頻度の高い苦痛とその対処法・ケアについて学ぶ		
5回目	人生の最終段階における医療での本人の意思決定、事前指示、延命治療について学ぶ		
6回目	人生の最終段階における医療でのDo not attempt、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控えの概念		
7回目	患者の死後の家族ケア、終末期作業療法について学ぶ①		
8回目	患者の死後の家族ケア、終末期作業療法について学ぶ②		
9回目	予防作業療法の目的と意義について学ぶ①		
10回目	予防作業療法の目的と意義について学ぶ②		
11回目	予防に関連した評価について学ぶ		
12回目	予防に関連した評価 実技演習		
13回目	予防作業療法のプログラムについて学ぶ		
14回目	予防作業療法のプログラム体験 実技演習		
15回目	自助・共助を促進する方法について学ぶ		
評価方法	筆記試験 100%		
教科書	ゴールドマスターテキスト 高齢期障害作業療法 第3版 MEDICAL VIEW		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	今後、作業療法士として日常生活に障害を抱えた高齢者と関わっていくこととなります。高齢者の心理背景や各疾患の特性をしっかりと理解し、適切な作業療法を提供できるよう、積極的に講義へ参加してください。		

授業科目	高次脳機能障害の作業療法	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森	オフィスアワー	月～金(8:30～17:20)
一般目標	高次脳機能障害に関する基礎知識を習得し、作業療法士として現場で出会う方々の背景を理解できるようになる。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害の病態・障害特性について説明できる。 ・高次脳機能障害の障害ごとの予後について説明できる。 ・高次脳機能障害の障害ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。 		
キーワード	高次脳機能障害 半側空間無視(USN) 注意障害 遂行機能障害 感情と情動		
スケジュール			
1回目	ガイダンス Introduction		
2回目	高次脳機能障害の症状と特徴		
3回目	高次脳機能障害の種類と原因		
4回目	言語障害の特徴		
5回目	言語障害への介入		
6回目	記憶障害の特徴		
7回目	記憶障害への介入		
8回目	思考の障害の特徴		
9回目	思考の障害への介入		
10回目	行為・行動の障害の特徴		
11回目	行為・行動の障害への介入		
12回目	遂行機能障害の特徴		
13回目	遂行機能障害への介入		
14回目	社会的行動障害の特徴と介入		
15回目	後半のまとめ		
評価方法	小テスト(または提出課題)3割、筆記試験7割にて判断する。居眠りや無駄なおしゃべりなどで授業態度が悪く、注意しても改善されない場合は減点する。		
教科書	作業療法学 ゴールドマスターテキスト 高次脳機能障害作業療法学 第3版(メジカルビュー) 教科書や参考書等から講義資料を作成し配布します。		
参考書・資料等	参考資料：作業療法学 高次脳機能作業療法学 (医学書院) 適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	高次脳機能障害という症状は、外見からは「見えにくい症状」です。 「見えているのに、なぜわからないのか」「なぜうまくできないのか」という「高次脳機能障害」について理解し、治療を一緒に考えていきましょう。		

授業科目	日常生活活動学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	あたり前に行っている日常生活活動には多くの行程が含まれていることを理解し、障害を持つことでどのような事が困難となり、支援が必要となるかを作業療法士としての視点で考える。		
行動目標	①日常生活活動の概念について説明できる。 ▶起居・移動 ▶食事 ▶整容 ▶更衣 ▶排泄 ▶入浴 ▶睡眠・栄養・運動 ▶炊事 ▶掃除 ▶買い物・経済管理 ▶交通機関の利用 ▶通信 ▶趣味活動 ▶社会参加		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	身辺処理 起居動作とは…		
3回目	移乗動作とは…		
4回目	移動動作とは…		
5回目	食事動作とは…		
6回目	排泄動作とは…		
7回目	コミュニケーション・健康管理とは…		
8回目	整容動作とは…		
9回目	入浴動作とは…		
10回目	更衣動作とは…		
11回目	日常関連生活動作とは		
12回目	ICFについて		
13回目	参加・活動とは…		
14回目	症例紹介 ～ICFを活用して～		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験 100%		
教科書	作業療法学全書 日常生活動作 改定第3版		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	1つ1つの動作を行いながら理解し、OTとしてそれを専門用語を使用しながら説明できるように心がけてください。		

授業科目	日常生活活動演習 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	あたり前に行っている日常生活活動には多くの行程が含まれていることを理解し、障害を持つことでのどのような事が困難となり、支援が必要となるかを作業療法士としての視点で考える。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.人が生活を行う上での日常生活活動の役割を理解する。 2.ADLに対するOTの役割を理解する。 3.各ADL動作に必要な心身機能を理解する。 4.各ADLの行程を理解する。 5.実技を通して環境要因の重要性を理解する。 6.IADLに対するOTの役割を理解する。 		
キーワード	基本動作、ADLとIADL、QOL、ICF		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	身辺処理 起居動作とは…		
3回目	移乗動作とは…		
4回目	移動動作とは…		
5回目	食事動作とは…		
6回目	排泄動作とは…		
7回目	コミュニケーション・健康管理とは…		
8回目	整容動作とは…		
9回目	入浴動作とは…		
10回目	更衣動作とは…		
11回目	日常関連生活動作とは		
12回目	ICFについて		
13回目	参加・活動とは…		
14回目	症例紹介 ～ICFを活用して～		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(提出課題・小テスト3割)、定期試験7割で判断します。		
教科書	作業療法学全書 日常生活動作 改定第3版		
参考書・資料等	配布資料、その他、適宜指示する。		
履修上の注意	1つ1つの動作を行いながら理解し、OTとしてそれを専門用語を使用しながら説明できるように心がけてください。		

授業科目	日常生活活動学演習Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	生活行為向上マネジメント(MTDLP)の基本的な実施手順について理解する。		
行動目標	①生活行為向上マネジメントの背景について説明できる ②生活行為と生活行為の障害について説明できる。 ③生活行為向上マネジメントのプロセスについて説明できる ④生活行為向上マネジメントの各シートの使い方について説明できる。 ⑤模擬事例を通して、各シートの記載ができる。		
キーワード	生活行為向上マネジメント, MTDLP, インテーク, アセスメント, プランニング, モニタリング		
	スケジュール		
1回目	オリエンテーション		
2回目	生活行為向上マネジメントの概要		
3回目	生活行為向上マネジメントの考え方		
4回目	生活行為向上マネジメントのプロセス ①インテークにおける内容・流れ		
5回目	生活行為向上マネジメントのプロセス ②情報収集、ICF分析、予後予測、合意形成		
6回目	生活行為向上マネジメントのプロセス ③課題抽出、目標設定		
7回目	生活行為向上マネジメントのプロセス ④プランニングとプランの実施		
8回目	生活行為向上マネジメントのプロセス ⑤モニタリングと計画修正		
9回目	生活行為向上マネジメントの導入事例 ①急性期		
10回目	生活行為向上マネジメントの導入事例 ②回復期		
11回目	生活行為向上マネジメントの導入事例 ③維持期・生活期		
12回目	生活行為向上マネジメントの導入事例 ④発達障害		
13回目	事例検討①		
14回目	事例検討②		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験 50% 講義内成果物 50% 上記にて総合的に評価します。		
教科書	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 日本作業療法士協会 編著(医歯薬出版株式会社)		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	ICF、ADL、QOL、FIM、BI等の日常生活動作活動の用語を整理しておくことスムーズに理解が進みますので、復習をしておいて下さい。		

授業科目	地域作業療法学Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 9:00～17:00
一般目標	地域の人々の生活・文化・環境・社会経済構造等、地域の特性を捉える方法について説明できる。		
行動目標	①地域リハビリテーションの概念について説明できる ②地域作業療法を支える制度について説明できる ③実践の場に応じた作業療法について説明・考えることができる		
キーワード	通所リハビリ、訪問リハビリ、生活リハビリ、災害支援、介護保険。医療保険		
スケジュール			
1回目	地域リハビリテーションにおける作業療法		
2回目	通所・訪問リハビリテーションにおける作業療法		
3回目	地域リハビリテーションに関連する法制度		
4回目	病院から地域への移行について		
5回目	産業リハビリテーションにおける作業療法		
6回目	災害リハビリテーションにおける作業療法		
7回目	司法領域における作業療法		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	レスポンスシート(小テスト)30%、筆記試験70%にて評価を行う。 ただし、授業態度が著しく悪い者(無発言・居眠り・進行妨害など)に対しては注意の後、減点とする。		
教科書	ゴールドマスターテキスト 改訂第2版 地域作業療法学		
参考書・資料等	講義前に資料をPDFにて配布する。 教科書・講義資料の他、必要に応じて、参考資料・文献などを紹介する。		
履修上の注意	作業療法士の3割は病院など医療施設外で働いていると言われています。今後、作業療法士の活躍の場が増えていくことによって、病院だけでなく地域に目を向けざるを得ない状況になってくることが予想されます。そのため、地域で働くための基礎知識や考え方を身に付けておくことは重要になります。		

授業科目	地域作業療法学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地域作業療法学を学び、国家試験や臨床へと繋がる知識を身につける。		
行動目標	①職業の定義とキャリア発達について説明できる。 ②職業支援に関する理論について説明できる。 ③障害者の就労制度について説明できる。 ④就労支援における作業療法の役割について説明できる ⑤作業療法評価について説明・実践できる。 ⑥障害ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。 ▶精神障害 ▶身体障害 ▶高次脳障害 ▶知的障害 ▶発達障害		
キーワード	就労支援、就労支援における作業療法、就労制度		
スケジュール			
1回目	職業の定義とキャリア発達について学ぶ		
2回目	職業支援に関する理論について学ぶ		
3回目	障害者の就労制度について学ぶ		
4回目	就労支援における作業療法の役割について学ぶ		
5回目	作業療法評価について学ぶ		
6回目	作業療法評価 実技演習		
7回目	障害ごとの作業療法について学ぶ① ▶身体障害 ▶高次脳障害		
8回目	障害ごとの作業療法について学ぶ② ▶精神障害 ▶知的障害 ▶発達障害		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50% 上記にて総合的に評価します。		
教科書	地域作業療法学(作業療法学 ゴールド・マスター・テ 標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します。		
履修上の注意	地域における作業療法について学ぶ講義となります。 今後、作業療法士として地域で活躍する機会が増えるかと思っておりますので、積極的に参加してください。		

授業科目	地域作業療法学Ⅲ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地域作業療法学を学び、国家試験や臨床へと繋がる知識を身につける。		
行動目標	① 建築の基礎について説明できる。② 住宅改修の基礎技術について説明できる。 ③ 福祉用具供給システムについて説明できる。④ 福祉用具のアセスメントについて説明できる。 ⑤ 福祉用具の安全性について説明できる。⑥ 主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる ⑦ 簡単な自助具を作成できる。⑧ 福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。 ▶起居・移乗 ▶移動 ▶入浴 ▶更衣 ▶排泄 ▶食事 ▶家事 ▶余暇活動 ▶コミュニケーション		
キーワード	住宅改修、福祉用具、建築		
スケジュール			
1回目	建築の基礎について学ぶ①		
2回目	建築の基礎について学ぶ②		
3回目	住宅改修の基礎技術について学ぶ①		
4回目	住宅改修の基礎技術について学ぶ②		
5回目	福祉用具供給システムについて学ぶ①		
6回目	福祉用具供給システムについて学ぶ②		
7回目	福祉用具のアセスメントについて学ぶ①		
8回目	福祉用具のアセスメントについて学ぶ②		
9回目	福祉用具の安全性について学ぶ①		
10回目	福祉用具の安全性について学ぶ②		
11回目	主たる福祉用具について体験し、適用や選定を学ぶ①		
12回目	主たる福祉用具について体験し、適用や選定を学ぶ②		
13回目	簡単な自助具を作製演習①		
14回目	簡単な自助具を作製演習②		
15回目	簡単な自助具を作製演習③		
評価方法	筆記試験 50% 演習 50% 上記にて総合的に評価します		
教科書	地域作業療法学(作業療法学 ゴールド・マスター・テ 標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版		
参考書・資料等	適宜、講義資料を配布します		
履修上の注意	地域における作業療法について学ぶ講義となります。 今後、作業療法士として地域で活躍する機会が増えるかと思っておりますので、積極的に参加してください。		

授業科目	臨床実習 I (見学)	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法が実践されている現場や関連職種との関わりを見学し、一連の業務の内容を理解する。		
行動目標	医療職としてのマナーや倫理観を学び、専門職として意欲的に取り組む姿勢を習得する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	<p>実習前オリエンテーション及び実習後の報告会。 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の下、 臨床実習(見学)を行う。 レポート等の課題は必要に応じて、課される物とする。</p>		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度、事前準備状況、実習施設における態度、報告会にて判断します。		
教科書			
参考書・資料等	臨床実習の手引き		
履修上の注意			

授業科目	臨床実習Ⅱ(地域)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床における作業療法士の役割を地域実習を通して、包括的に体験する。 また、医療従事者としての基本的態度を学ぶ。		
行動目標	地域での作業療法士の役割を理解する。 訪問リハビリの内容と役割を理解できる。 各疾患を例に、地域での支援を理解し、その選択が行える。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	<p>本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導の下、臨床地域実習を行う。 臨床実習報告書を毎日指導者へ提出し、レポート等は必要に応じて課される。</p>		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	臨床実習指導者による評価と内容、学内での臨床地域実習報告会の発表内容、実習中の課題等の内容を総合的に評価する。		
教科書	特に無し。		
参考書・資料等	臨床実習の手引き		
履修上の注意			

授業科目	臨床評価実習	履修年次	2年次
		単位数	6単位
授業形態	実習	必要時間数	270時間(135コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床での評価技術を6週間の実習を通して、包括的に体験する。		
行動目標	CCSによる指導方法の下、見学・模倣・実施とCEの作業療法の思考・実践過程を体験する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	<p>実習期間:6週間 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学 修等を含めて45時間以内とする。</p> <p><内容> 1. 臨床評価実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で6週間の臨床評価実習を行う。 3. 臨床評価実習後オリエンテーション</p>		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導の下で、臨床評価実習を行う。 臨床評価実習報告書を毎日指導者へ提出及びレポート等の課題は必要に応じて課される。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	臨床実習の手引き		
履修上の注意			

授業科目	臨床総合実習	履修年次	3年次
		単位数	12単位
授業形態	実習	必要時間数	540時間(270コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法評価および治療技術を6週間×2回の臨床総合実習を通して、包括的に体験し習得する。		
行動目標	CCSによる指導方法の下、見学・模倣・実施とCEの作業療法の思考・実践過程を体験・実施できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	<p>実習期間:6週間×2回 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学 修等を含めて45時間以内とする。</p> <p><内容> 1. 臨床総合実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で6週間の臨床総合実習を行う。 3. 臨床総合実習後オリエンテーション</p>		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導の下で、臨床評価実習を行う。臨床評価実習報告書を毎日指導者へ提出及びレポート等の課題は必要に応じて課される。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	臨床実習の手引き		
履修上の注意			